

平成 18 年版

事業概要



財団法人 広島原爆障害対策協議会

# 目 次

## 財団法人広島原爆障害対策協議会(略称「広島原対協」)の概況

1 目 的	1
2 事 業	1
3 沿 革	1

## 組 織

1 広島原爆障害対策協議会の組織図	5
2 役 員	5
3 職 員	6

施 設	7
-----	---

## 平成 18 年度事業計画

1 被爆者の健康管理事業	8
2 被爆者の健康管理に関する調査研究事業	9
3 被爆者の援護福祉事業	9
4 老人保健法等による健康診査事業	10
5 健康増進事業	10
6 糖尿病予防事業	10
7 健康教育事業	11
8 広島市健康づくりセンターの管理運営	11
9 放射線被曝者医療の国際協力事業への協力	11

## 予 算

1 平成 18 年度予算	12
2 予算の推移	13

## 平成 17 年度事業実績

1 健康診断事業	
(1) 被爆者健康診断	14
ア 被爆者一般・精密検査の実施	14
イ 平成 17 年度被爆者一般・精密検査実施状況	15
ウ 被爆者がん検診等の実施	21
エ 平成 17 年度被爆者がん検診等実施状況	22
オ 原爆被爆者二世健康診断の実施	29
(2) 老人保健法健康診査等	30
ア 老人保健法健康診査等の実施	30
イ 平成 17 年度老人保健法健康診査等実施状況	31

2	被爆者の健康管理に関する調査研究事業	
(1)	調査研究の実施	41
(2)	第46回原子爆弾後障害研究会	41
(3)	被爆者健康診断資料の収集整理と活用	41
(4)	検診結果の統計処理	41
(5)	文献の収集及び資料の刊行	41
3	被爆者の援護福祉事業	
(1)	被爆者相談	42
(2)	被爆者の援護措置	42
(3)	職業補導	43
(4)	原爆被爆者有福温泉療養研究所の運営	44
4	健康増進事業	46
5	糖尿病予防対策事業	49
6	健康教育事業	51
7	放射線被曝者医療の国際協力事業への協力	53
8	平成17年研究業績	54

## 資 料

1	お年玉付郵便葉書に付加された寄付金配分金による実施事業	57
2	日本自転車振興会補助金による実施事業	58
3	車両競技公益資金記念財団補助金による実施事業	58
4	広島県補助金による実施事業	59
5	広島市補助金による実施事業	60
6	日本高等学校教職員組合等からの寄付金	61
7	全国から寄せられた寄付金	62
8	核兵器禁止平和建設国民会議からの寄贈物品	66
9	日本労働組合総連合会広島県連合会からの寄贈物品	66

# 財団法人広島原爆障害対策協議会（略称「広島原対協」）の概況

## 1 目的

この法人は、原爆障害の研究及び治療の対策並びに原爆障害者の援護の対策について審議し、その推進を図るとともに、原爆被爆者をはじめとする住民の健康の維持増進に寄与することを目的とする。

## 2 事業

この法人は前項の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 原爆被爆者の健康管理及び健康指導を行う事業
- (2) 原爆障害者の治療の研究及び原爆被爆生存者の実態調査
- (3) 原爆被爆者の生活相談及び生活援護並びに原爆障害治療に必要な援護を行う事業
- (4) 広島市健康づくりセンターの管理の受託
- (5) 原爆被爆者の健康診断その他の健診事業の受託
- (6) その他目的達成に必要な事業

## 3 沿革

昭和 20 年 8 月 6 日原子爆弾攻撃によって潰滅的な被害を蒙った広島市の被爆生存者達は、永い占領期間中悲惨な状態のまま放置されていたが、昭和 26 年の講和条約の締結、占領政治の終結を契機として「被爆者を救え」という声がおこった。

なかでも日頃ケロイド患者に接する広島市医師会・外科会に属する医師たちは、広島市医師会を動かして県・市当局に働きかけた。その結果、昭和 28 年 1 月、原爆障害者の医療を組織的に推進するために、広島県・広島市をはじめ、県・市医師会、大学医学部、官公立病院等が一体となって、「広島市原爆障害者治療対策協議会」（略称「原対協」）を結成して活動を開始した。

---

昭和 28 年 1 月	「広島市原爆障害者治療対策協議会」（略称「原対協」）の設立 事務局を広島市社会課内に設置
昭和 29 年 1 月	被爆者の合同診察を開始
2 月	原爆障害者の実態調査を実施
10 月	事務局を広島市民病院内に移設
昭和 30 年 5 月	原爆乙女 25 名の渡米治療に協力
昭和 31 年 4 月	「財団法人広島原爆障害対策協議会」（略称「広島原対協」）に改組、認可
9 月	原爆病院の完成とともに事務局を同病院内に移設
昭和 32 年 9 月	第 9 回保健文化賞、厚生大臣の表彰を受賞
昭和 33 年 2 月	原対協援護事業として原爆被爆者のうち生活困窮者を救済するため、生活援護金の給付を開始
11 月	お年玉付郵便葉書寄付金の配分団体に指定
昭和 34 年 6 月	第 1 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
昭和 36 年 4 月	「広島原爆被爆者福祉センター」建設工事落成
5 月	「広島原爆被爆者福祉センター」落成とともに事務局を同センター内に移設
6 月	第 3 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
7 月	被爆者健康診断、職業補導、生活相談等の業務を開始
8 月	『広島原爆医療史』を発刊

---

- 
- 昭和 38 年 10 月 「広島原爆被爆者健康管理所」を開設  
11 月 第 5 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
- 昭和 39 年 3 月 「広島原爆被爆者福祉センター」の暖房設備工事完成  
9 月 オデルカ・カメラを搭載した健康診断車「平和号」で被爆者の胃集団検診を開始
- 昭和 40 年 10 月 第 7 回「原子爆弾後障害研究会」を開催し研究講演集『20 年のまとめ』を発売
- 昭和 42 年 5 月 精密健康診断車(ひかり号)を購入  
6 月 日本自転車振興会・島根県・広島市・江津市の補助金を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」を建設、被爆者の入湯療養を開始
- 昭和 43 年 7 月 「広島原爆被爆者福祉センター」の新館増築工事並びに旧館改造工事落成  
10 月 第 9 回「原子爆弾後障害研究会」を開催  
11 月 自動分析機(オートアナライザー)を設置
- 昭和 44 年 2 月 日本自転車振興会・広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」暖房設備工事等完成  
3 月 テレビジョン X 線カメラを設置  
8 月 勤労被爆者のため、広島原爆被爆者福祉センターで日曜健診を開始  
続広島原爆医療史『被爆者とともに』を発売
- 昭和 45 年 4 月 子宮がん検診を開始  
5 月 「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の増築工事落成  
6 月 第 11 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
- 昭和 46 年 3 月 「広島原爆被爆者福祉センター」の増改築、空調設備改良工事完成  
6 月 第 12 回「原子爆弾後障害研究会」を開催  
「広島原爆被爆者福祉センター」開設 10 周年記念展示会を開催
- 昭和 47 年 5 月 全自動化学分析装置(ハイゼルマーク X)、自動血球計算装置(コールターカウンター)を設置
- 昭和 48 年 4 月 広島市の周辺町村合併にともなう被爆者健診対象者の大幅増加(約 17,000 人)により、出張健診班を 2 班編成  
6 月 第 14 回「原子爆弾後障害研究会」を開催  
8 月 被爆二世の不安を除去するため、被爆者の子に対する健康診断を開始(広島市委託事業)
- 昭和 49 年 5 月 自動血球計算装置搭載健康診断車(1 号車)を購入  
7 月 広島県・広島市からの助成により「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の冷房設備工事完成  
12 月 肺機能検査機(パンスパイロコンピューター)を設置
- 昭和 50 年 4 月 勤労被爆者のため月 1 回夜間健診を開始  
6 月 第 16 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
- 昭和 51 年 6 月 胃集検用テレビレントゲン設置及び自動血球計算装置を増設
- 昭和 52 年 6 月 第 18 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
- 昭和 53 年 7 月 車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の浴室増改築等工事完成  
X 線テレビジョン設置及び胸部一般撮影用 X 線装置を更新  
8 月 勤労被爆者のため月 1 回日曜出張健診を開始
- 昭和 54 年 4 月 被爆者の胃検診(昭和 62 年に名称を「胃がん検診」に変更)を開始(広島市委託事業)  
6 月 第 20 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
-

---

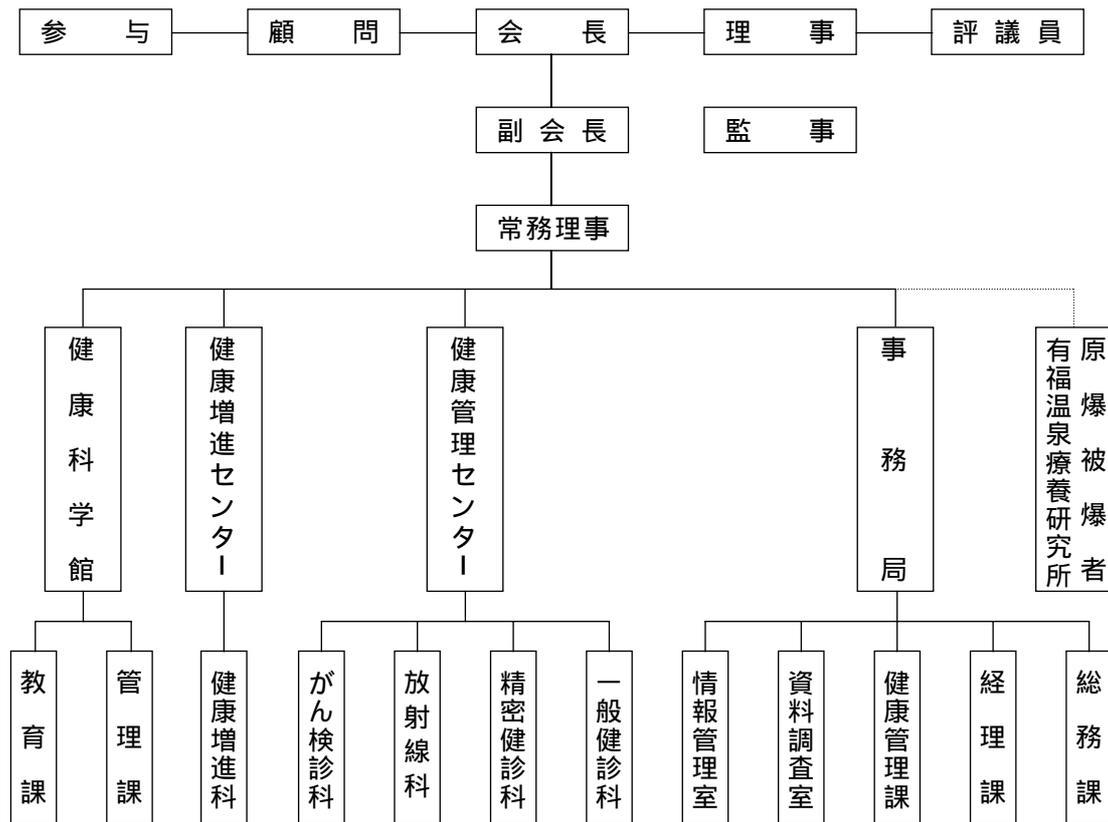
昭和 55 年 2 月	国の施策による被爆者二世健康診断を開始
8 月	自動血球分類装置(Diff-3)を設置
昭和 56 年 5 月	第 22 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
7 月	「広島原爆被爆者福祉センター」開設 20 周年記念パネル展示会を開催
10 月	広島県・広島市の補助を受け「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の屋根防水改修 その他工事完成
昭和 57 年 9 月	自動血球計算装置搭載健康診断車(2 号車)を購入
昭和 58 年 6 月	第 24 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
昭和 59 年 9 月	自動血球計算装置搭載健康診断車(1 号車)を更新
昭和 60 年 6 月	第 26 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
8 月	広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の車 庫上屋根新設工事等完成
昭和 61 年 7 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR501(立位専用システム)設置及び胃透視用 X 線テレビ装置更新
昭和 62 年 3 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR502(臥位専用システム)設置及び一般撮影用 X 線装置更新
4 月	被爆者の肺がん検診を開始(広島市委託事業)
6 月	第 28 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
8 月	車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆 者有福温泉療養研究所」の食堂拡張工事等施設整備工事完成
昭和 63 年 8 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR201、CR 専用 X 線透視撮影台及び CR 用光 ディスク画像ファイル装置を設置
8 月	国の施策による被爆者のがん検診(胃がん、肺がん、乳がん、子宮がん、多発性 骨髄腫)を開始
平成元年 3 月	自動血球計算装置(コールターカウンター)を更新及びフィルムデジタイザー、光 ディスク画像ファイル装置を設置
6 月	第 30 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
9 月	新規事業の受託に対応するため、寄付行為の一部を改正 「広島市総合健康センター」への移転に当たり、「広島原爆被爆者福祉センター」 の施設を広島市に寄贈 「広島市総合健康センター」の開館に伴い、診療所名を「広島原爆障害対策協議 会健康管理・増進センター」に改称 老人保健法健康診査及び結核定期健康診断を開始 CR 専用 X 線透視撮影台及び心電図自動解析データファイリングシステムを設置
平成 2 年 4 月	老人保健法基本健康診査(安佐南区、安佐北区、安芸区を除く)・結核定期健康診 断の出張健診及び老人保健法・被爆者の出張がん検診(安佐南区、安佐北区、安 芸区を除く)を開始
8 月	磁気共鳴画像診断装置(MRI)を設置
平成 3 年 3 月	夜間健診を中止
4 月	被爆者の大腸がん検診を開始(広島県・市委託事業)
6 月	第 32 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
8 月	X 線骨密度測定装置及び超音波診断装置を設置
平成 4 年 4 月	被爆者・老人保健法の安芸区の出張がん検診を開始

---

- 
- 5月 コンピューテッドラジオグラフィ CR7501 を更新
  - 8月 自動血球計算装置搭載健康診断車(2号車)を更新
  - 8月 「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の内部・外部改修工事等施設整備工事完成
  - 10月 国の施策による被爆者の大腸がん検診を開始
  - 11月 老人保健法による大腸がん検診を開始
  - 平成5年4月 被爆者・老人保健法の安佐南区・安佐北区の出張がん検診を開始
  - 6月 第34回「原子爆弾後障害研究会」を開催
  - 8月 胃集検用X線撮影装置(デジタルラジオグラフィ)を更新整備
  - 平成6年4月 事務局組織改正。2課1室を3課2室制に改める。
  - 5月 コンピューテッドラジオグラフィ CR9000 を更新
  - 9月 自動血球計算装置搭載健康診断車(1号車)を更新
  - 平成7年4月 被爆者の骨粗鬆症検診を開始(広島市委託事業)
  - 5月 原爆被爆50周年記念特別講演会を開催  
第36回「原子爆弾後障害研究会」を開催
  - 6月 内視鏡デジタルファイリングシステムを更新
  - 8月 CR用X線透視撮影装置を更新
  - 10月 市民を対象とする骨粗鬆症検診を開始(広島市委託事業)
  - 平成8年7月 CR用X線透視撮影装置を更新
  - 8月 既設MRI装置をバージョンアップ
  - 平成9年4月 市民を対象とするマンモグラフィによる乳がん検診を開始(広島市委託事業)
  - 6月 第38回「原子爆弾後障害研究会」を開催
  - 7月 X線骨密度測定装置を更新
  - 8月 「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の浴室・浴槽等改修工事完成
  - 平成10年8月 糖尿病予防対策事業を開始  
「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の屋上陸屋根防水工事完成  
コンピューテッドラジオグラフィ CR9000 及び心電図データマネジメントシステムを更新
  - 10月 C型肝炎ウイルス検査(肝がん検診)を開始(広島市委託事業)
  - 平成11年9月 DRシステムX線テレビ装置を整備
  - 平成12年9月 超音波診断装置を更新整備
  - 平成13年1月 MRI装置を更新整備
  - 平成14年3月 デジタル超音波診断装置を更新整備
  - 7月 自動血球計算装置を更新整備
  - 8月 「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の冷暖房設備改修工事完成
  - 平成15年7月 内視鏡検査システムを更新整備
  - 平成16年1月 乳房X線撮影装置を更新整備  
CRX線画像診断のオンラインネットワークシステムを更新整備
  - 4月 第二次CRX線画像診断のオンラインネットワークシステムを整備
  - 8月 全自動血球計算装置搭載健康診断車を更新整備
  - 平成17年8月 総合健診電算システムを更新整備
  - 12月 乳房X線撮影装置を更新整備
  - 12月 医用画像情報システムサーバーソフトウェアを拡張整備
  - 平成18年3月 職業補導事業を廃止
-

# 組 織

## 1 組 織 図



## 2 役 員

(平成18年7月1日現在)

役 職		氏 名	職 名
理事・評議員	会 長	真 田 幸 三	真田内科・外科クリニック理事長(前広島県医師会長)
	副会長	碓 井 静 照	広島県医師会長
	"	平 松 恵 一	広島市医師会長
	常務理事	古 川 義 紀	医療法人社団古川医院長
	"	沢 近 紀 夫	広島市医師会代議員会副議長
	"	松 井 正 治	広島市社会局長
	"	向 井 洋 一	広島原爆障害対策協議会事務局長
理事・参与		山 肩 俊 晴	広島市医師会副会長
		岸 本 昭 憲	広島市社会局保健部長
		松 村 司	広島市社会局原爆被害対策部長
		吉 清 哲 朗	広島原爆障害対策協議会健康科学館長
理事・評議員		有 岡 宏	広島県副知事
		新 木 一 弘	広島県福祉保健部長
		藤 田 博 之	広島市議会議長
		古 川 隆	広島市社会福祉協議会長
		浅 原 利 正	広島大学病院長
		鈴 木 文 男	広島大学原爆放射線医科学研究所長

役 職	氏 名	職 名
理事・評議員	土肥博雄	広島赤十字・原爆病院長
	大濱紘三	県立広島病院長
	岡崎富男	広島市民病院長
	鎌田七男	広島原爆被爆者援護事業団理事長
	横山行男	横山胃腸科内科医院長
	高田修	高田内科医院長
監事	島本学	島本外科内科医院理事長
	日域大陸	おおうち病院長
	二階堂英昭	広島市都市整備公社監事
評議員	片山賢治	広島県福祉保健部被爆者・毒ガス障害者対策室長
	小松昭紀	広島市歯科医師会長
	中川日出男	日本赤十字社広島県支部事務局長
	前田泰則	広島県薬剤師会長

## 職 員

(平成18年7月1日現在, 単位: 人)

事務局		健康管理センター		健康増進センター		健康科学館			
職種	人員	職種	人員	職種	人員	職種	人員		
事務局長	1	医 師	所 長	1	医 師	所 長	(1)	館 長	1
事務職員	22		部 長	(1)	医 師	部 長	1	保 健 師	1
相談員	1		常勤医師	5	医 師	常勤医師	1	事務職員	2
放射線技師	1		非常勤医師	18	看 護 師	2	栄養士(嘱託)	1	
自動車運転手	12		読影委員	42	栄 養 士	2	常勤嘱託	5	
事務嘱託	1		看 護 師	20	体 育 指 導 員	2			
		検 査 技 師	35	事 務 職 員	1				
		放 射 線 技 師	11						
		栄 養 士	1						
		薬 剤 師	1						
		事 務 職 員	15						
		事 務 嘱 託	4						
小 計	38	小 計	153	小 計	9	小 計	10		
						合 計	210		

注)( )は兼務職員数を示したものである。

## 施 設

広島市総合健康センターは、原爆被爆者を含めたすべての市民の健康をまもる拠点施設として、広島市と広島市医師会と本会の三者協力のもとに建設されたものであり、本会は、平成元年9月、この広島市総合健康センターの開館に伴い、国泰寺町の原爆被爆者福祉センターから移転した。

この敷地及び建物は広島市と広島市医師会がそれぞれ区分所有する合築施設であり、広島市が設置する施設は、「広島市健康づくりセンター」と称せられている。

本会は広島市が設置した「広島市健康づくりセンター」の管理運営を広島市から指定管理者の指定を受け、その業務を行っている。

- 1 所在地 広島市中区千田町三丁目8番6号
- 2 敷地 9,622.67 m<sup>2</sup> (広島市 5,122.67 m<sup>2</sup>、広島市医師会 4,500.00 m<sup>2</sup>)
- 3 建物 鉄筋コンクリート造 地下1階、地上6階建 延べ 15,916.26 m<sup>2</sup>

利用区分	面積
健康管理センター専用	3,179.01 m <sup>2</sup>
健康増進センター専用	253.37
事務局(援護部門含む)専用	1,000.42
健康科学館専用	2,442.13
広島市医師会専用	3,199.19
共用部分	5,842.14
合計	15,916.26

- 4 事業費 約90億円(広島市約65億円、広島市医師会約25億円)

# 平成18年度 事業計画

本協議会は、国・県・市の指導と協力を得て、広島市医師会並びに医師会員と密接な連携のもとに、平成18年度も引続き被爆者の健康管理事業の充実と福祉の増進を強力に推進する。

また、広島市の委託による老人保健法に基づく健康診査・結核予防法に基づく健康診断及び健康増進、健康教育並びに広島市健康づくりセンターの管理運営等の事業についても積極的に実施する。

- 1 被爆者の健康管理事業
- 2 被爆者の健康管理に関する調査研究事業
- 3 被爆者の援護福祉事業
- 4 老人保健法等による健康診査事業
- 5 健康増進事業
- 6 糖尿病予防事業
- 7 健康教育事業
- 8 広島市健康づくりセンターの管理運営
- 9 放射線被曝者医療の国際協力事業への協力

## 1 被爆者の健康管理事業

### (1) 健康診断の実施

被爆者の高齢化が進むなか、健康管理の一層の充実を期するため、健康診断体制の整備充実に努めるとともに、実施にあたっては、関係当局と連携のうえ受診率の向上を図る。

ア 被爆者が受診しやすいようにするため、地域特性や交通機関の状況等を総合的に検討し、健診日数及び健診会場の適正化を図る。

イ 被爆者の受診機会を多くするため、引続き日曜健診を実施し、受診サービスに努める。

ウ 被爆者健康診断の受診を促進するため、関係当局と連携して各種広報による啓発活動を積極的に行う。

エ 被爆者二世健康診断を実施する。

オ 実施目標	一般検査	34,000件	精密検査	33,000件
	胃がん検診	6,700件	肺がん検診	14,000件
	乳がん検診	2,700件	子宮がん検診	2,400件
	多発性骨髄腫検診	22,000件	大腸がん検診	12,000件
	骨粗鬆症検診	6,600件		

### (2) 健康診断医療機器等の整備

ア 全自動血球計算装置搭載健診車を年賀寄附金配分金を受けて更新整備する。

イ X線骨密度測定装置を更新整備する。

ウ デジタルX線透視撮影装置を更新整備する。

### (3) 健康管理の推進

被爆者ががん検診を積極的に推進するとともに、被爆者の高齢化に伴う諸状況を考慮し、特に次の事項に重点をおき、成果を期する。

ア 悪性新生物の発見

胃がん・肺がん・肝臓がん・甲状腺がん・乳がん・子宮がん・白血病・多発性骨髄腫・大腸がん等の発見に努め、広島大学医学部、同原爆放射線医科学研究所及び放射線影響研究所等の

協力を得て、積極的にこれらの検索を実施する。

#### イ 慢性疾患の発見と指導

循環器疾患・糖尿病等慢性疾患の増加傾向に対し、早期発見に努めるとともに、必要に応じて適切な生活指導及び栄養指導を行う。

## 2 被爆者の健康管理に関する調査研究事業

### (1) 調査研究の実施

下記の調査研究を行い、その成果は「原子爆弾後障害研究会」をはじめ関係各学会等に発表するほか、随時医学雑誌、会報その他機関紙に発表する。

#### ア「被爆者がん検診の意義に関する研究」(継続)

被爆者がん検診が開始(1988年)されて以来、本会で発見される新しいがん患者が著しく増加してきており、がん検診の成果と考えられ、これらの成績を踏まえてがん検診の意義、より効率的な検診のあり方、精度管理について広島大学原爆放射線医科学研究所の放射線分子疫学研究分野と協力して広島県腫瘍登録データを活用して検討を行う。

#### イ「被曝と悪性腫瘍発生に関する研究」(継続)

『ABS93D』の理論に基づく被曝線量の推定を行い、がん発生率と被曝の関連を検討する。

#### ウ「被爆者の糖代謝に関する研究」(継続)

#### エ「肺がんに関する研究」(継続)

#### オ「加齢に関する研究」(継続)

虚血性心疾患、脳血管障害、骨粗鬆症等の加齢関連疾患の有病率を検討するとともに、各種の関連要因(血圧・コレステロール・喫煙・栄養状況等)や被曝状況との関連を検討する。

### (2) 被爆者健康管理資料の整理

ア 受診者に関する健診資料(カルテ・レントゲンフィルム・心電図所見等)を分類整理し、レントゲンフィルムは医用画像情報システムに、心電図は光ディスクへ収録して保存する。

イ これら健康診断の実績、結果等の諸統計を作成するとともに、磁気テープとして保管し、調査研究資料の管理体制を整える。

### (3) 文献の収集

原子爆弾後障害に関する医学論文及び原爆関係図書・新聞等の資料を収集保存し、その活用を図る。

### (4) 原子爆弾後障害研究会への協力

第47回原子爆弾後障害研究会は、6月4日、長崎原爆資料館において開催されるので協力する。

## 3 被爆者の援護福祉事業

### (1) 被爆者相談の実施

被爆者の生活、健康及び医療についての相談に応じ、関係行政機関と連携のうえ必要な指導及び援助を行う。

### (2) 援護の実施

「原爆被爆者援護規程」に基づいて、被爆者の福祉の増進を図る。

ア 生活困窮者に対する援護金支給

イ 有福温泉療養者に対する交通費補助

ウ 被爆身体障害者等に対する見舞金支給

エ 福祉用具貸与・購入費利用補助金

オ その他必要と認める経費の一部補助

(3) 原爆被爆者有福温泉療養研究所の運営

原爆被爆者有福温泉療養研究所は、有福原爆被爆者温泉療養研究所運営協議会(会長江津市長)に運営を委託し、必要な支援を行うことにより、被爆者の福祉増進を図る。

また、温泉の送湯管が経年により劣化しているため、改修工事を実施して、療養環境の改善を図る。

## 4 老人保健法等による健康診査事業

(1) 老人保健法に基づく健康診査等の実施

老人保健法第 16 条の規定に基づく基本健康診査及びがん検診を健康づくりセンター及び出張健診会場において実施し、広島市の主体的取組みに連携して受診者のニーズに合った合理的な検診を行い、受診率の向上を図る。

実施目標	基本健康診査	19,500 件	胃がん検診	16,300 件
	乳がん検診	6,000 件	子宮がん検診	6,900 件
	肺がん検診	20,900 件	大腸がん検診	8,100 件

(2) 結核予防法に基づく健康診断の実施

結核予防法第 4 条第 3 項の規定に基づく健康診断を広島市の主体的取組みに連携して健康づくりセンター及び出張健診会場において実施し、健診による市民の健康管理を推進する。

実施目標 10,600 件

(3) 広島市の独自施策として行う骨粗鬆症検診を実施する。

実施目標 1,700 件

(4) 広島市の委託を受けて、C型肝炎ウイルス検査を実施する。

(5) 健康管理資料の整備

受診者に関する健診資料(カルテ・レントゲンフィルム・心電図)を整理し、保管する。また、カルテ保存システムによりカルテを記録・保存し、将来の活用に備える。

## 5 健康増進事業

健診による健康度のチェックに加え、体力測定、運動負荷テスト、栄養調査等を実施し、受診者一人ひとりに適した運動や生活における適正なプログラムを作るとともに、それに基づく運動・栄養等の指導を行うことにより、市民の健康の維持・増進を助長する。また、昨年に引続き県体協と連携して国体選手養成のためのメディカルチェックに取り組む。

実施目標 基本コース 1,450 件(うちスポーツ選手のメディカルチェック 100 件)  
精密コース 2,180 件

## 6 糖尿病予防事業

広島市の委託を受けて、糖尿病の発症を予防するために個々に応じた栄養指導・運動指導等、糖尿病予防対策事業を実施する。

## 7 健康教育事業

本格的な高齢社会を迎え、市民の健康に対する関心はますます高まってきている。時代の変化とともに多様化するニーズに対応できるよう、健康に関する最新情報をわかりやすく正確に提供するとともに、積極的に教育研修を実施し、日常における健康管理について正しい知識の普及を図る。

### (1) 健康科学展示施設の運営

- ア 企画展開催 4回
- イ パネル展 10回

### (2) 健康ライブラリーの運営

- ア 図書及びビデオを利用した学習の場の提供
- イ 健康情報提供システムによる健康情報の提供

### (3) 健康に関する教育研修の実施

- ア 主催による研修会 30回
- イ パパとママの育児教室 34回
- ウ 他の関係機関との共催による研修会 35回

### (4) ボランティア(ヘルスサポーター)の育成・活動事業

- ア ボランティアの育成事業 6回
- イ ボランティアの活動事業 95回

### (5) ファミリー・サポート・センターの運営

保護者の急な用事や残業の際の預かり、子育ての悩みなどに対応するため、ファミリー・サポート・センターを設置し、会員同士の子育てに関する相互援助活動を行うことにより、仕事と子育ての両立支援や地域における子育て支援機能の充実を図る。

### (6) つどいの広場の運営

子育て家庭の親と子供が気軽につどい、育児相談などを行う常設の場を設置することにより、子育ての負担感の緩和や地域の子育て支援の充実を図る。

## 8 広島市健康づくりセンターの管理運営

広島市から指定管理者の指定を受けて、広島市健康づくりセンターの施設の維持管理を行う。

## 9 放射線被曝者医療の国際協力事業への協力

### (1) 放射線被曝者医療国際協力推進協議会への協力

被爆地広島における放射線医療の経験とその蓄積を広く世界各地の放射線被曝者治療に役立てようと平成3年4月に発足した「放射線被曝者医療国際協力推進協議会(HICARE)」の主要推進団体として、協力する。

### (2) 来日被曝者の健康相談・医療相談等の実施

国外に居住する被曝者が来日の際、健康診断及び医療相談を実施するとともに、被曝者手帳の取得・更新に必要な手続きの相談にも応じるなど在外被曝者の援助を引続き行う。

# 予 算

## 1 平成18年度予算

(単位:千円)

科 目	一 般 会 計	健 康 管 理 センター	健 康 増 進 教 育 事 業 会 計	医 療 機 器 整 備 事 業 会 計	内 部 取 引 消 去	合 計
事業活動収入の部						
1. 事業活動収入	1					1
基本財産運用収入	282	2,571				2,853
特定資産運用収入		902,750				902,750
被爆者健康診断収入		386,230				386,230
老健法健康診断収入		23,111				23,111
結核住民健康診断収入		14,984				14,984
健康増進収入		17,618				17,618
糖尿病予防事業収入			155,266			155,266
委託収入			42,133			42,133
補助金収入	1,700					1,700
寄附金収入	1,923					1,923
雑収入	231,250	125,259		5,000		361,509
繰入金収入	235,156	1,472,523	2,951	29,755	263,956	1,971,345
事業活動収入計	235,156	1,472,523	2,951	29,755	263,956	1,971,345
2. 事業活動支出						
生活相対費支出	9,133					9,133
賃料統計費支出	39,163					39,163
健康診断費支出		1,193,585				1,193,585
調査研究費支出	1,530	8,895				10,425
後援研究会関係費支出			2,951			2,951
原爆被爆者対策費支出			83,172			83,172
健康増進費支出			102,580			102,580
健康教育費支出			11,647			11,647
ファミリーサポート・つどいの広場費支出		52,619				52,619
管理費支出	186,326	261,005				447,331
繰入金支出	2,951					2,951
事業活動支出計	239,103	1,516,104	2,951		263,956	1,691,601
事業活動収支差額	3,947	43,581	0	34,755	0	12,773
投資活動収入の部						
1. 投資活動収入						
特定預金取崩収入	11,475	258,446				269,921
固定資産売却収入		2				2
投資活動収入計	11,475	258,448	0	0	0	269,923
2. 投資活動支出						
特定資産取得支出	1,701	100,002				101,703
固定資産取得支出	3,827	94,865		34,755		133,447
投資活動支出計	5,528	194,867	0	34,755		235,150
投資活動収支差額	5,947	63,581	0	34,755		34,773
財務活動収入の部						
予備費支出	2,000	20,000				22,000
当期収支差額	0	0	0	0	0	0
前期繰越収支差額	0	0	0	0	0	0
次期繰越収支差額	0	0	0	0	0	0

## 2 予算の推移（当初）

（単位：千円）

区分	一般会計	健康管理 センター	援護福祉 事業会計	健康増進・ 教育事業	医療施設 機器整備	有福祉設 整備事業	調査研究 事業会計
昭和 59	163,860	595,880	6,530		42,920		3,200
60	183,270	667,760	6,550			13,680	3,900
61	189,660	642,570	6,660		76,000		3,080
62	206,350	700,480	6,840			24,220	3,600
63	200,290	900,210	6,920		156,000		2,500
平成元	258,150	1,113,540	7,130	* 31,860	74,480		
2	232,660	1,102,730	7,250	219,378	83,430		
3	231,380	1,225,446	7,300	228,813	29,272		
4	234,820	1,304,000	7,460	226,514	78,000	48,320	
5	251,145	1,426,009	7,460	237,346	65,000		
6	254,296	1,457,601	5,490	242,379	134,000		
7	264,258	1,501,111	5,490	236,133	70,000		
8	261,339	1,539,630	5,620	239,130	92,000		
9	270,202	1,616,905	5,720	258,077	66,675	39,000	
10	269,301	1,627,854	5,720	230,521	73,500	23,434	
11	261,547	1,706,081	5,720	225,093	32,550		
12	240,920	1,676,652	5,720	220,517	144,375		
13	247,573	1,583,371	5,720	215,629	16,485		
14	264,800	1,620,476	5,440	211,857	21,315	18,568	
15	266,107	1,631,841	5,440	207,251			
16	258,937	1,717,673	4,900	199,281	33,180		
17	263,298	1,733,638	3,231	196,592			
18	246,631	1,730,971	2,951	197,399	34,755		

\* 健康増進準備事務会計

# 平成17年度事業実績

## 1 健康診断事業

### (1) 被爆者健康診断

#### ア 被爆者一般・精密検査の実施

原爆被爆者の健康管理のため、広島県・広島市及び島根県、大阪府、東京都、山口県の委託を受けて、原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に基づく原爆被爆者の健康診断を行っている。この健康診断は、広島市総合健康センター及び市内の各集会所、公民館等を会場とする出張健診会場(毎日2~3カ所)の3会場(一部4会場)で実施しており、そのために健康診断班を3班(一部4班とし、1班約14名 - 医師を含む)編成している。

また、勤労被爆者のために、広島市総合健康センターで毎月第1・第3日曜日の日曜健診を実施しているほか、年間10回日曜出張健診も実施している。被爆者一般・精密検査の年度別実施状況は表1のとおりである。

表1 一般・精密検査の年度別実施状況

年度	一般検査		精密検査実施 件数(B)	精検受診率 (B)/(A)(%)	一般及び精密検査 延べ実施件数
	実施件数(A)	要精検者数			
昭和36	20,949	-	3,818	18.2	24,767
37	57,090	-	10,730	18.8	67,820
* 38	60,005	-	10,818	18.0	70,823
39	70,672	-	14,691	20.8	85,363
40	70,634	-	14,135	20.0	84,769
* 41	75,751	-	13,648	18.0	89,399
42	78,372	23,087	15,453	19.7	93,825
43	84,459	26,056	14,595	17.3	99,054
* 44	94,427	27,894	15,352	16.3	109,779
45	89,890	36,988	26,761	29.8	116,651
46	93,001	40,868	31,771	34.2	124,772
* 47	111,119	51,433	42,300	38.1	153,419
48	101,612	48,393	38,024	37.4	139,636
49	112,068	50,713	42,871	38.3	154,939
* 50	113,852	52,996	45,437	39.9	159,289
51	109,040	51,559	44,652	41.0	153,692
52	107,000	53,453	49,959	46.7	156,959
* 53	109,531	54,948	50,785	46.4	160,316
54	104,928	61,201	58,273	55.5	163,201
55	100,788	56,415	53,404	53.0	154,192
* 56	100,289	57,168	54,360	54.2	154,649
57	94,857	57,692	55,137	58.1	149,994
58	91,003	60,524	58,999	64.8	150,002
* 59	90,495	65,715	64,863	71.7	155,358
60	91,336	68,221	67,177	73.5	158,513
61	87,533	67,361	66,511	76.0	154,044
* 62	87,372	67,439	66,659	76.3	154,031
63	82,107	63,024	62,883	76.6	144,990
平成元	76,987	59,818	60,461	78.5	137,448
* 2	73,429	58,652	59,539	81.1	132,968
3	68,285	55,675	57,705	84.5	125,990
4	63,771	53,925	55,561	87.1	119,332
* 5	60,666	56,596	58,567	96.5	119,233
6	55,979	54,270	56,860	101.6	112,839
7	54,275	53,702	56,145	104.5	110,420
* 8	52,175	52,541	54,967	104.6	107,142
9	49,876	49,797	51,917	104.1	101,793
10	47,229	47,210	49,467	104.7	96,696
* 11	45,168	45,156	47,154	104.4	92,322
12	43,121	43,114	45,019	104.4	88,140
13	40,614	40,607	42,191	103.9	82,805
14	39,269	39,268	41,440	105.6	80,709
15	38,432	38,432	40,607	105.7	79,039
16	35,588	35,584	37,198	104.5	72,786
17	33,997	33,995	35,996	105.9	69,993

\* 手帳更新年度

精密検査受診者数が一般検査受診者数より多いのは、一般検査を他の医療機関で受診し、精密検査のみ当所で実施した人数を含んでいるためである。

イ 平成 17 年度被爆者一般・精密検査実施状況

平成 17 年度の一般検査の受診者数は 33,997 人、精密検査の受診者は 35,996 人であった。詳細は以下のとおりである。

(ア) 一般検査

平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日までの 1 年間の当施設及び延 503 回の出張健診会場での一般検査受診者延数は表 2a・b のとおりで、男性 14,186 人、女性 19,811 人、計 33,997 人で、前年度との比較では 1,591 人(男性 534 人、女性 1,057 人)の減少である。年齢構成は、男性、女性とも 70 歳代がピークとなっている。平均年齢±標準偏差は男性 71.3±7.2 歳、女性 72.4±7.8 歳、全体では 71.9±7.6 歳である。健診会場別に受診者をみると、施設は 12,073 人(35.5%)、出張健診会場は 21,924 人(64.5%)であり、前年度に比し、施設健診は 1,310 人の減少、出張健診は 281 人の減少である。

出張健診の区別の受診状況は表 2c に示すように、受診率は安芸区が 22.5% と最も高く、ついで安佐北区 19.1%、佐伯区 18.1% であり、全体では 14.7% である。前年度との比較では、各区とも受診率は横ばいもしくは低下傾向である。

一般検査受診者に対する要精検率は表 2d のとおり、男性、女性とも 100% である。

表 2 原爆 一般検査

a 受診者数

年齢 (歳)	男性		女性		計	
	人数(人)	%	人数(人)	%	人数(人)	%
58 ~ 59	276	1.9	391	2.0	667	2.0
60 ~ 69	5,504	38.9	6,878	34.7	12,382	36.4
70 ~ 79	7,042	49.6	8,816	44.5	15,858	46.6
80 ~ 102	1,364	9.6	3,726	18.8	5,090	15.0
計	14,186	100.0	19,811	100.0	33,997	100.0

b 健診会場別実施状況

区分	平成17年度(A)		平成16年度(B)		比較増減(A) - (B)	
	日数(日)	受診者数(人)	日数(日)	受診者数(人)	日数(日)	受診者数(人)
施設健診	316	12,073	316	13,383	0	1,310
出張健診	503	21,924	494	22,205	9	281
計	819	33,997	810	35,588	9	1,591

c 出張健診区別実施状況

(単位:日,人,%)

区分	平成17年度(A)				平成16年度(B)				比較増減(A) - (B)		
	日数	被爆者数	受診者数	受診率	日数	被爆者数	受診者数	受診率	日数	被爆者数	受診者数
中区	36	14,767	1,259	8.5	36	13,769	1,256	9.1	0	998	3
南区	80	22,867	3,104	13.6	80	23,117	3,277	14.2	0	250	173
西区	84	27,975	3,240	11.6	84	28,816	3,288	11.4	0	841	48
東区	60	16,326	2,502	15.3	61	16,885	2,556	15.1	1	559	54
安芸区	28	7,140	1,603	22.5	30	7,384	1,715	23.2	2	244	112
安佐南区	71	25,992	3,787	14.6	71	26,625	3,886	14.6	0	633	99
安佐北区	80	18,959	3,621	19.1	80	19,541	3,785	19.4	0	582	164
佐伯区	64	15,509	2,808	18.1	54	14,395	2,442	17.0	10	1,114	366
計	503	149,535	21,924	14.7	496	150,532	22,205	14.8	7	997	281

(被爆者数は年間の延べ健診通知数)

d 要精検率

年齢 (歳)	男性			女性			計		
	受診者数 (人)	要精密検査		受診者数 (人)	要精密検査		受診者数 (人)	要精密検査	
		人数(人)	%		人数(人)	%		人数(人)	%
58 ~ 59	276	276	100.0	391	391	100.0	667	667	100.0
60 ~ 69	5,504	5,504	100.0	6,878	6,876	100.0	12,382	12,380	100.0
70 ~ 79	7,042	7,042	100.0	8,816	8,816	100.0	15,858	15,858	100.0
80 ~ 102	1,364	1,364	100.0	3,726	3,726	100.0	5,090	5,090	100.0
計	14,186	14,186	100.0	19,811	19,809	100.0	33,997	33,995	100.0

(1) 精密検査

平成 17 年度の精密検査受診者延数は表 3a のとおり、男性 15,227 人、女性 20,769 人、計 35,996 人であり、前年度に比し男性は 354 人の減少、女性は 848 人の減少、全体では 1,202 人減少している。年齢別には一般検査と同様に男性、女性とも 70 歳代にピークがある。

要精検者に対する精検受診率は表 3b に示すように、男性 107.3%、女性 104.8%、計 105.9% といずれも 100% 以上である。これは一般検査を他の医療機関で受診し、精密検査のみ当所で実施した人数を含んでいるためである。

一般検査受診者に対する精検受診率は表 3c に示すように、男性 107.3%、女性 104.8%、計 105.9% である。

精密検査受診者に対して実施した主な検査項目は表 3d に示すように、肝機能検査が最も多く、ついで血糖検査、心電図検査、白血球分類、腎機能検査の順である。

精密検査の結果、何らかの疾病を有し、これに対して治療の必要なものを要治療者とし、経過観察、追加検査及び食生活指導の必要なものを要経過観察者として、これらの精密検査受診者に対する比率をみたのが表 3e・f である。要治療者については男女とも高血圧が最も多く、ついで糖尿病、肝機能障害の順である。要経過観察者についてみると、男性では高コレステロール血症、血沈促進、血尿の順に多くみられ、女性では、高コレステロール血症、血尿、貧血の順である。

平成 17 年度に新たに発見された悪性新生物症例は表 3g に示すとおり全体で 102 例あり、このうち最も多いのは多発性骨髄腫 19 例、ついで肺癌 17 例、胃癌 14 例、乳癌 12 例、大腸癌 10 例、甲状腺癌 7 例、前立腺癌 4 例である。被曝状況別には表 3h に示すように、2.0 km 以内の直接被曝者が 30 例、2.1 km 以上の直接被曝者が 32 例、入市・他が 39 例である。

表 3 原爆 精密検査

a 受診者数

年齢 (歳)	男性		女性		計	
	人数(人)	%	人数(人)	%	人数(人)	%
58 ~ 59	311	2.0	420	2.0	731	2.0
60 ~ 69	5,942	39.0	7,277	35.0	13,219	36.7
70 ~ 79	7,590	49.9	9,303	44.8	16,893	47.0
80 ~ 102	1,384	9.1	3,769	18.2	5,153	14.3
計	15,227	100.0	20,769	100.0	35,996	100.0

b 要精検者に対する精密検査受診率

年齢 (歳)	男性			女性			計		
	要精検者 (人)	精検受診者		要精検者 (人)	精検受診者		要精検者 (人)	精検受診者	
		人数(人)	%		人数(人)	%		人数(人)	%
58 ~ 59	276	311	112.7	391	420	107.4	667	731	109.6
60 ~ 69	5,504	5,942	108.0	6,876	7,277	105.8	12,380	13,219	106.8
70 ~ 79	7,042	7,590	107.8	8,816	9,303	105.5	15,858	16,893	106.5
80 ~ 102	1,364	1,384	101.5	3,726	3,769	101.2	5,090	5,153	101.2
計	14,186	15,227	107.3	19,809	20,769	104.8	33,995	35,996	105.9

c 一般検査受診者に対する精密検査受診率

年齢 (歳)	男性			女性			計		
	一般検査 受診者数 (人)	精検受診者		一般検査 受診者数 (人)	精検受診者		一般検査 受診者数 (人)	精検受診者	
		人数(人)	%		人数(人)	%		人数(人)	%
58 ~ 59	276	311	112.7	391	420	107.4	667	731	109.6
60 ~ 69	5,504	5,942	108.0	6,878	7,277	105.8	12,382	13,219	106.8
70 ~ 79	7,042	7,590	107.8	8,816	9,303	105.5	15,858	16,893	106.5
80 ~ 102	1,364	1,384	101.5	3,726	3,769	101.2	5,090	5,153	101.2
計	14,186	15,227	107.3	19,811	20,769	104.8	33,997	35,996	105.9

d 精密検査における主な検査項目と実施件数

検査項目	実施数 (件)	検査項目	実施数 (件)	検査項目	実施数 (件)
肝機能検査	34,045	細胞診検査	80	腹部超音波検査	1,376
腎機能検査	12,459	喀痰検査	23	心臓超音波検査	399
血糖検査	33,963	胸部レントゲン検査	1,833	心電図	14,920
貧血検査	4,125	骨部レントゲン検査	21	トレッドミル検査	65
リウマチ検査	1,371	乳房撮影	549	スパイロメトリー検査	35
ブドウ糖負荷試験	2,005	骨塩定量	507	胃内視鏡検査	753
Free T3	626	食道透視	29	大腸内視鏡検査	330
Free T4	934	胃透視	31	眼底検査	3,779
抗甲状腺抗体	2,416	腸透視	226		
白血球分類	14,232	M R	391		

e 要治療者の疾病分類

疾病区分	病名	男性		女性		計	
		例数	%	例数	%	例数	%
感 染 症	活 動 性 肺 結 核	0		0		0	
	そ の 他	7	0.05	7	0.04	14	0.04
悪 性 新 生 物	胃 癌	12		2		14	
	肺 癌	11		6		17	
	多 発 性 骨 髄 腫	9		10		19	
	結 腸 ・ 直 腸 癌	8		2		10	
	乳 癌	0		12		12	
	子 宮 癌	0	0.39	0	0.23	0	0.29
	前 立 腺 癌	4		0		4	
	膀 胱 癌	1		1		2	
	甲 状 腺 癌	3		4		7	
	食 道 癌	4		0		4	
そ の 他	4		8		12		
内 分 泌 ・ 代 謝 疾 患	糖 尿 病	2,592		1,864		4,456	
	甲 状 腺 腫	3		5		8	
	甲 状 腺 機 能 低 下 症	42	28.12	112	18.72	154	22.64
	甲 状 腺 機 能 亢 進 症	7		22		29	
そ の 他	1,345		1,705		3,050		
血 液 疾 患	貧 血	223		554		777	
	そ の 他	79	2.13	61	3.10	140	2.70
精 神 障 害 ・ 神 經 感 覚 器 疾 患	パ ー キ ン ソ ン	13		7		20	
	内 障	14	0.32	13	0.25	27	0.28
	そ の 他	19		29		48	
循 環 器 疾 患	高 血 圧 性 心 疾 患	4,379		5,837		10,216	
	高 血 圧 性 心 疾 患	4		5		9	
	虚 血 性 心 疾 患	195	34.03	131	31.02	326	32.28
	そ の 他 の 心 疾 患	188		128		316	
	脳 血 管 障 害	51		37		88	
そ の 他 の 循 環 器 疾 患	10		8		18		
呼 吸 器 疾 患	肺 炎	4		2		6	
	慢 性 気 管 支 炎	1		7		8	
	喘 息	16		30		46	
	肺 気 腫	18	0.44	1	0.30	19	0.36
	肺 線 維 症	4		4		8	
そ の 他	19		15		34		
消 化 器 疾 患	胃 潰 瘍	14		9		23	
	十 二 指 腸 潰 瘍	3		2		5	
	肝 機 能 障 害	1,278	9.38	987	5.22	2,265	6.96
	そ の 他	36		36		72	
泌 尿 ・ 生 殖 器 疾 患	腎 炎	77		35		112	
	腎 機 能 低 下 症	134		63		197	
	尿 路 感 染 症	5	7.15	11	0.86	16	3.48
そ の 他	798		61		859		
皮 膚 ・ 筋 骨 格 系 疾 患	リウマチ様関節炎	30		72		102	
	骨 粗 鬆 症	119	1.25	1,024	5.79	1,143	3.89
	そ の 他	28		51		79	
そ の 他	そ の 他	240	1.69	284	1.43	524	1.54
総 被 検 者 数		14,186		19,811		33,997	

f 要経過観察者の疾病分類

疾病区分	病名	男性		女性		計	
		例数	%	例数	%	例数	%
感 染 症	陳 旧 性 肺 結 核	16	0.12	6	0.05	22	0.08
	そ の 他	1		4		5	
新 生 物	胃 ポ リ ー プ	49	1.57	64	1.13	113	1.31
	そ の 他 の 良 性 新 生 物	174		160		334	
内 分 泌 ・ 代 謝 疾 患	耐 糖 能 低 下	506	27.39	388	37.07	894	33.03
	甲 状 腺 腫	2		24		26	
	そ の 他 の 内 分 泌 疾 患	59		207		266	
	高 コ レ ス テ ロ ー ル 血 症	2,757		6,326		9,083	
	高 脂 血 症	362		250		612	
そ の 他 の 代 謝 疾 患	199	148	347				
血 液 疾 患	貧 血	754	5.53	2,431	12.34	3,185	9.50
	そ の 他	31		13		44	
精 神 障 害 ・ 神 經 感 覚 器 疾 患	精 神 障 害	2	0.27	0	0.18	2	0.22
	神 經 感 覚 器 疾 患	37		35		72	
循 環 器 疾 患	高 血 圧	440	6.80	351	4.20	791	5.28
	高 血 圧 性 心 疾 患	0		0		0	
	虚 血 性 心 疾 患	4		11		15	
	そ の 他 の 心 疾 患	241		217		458	
	脳 血 管 障 害	47		76		123	
そ の 他 の 循 環 器 疾 患	232	177	409				
呼 吸 器 疾 患	喘 息	0	1.26	1	0.66	1	0.91
	肺 氣 腫	46		4		50	
	肺 線 維 症	11		5		16	
	そ の 他	122		121		243	
消 化 器 疾 患	胃 炎	292	13.58	178	7.32	470	9.94
	肝 機 能 障 害	1,328		1,050		2,378	
そ の 他	307	223	530				
泌 尿 ・ 生 殖 器 疾 患	腎 炎	146	3.15	100	1.95	246	2.45
	そ の 他	301		286		587	
皮 膚 ・ 筋 骨 格 系 疾 患	皮 膚 疾 患	2	6.53	3	10.50	5	8.84
	リ ウ マ チ 様 関 節 炎	7		20		27	
	骨 粗 鬆 症	899		2,032		2,931	
そ の 他 の 骨 関 節 疾 患	18	25	43				
そ の 他	血 尿	1,914	79.04	5,970	83.09	7,884	81.40
	蛋 白 尿	1,094		827		1,921	
	尿 糖	290		88		378	
	血 沈 促 進	2,713		2,658		5,371	
	そ の 他	5,202		6,918		12,120	
総 被 検 者 数		14,186		19,811		33,997	

g 当センターで発見した悪性新生物症例

No.	年齢	性別	被曝状況	病名
1	64	M	2.3km	胃癌(早期)
2	70	M	4.1km	胃癌(早期)
3	73	M	3号	胃癌(早期)
* 4	72	M	1.5km	胃癌(早期)
5	65	M	3.8km	胃癌(早期)
6	73	M	4.0km	胃癌(早期)
7	74	M	3号	胃癌(早期)
8	73	M	1.5km	胃癌(早期)
9	61	F	1.8km	胃癌(早期)
10	64	M	1.6km	胃癌(早期)
11	71	M	入市	胃癌(早期)
12	79	F	1.8km	胃癌
13	72	M	入市	胃癌
14	74	M	3号	胃 MALT リンパ腫
15	60	M	1.8km	肺癌
* 16	63	M	3号	肺癌
17	76	M	4.0km	肺癌
18	75	M	1.0km	肺癌
19	77	F	3号	肺癌
20	81	F	1.3km	肺癌
21	72	F	3.0km	肺癌
22	65	F	1.5km	肺癌
23	61	F	入市	肺癌
24	73	M	入市	肺癌
25	73	M	入市	肺癌
26	74	M	1.5km	肺癌
27	59	M	2.0km	肺癌
28	63	M	4.1km	肺癌
29	74	M	3号	肺癌
30	83	F	2.5km	肺癌
31	79	M	2.0km	肺癌
32	78	M	4.1km	結腸癌
33	78	M	入市	結腸癌
34	76	M	入市	結腸癌
35	79	M	2.0km	結腸癌
36	69	M	1.8km	結腸癌
37	67	M	みなし	直腸癌
* 38	82	F	2.0km	直腸癌
39	76	M	3.5km	直腸癌
40	75	M	入市	直腸癌
41	72	F	6.5km	直腸癌
42	73	M	3号	多発性骨髄腫
43	59	F	4号	多発性骨髄腫
44	66	M	3.0km	多発性骨髄腫
45	73	F	2.0km	多発性骨髄腫
46	85	F	5.0km	多発性骨髄腫
47	91	M	入市	多発性骨髄腫
48	72	F	3号	多発性骨髄腫
49	76	M	入市	多発性骨髄腫
50	60	F	入市	多発性骨髄腫
51	71	F	2.8km	多発性骨髄腫

No.	年齢	性別	被曝状況	病名
52	68	M	入市	多発性骨髄腫
53	78	F	2.5km	多発性骨髄腫
54	74	M	入市	多発性骨髄腫
55	78	M	4.5km	多発性骨髄腫
56	96	F	1.7km	多発性骨髄腫
57	75	F	2.5km	多発性骨髄腫
58	74	M	入市	多発性骨髄腫
59	87	F	入市	多発性骨髄腫
60	73	M	4.0km	多発性骨髄腫
61	79	F	3号	乳癌
62	63	F	4.0km	乳癌
63	64	F	0.9km	乳癌
64	83	F	1.5km	乳癌
65	79	F	2.3km	乳癌
66	65	F	2.0km	乳癌
67	65	F	3.0km	乳癌
68	63	F	1.5km	乳癌
69	77	F	入市	乳癌
70	73	F	入市	乳癌
71	71	F	入市	乳癌
72	70	F	2.0km	乳癌
73	63	M	4.1km	甲状腺癌
74	78	M	2.0km	甲状腺癌
75	61	F	3.0km	甲状腺癌
76	73	M	1.4km	甲状腺癌
77	74	F	2.3km	甲状腺癌
78	60	F	入市	甲状腺癌
79	81	F	3.0km	甲状腺癌
80	75	M	入市	前立腺癌
81	60	M	2.5km	前立腺癌
82	76	M	入市	前立腺癌
83	75	M	入市	前立腺癌
* 84	63	M	3号	食道癌
85	75	M	3.0km	食道癌
86	74	M	1.3km	食道癌
87	76	M	入市	食道癌
88	72	M	入市	十二指腸カルチノイド
89	60	M	4.0km	回腸悪性リンパ腫
90	61	F	入市	胆嚢癌
91	77	F	入市	胆嚢癌
92	79	M	2.7km	膀胱癌
93	76	F	4.0km	膀胱癌
94	76	F	0.7km	聴神経腫瘍
95	61	F	2.5km	聴神経腫瘍
96	71	F	4.1km	骨髄腫
97	60	F	2.0km	骨髄腫
98	76	F	入市	脾臓癌
99	75	M	1.3km	肝細胞癌
* 100	72	M	1.5km	転移性肝癌
* 101	82	F	2.0km	転移性肺癌

\* [No.4・No.100] [No.16・No.84] [No.38・No.101]  
は同一症例

原爆被爆者二世

1	53	F	二世	胃癌(早期)
---	----	---	----	--------

h 被曝状況にみた悪性新生物

性別	被曝状況	肺癌		大腸癌		胃癌		多発性骨髄腫		その他の癌		合計	
		例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
男性	2.0km以内	5	45.5	2	25.0	3	25.0	0	0.0	5	31.3	15	26.8
	2.1km以上	2	18.2	3	37.5	4	33.3	3	33.3	4	25.0	16	28.6
	入市・他	4	36.4	3	37.5	5	41.7	6	66.7	7	43.8	25	44.6
	計	11	100.0	8	100.0	12	100.0	9	100.0	16	100.0	56	100.0
女性	2.0km以内	2	33.3	1	50.0	2	100.0	2	20.0	8	32.0	15	33.3
	2.1km以上	2	33.3	1	50.0	0	0.0	4	40.0	9	36.0	16	35.6
	入市・他	2	33.3	0	0.0	0	0.0	4	40.0	8	32.0	14	31.1
	計	6	100.0	2	100.0	2	100.0	10	100.0	25	100.0	45	100.0
計	2.0km以内	7	41.2	3	30.0	5	35.7	2	10.5	13	31.7	30	29.7
	2.1km以上	4	23.5	4	40.0	4	28.6	7	36.8	13	31.7	32	31.7
	入市・他	6	35.3	3	30.0	5	35.7	10	52.6	15	36.6	39	38.6
	計	17	100.0	10	100.0	14	100.0	19	100.0	41	100.0	101	100.0

ウ 被爆者がん検診等の実施

被爆者がん検診(胃がん・肺がん・乳がん・子宮がん・多発性骨髄腫)は、被爆者の高齢化に伴う健康不安の増大等に対し、健康不安を解消するとともに健康管理の充実を図るため、昭和63年度から原子爆弾被爆者の医療等に関する法律(平成7年、原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に移行)に基づく被爆者健康診断の一環として導入されたものである。これは希望による健康診断2回のうち1回をがん検診として受診できることになっている。

平成2年度からは、胃がん・肺がん・乳がん・子宮がん検診を安佐南区、安佐北区及び安芸区を除く出張健診会場で実施し、平成4年度から安芸区、平成5年度から安佐南区、安佐北区の出張健診会場においても実施している。

また、平成4年度から大腸がん検診を実施している。

なお、平成7年度からは、広島市の施策として骨粗鬆症検診を施設において実施している。

被爆者がん検診の推移は表4、被爆者がん検診等の年度別実施状況は表5のとおりである。

表4 被爆者がん検診の推移

検診	検診会場	施設検診	出張検診		
			中区・南区・西区・東区・佐伯区	安芸区	安佐南区 安佐北区
胃がん検診	昭和63年8月～		平成2年4月～	平成4年4月～	平成5年4月～
肺がん検診					
乳がん検診					
子宮がん検診					
多発性骨髄腫検診					
大腸がん検診	平成4年10月～		平成4年10月～		
骨粗鬆症検診	平成7年4月～				

表5 被爆者がん検診等年度別実施状況

(単位：件)

年 度	胃がん検診	肺がん検診	乳がん検診	子宮がん	多発性骨髄	大腸がん	骨粗鬆症
昭和 54	2,165						
55	4,388						
56	2,843						
57	4,979						
58	5,446						
59	5,079						
60	5,142						
61	5,024						
62	4,973	201					
63	5,255	6,442	961	897	40,027		
平成元	3,848	8,052	809	751	43,045		
2	6,415	10,579	2,468	2,277	40,060		
3	5,976	10,964	2,304	2,135	40,418	4,018	
4	6,702	12,107	2,736	2,466	41,521	19,535	
5	8,095	14,189	3,630	3,390	34,909	18,306	
6	7,754	15,999	3,343	3,130	37,600	16,812	
7	8,034	16,522	3,305	3,105	36,347	16,196	3,995
8	7,953	16,104	3,288	3,094	30,677	16,657	3,891
9	7,835	15,764	3,155	2,959	33,103	15,619	5,605
10	7,574	15,148	2,783	2,649	31,304	15,029	6,055
11	7,878	15,542	2,947	2,779	28,068	15,105	6,597
12	7,686	15,523	3,024	2,876	28,793	14,472	7,000
13	7,244	14,967	2,860	2,715	26,898	13,901	6,848
14	7,161	15,596	2,843	2,724	26,131	13,669	7,211
15	7,215	15,573	2,907	2,736	25,502	13,375	7,516
16	6,950	14,650	2,864	2,548	23,823	12,453	7,193
17	6,809	14,135	2,590	2,405	22,804	12,288	6,580

昭和 62 年度までの胃がん検診、肺がん検診及び平成 3 年度の大腸がん検診は、広島市独自の法外援護事業として広島市の委託を受けて実施したものであり、昭和 63 年度以降（大腸がん検診は平成 4 年度以降）は国の制度として、広島県、広島市及び島根県、大阪府、山口県、東京都の委託を受けて実施したものである。

## エ 平成 17 年度被爆者がん検診等実施状況

平成 17 年度の被爆者がん検診等実施状況の詳細は以下のとおりである。

### (ア) 胃がん検診

胃がん検診における受診者は表 6a のとおり、男性 3,398 人、女性 3,411 人、計 6,809 人であり、要精検率はそれぞれ 7.3%、4.9%、6.1%、精検実施率はそれぞれ 92.0%、89.3%、90.9% である。要精検率は女性に比し男性はやや高率であり、年齢別に見ると、男性では一定の傾向は見られないが、女性では 80 歳以上が高率となっている。精検実施者における精検結果は表 6b に示すように、有所見率は男性 6.65%、女性 4.28%、全体では 5.46% であり、男性が女性に比し高率である。所見の内訳では、胃炎が 4.17% と最も高率で、ついで、胃ポリープ 1.51%、胃潰瘍 0.75% の順である。また、男性では胃炎、胃潰瘍、胃ポリープ、女性では胃炎、胃ポリープ、胃潰瘍の順である。

今年度新たに発見された癌症例は表 6c に示すように男性では胃癌 11 例、食道癌 3 例の計 14 例(0.41%)、女性は胃癌 3 例、食道癌 0 例の計 3 例(0.09%)、計 17 例(0.25%)で、推定発見率はそれぞれ 0.45%、0.10%、0.27% で男性に高率である。被曝状況別の胃癌発見率は、一定の傾向はみられない。

表6 原爆 胃がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数 (単位:人)

年齢 (歳)	男性					女性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
		% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>	% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>		% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>	% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>					
58～59	89	5	5.6	4	80.0	87	1	1.1	1	100.0	176	6	3.4	5	83.3
60～69	1,565	109	7.0	99	90.8	1,442	57	4.0	52	91.2	3,007	166	5.5	151	91.0
70～79	1,544	121	7.8	113	93.4	1,483	77	5.2	65	84.4	3,027	198	6.5	178	89.9
80～93	200	14	7.0	13	92.9	399	33	8.3	32	97.0	599	47	7.8	45	95.7
計	3,398	249	7.3	229	92.0	3,411	168	4.9	150	89.3	6,809	417	6.1	379	90.9

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数×100

<sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100

b 精検結果 (単位:人)

性	年齢 (歳)	精検所見												有所見者数		
		がん		胃潰瘍		胃ポリープ		十二指腸潰瘍		胃炎		その他				正常
		例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	
男性	59～59	0	0.00	0	0.00	2	2.25	0	0.00	3	3.37	1	1.12	0	4	4.49
	60～69	2	0.13	18	1.15	14	0.89	3	0.19	83	5.30	48	3.07	1	98	6.26
	70～79	12	0.78	18	1.17	19	1.23	5	0.32	86	5.57	63	4.08	2	111	7.19
	80～90	0	0.00	2	1.00	7	3.50	0	0.00	10	5.00	9	4.50	0	13	6.50
	計	14	0.41	38	1.12	42	1.24	8	0.24	182	5.36	121	3.56	3	226	6.65
女性	59～59	0	0.00	0	0.00	1	1.15	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	1	1.15
	60～69	1	0.07	2	0.14	21	1.46	2	0.14	37	2.57	22	1.53	0	52	3.61
	70～79	0	0.00	7	0.47	29	1.96	2	0.13	43	2.90	32	2.16	3	62	4.18
	80～90	2	0.50	4	1.00	10	2.51	0	0.00	22	5.51	9	2.26	1	31	7.77
	計	3	0.09	13	0.38	61	1.79	4	0.12	102	2.99	63	1.85	4	146	4.28
計	59～59	0	0.00	0	0.00	3	1.70	0	0.00	3	1.70	1	0.57	0	5	2.84
	60～69	3	0.10	20	0.67	35	1.16	5	0.17	120	3.99	70	2.33	1	150	4.99
	70～79	12	0.40	25	0.83	48	1.59	7	0.23	129	4.26	95	3.14	5	173	5.72
	80～90	2	0.33	6	1.00	17	2.84	0	0.00	32	5.34	18	3.01	1	44	7.35
	計	17	0.25	51	0.75	103	1.51	12	0.18	284	4.17	184	2.70	7	372	5.46

<sup>1</sup> 所見率: 所見例数/受診者数×100

c 被曝状況別に見た胃癌発見率 (単位:人,%)

性	被曝状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		胃癌症例		
			% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>	例数	発見率 <sup>3</sup>	推定発見率 <sup>4</sup>		
男性	2.0km以内直接被曝群	731	58	7.9	56	96.6	1	0.14	0.14
	2.1km以上直接被曝群	1,171	91	7.8	86	94.5	4	0.34	0.36
	入市・他群	1,496	100	6.7	87	87.0	9	0.60	0.69
	計	3,398	249	7.3	229	92.0	14	0.41	0.45
女性	2.0km以内直接被曝群	719	40	5.6	36	90.0	1	0.14	0.15
	2.1km以上直接被曝群	1,061	57	5.4	50	87.7	1	0.09	0.11
	入市・他群	1,631	71	4.4	64	90.1	1	0.06	0.07
	計	3,411	168	4.9	150	89.3	3	0.09	0.10
計	2.0km以内直接被曝群	1,450	98	6.8	92	93.9	2	0.14	0.15
	2.1km以上直接被曝群	2,232	148	6.6	136	91.9	5	0.22	0.24
	入市・他群	3,127	171	5.5	151	88.3	10	0.32	0.36
	計	6,809	417	6.1	379	90.9	17	0.25	0.27

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数×100

<sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数×100

<sup>3</sup> 発見率: 症例数/受診者数×100

<sup>4</sup> 推定発見率: 発見率/精検実施率×100

(1) 肺がん検診

肺がん検診の受診者は表 7aのとおり、男性 6,540 人、女性 7,595 人、計 14,135 人である。要精検率は男性 4.1%、女性 3.9%、計 4.0%と男性に高く、加齢に伴って増加の傾向を認める。精検実施率は男性 90.4%、女性 90.7%、全体では 90.5%である。精検結果は表 7bに示すように、有所見率は男性 3.32%、女性 3.19%、計 3.25%で、男性にやや高率で、加齢に伴って増加する傾向がみられる。所見の内訳では閉塞性肺疾患 0.41%、肺線維症 0.18%、胸膜炎 0.25%である。今年度新たに発見された肺癌症例は表 7cに示す如くで、男性 8 例(0.21%)、女性 7 例(0.12%)、計 15 例(0.09%)で、推定発見率はそれぞれ 0.14%、0.10%、0.12%である。被曝状況別には男女とも近距離被爆群の発見率が高い傾向であった。

表 7 原爆 肺がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数 (単位:人)

年齢(歳)	男 性				女 性				計				
	受診者数	要精検者数	精検実施者数		受診者数	要精検者数	精検実施者数		受診者数	要精検者数	精検実施者数		
		% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>			% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>			% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>		
58~59	162	2	1.2	2	177	7	4.0	7	339	9	2.7	9	100.0
60~69	2,874	99	3.4	92	2,979	94	3.2	89	5,853	193	3.3	181	93.8
70~79	3,066	144	4.7	129	3,342	134	4.0	122	6,408	278	4.3	251	90.3
80~98	438	25	5.7	21	1,097	65	5.9	54	1,535	90	5.9	75	83.3
計	6,540	270	4.1	244	7,595	300	3.9	272	14,135	570	4.0	516	90.5

<sup>1</sup> 要精検率:要精検者数/受診者数×100      <sup>2</sup> 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

b 精検結果 (単位:人)

性	年齢(歳)	精 検 所 見														有所見者数		
		が ん		肺結核		胸膜炎		閉塞性肺疾患		肺 炎		肺線維症		その他		正常	例数	% <sup>1</sup>
		例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>			
男性	59~59	1	0.62	0	0.00	0	0.00	1	0.62	0	0.00	0	0.00	3	1.85	0	2	1.23
	60~69	3	0.10	4	0.14	4	0.14	15	0.52	1	0.03	3	0.10	157	5.46	12	80	2.78
	70~79	4	0.13	8	0.26	12	0.39	26	0.85	9	0.29	11	0.36	210	6.85	14	115	3.75
	80~92	0	0.00	1	0.23	4	0.91	4	0.91	2	0.46	1	0.23	36	8.22	1	20	4.57
	計	8	0.12	13	0.20	20	0.31	46	0.70	12	0.18	15	0.23	406	6.21	27	217	3.32
女性	59~59	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.56	9	5.08	2	5	2.82
	60~69	0	0.00	1	0.03	4	0.13	5	0.17	1	0.03	3	0.10	154	5.17	11	78	2.62
	70~79	3	0.09	8	0.24	9	0.27	3	0.09	3	0.09	6	0.18	210	6.28	14	108	3.23
	80~93	4	0.36	1	0.09	3	0.27	4	0.36	3	0.27	0	0.00	96	8.75	3	51	4.65
	計	7	0.09	10	0.13	16	0.21	12	0.16	7	0.09	10	0.13	469	6.18	30	242	3.19
計	59~59	1	0.29	0	0.00	0	0.00	1	0.29	0	0.00	1	0.29	12	3.54	2	7	2.06
	60~69	3	0.05	5	0.09	8	0.14	20	0.34	2	0.03	6	0.10	311	5.31	23	158	2.70
	70~79	7	0.11	16	0.25	21	0.33	29	0.45	12	0.19	17	0.27	420	6.55	28	223	3.48
	80~93	4	0.26	2	0.13	7	0.46	8	0.52	5	0.33	1	0.07	132	8.60	4	71	4.63
	計	15	0.11	23	0.16	36	0.25	58	0.41	19	0.13	25	0.18	875	6.19	57	459	3.25

<sup>1</sup> 所見率:所見例数/受診者数×100

c 被曝状況別に見た肺癌発見率 (単位:人,%)

性	被 曝 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		肺 癌 症 例		
				% <sup>1</sup>		% <sup>2</sup>	例数	発見率 <sup>3</sup>	推定発見率 <sup>4</sup>
男性	2.0km以内直接被爆群	1,536	60	3.9	48	80.0	4	0.26	0.33
	2.1km以上直接被爆群	2,297	102	4.4	98	96.1	2	0.09	0.09
	入 市・他 群	2,707	108	4.0	98	90.7	2	0.07	0.08
	計	6,540	270	4.1	244	90.4	8	0.12	0.14
女性	2.0km以内直接被爆群	1,843	69	3.7	63	91.3	3	0.16	0.18
	2.1km以上直接被爆群	2,475	88	3.6	80	90.9	3	0.12	0.13
	入 市・他 群	3,277	143	4.4	129	90.2	1	0.03	0.03
	計	7,595	300	3.9	272	90.7	7	0.09	0.10
計	2.0km以内直接被爆群	3,379	129	3.8	111	86.0	7	0.21	0.24
	2.1km以上直接被爆群	4,772	190	4.0	178	93.7	5	0.10	0.11
	入 市・他 群	5,984	251	4.2	227	90.4	3	0.05	0.06
	計	14,135	570	4.0	516	90.5	15	0.11	0.12

<sup>1</sup> 要精検率:要精検者数/受診者数×100      <sup>2</sup> 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100  
<sup>3</sup> 発見率:症例数/受診者数×100      <sup>4</sup> 推定発見率:発見率/精検実施率×100

(ウ) 乳がん・子宮がん検診

乳がん検診の受診者数は表 8aのとおりで 2,590 人、子宮がん検診は 2,405 人である。要精検率は、乳がん検診が 3.7%、子宮がん検診が 0.4%である。また、精検実施率はそれぞれ 95.8%、80.0%である。表 8bにそれぞれの精検結果を示す。乳がん検診の有所見率は 2.01%で、60 歳代で高率である。

表 8 原爆 乳がん・子宮がん

a 受診者数, 要精検者数および精検実施者数 (単位:人)

	年齢 (歳)	受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>2</sup>
乳がん検診	59~59	74	1	1.4	1	100.0
	60~69	1,261	56	4.4	54	96.4
	70~79	1,028	30	2.9	29	96.7
	80~92	227	8	3.5	7	87.5
	計	2,590	95	3.7	91	95.8
子宮がん検診	59~59	72	0	0.0	0	0.0
	60~69	1,202	4	0.3	3	75.0
	70~79	944	4	0.4	4	100.0
	80~91	187	2	1.1	1	50.0
	計	2,405	10	0.4	8	80.0

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100

<sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施数/要精検者数 × 100

所見の内訳は乳腺症が 1.00%と最も多く、ついで乳癌 0.46%の順である。子宮がん検診の有所見率は 0.25%である。

今年度新たに発見された乳癌並びに子宮癌は表 8cに示す如くで、それぞれ 12 例(0.46%)、及び 1 例(0.04%)であり、推定発見率はそれぞれ 0.48%、0.05%である。また、被曝状況別には近距離被曝群の発見率が高い傾向がみられた。

b 精検結果 (単位:人)

乳がん検診	年齢 (歳)	精 検 所 見										有所見者数	
		が ん		線維腺腫		乳腺症		その他		正常	例数	% <sup>1</sup>	
		例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>				
59~59	0	0.00	0	0.00	1	1.35	1	1.35	0	1	1.35		
60~69	3	0.24	2	0.16	16	1.27	36	2.85	26	28	2.22		
70~79	8	0.78	1	0.10	6	0.58	21	2.04	11	18	1.75		
80~87	1	0.44	0	0.00	3	1.32	6	2.64	2	5	2.20		
計	12	0.46	3	0.12	26	1.00	64	2.47	39	52	2.01		

子宮がん検診	年齢 (歳)	精 検 所 見								有所見者数		
		が ん		中・高度異型上皮		軽度異型上皮		その他		正常	例数	% <sup>1</sup>
		例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>			
61~69	1	0.08	0	0.00	0	0.00	1	0.08	2	1	0.08	
70~79	0	0.00	1	0.11	0	0.00	7	0.74	0	4	0.42	
80~83	0	0.00	1	0.53	0	0.00	1	0.53	0	1	0.53	
計	1	0.04	2	0.08	0	0.00	9	0.37	2	6	0.25	

<sup>1</sup> 所見率: 所見例数/受診者数 × 100

c 被曝状況別に見た乳癌・子宮癌発見率 (単位:人, %)

乳がん検診	被曝状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		乳癌症例		
			例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>2</sup>	例数	発見率 <sup>3</sup>	推定発見率 <sup>4</sup>
	2.0km以内直接被曝群	597	24	4.0	22	91.7	3	0.50	0.55
	2.1km以上直接被曝群	838	27	3.2	26	96.3	4	0.48	0.50
	入市・他群	1,155	44	3.8	43	97.7	5	0.43	0.44
	計	2,590	95	3.7	91	95.8	12	0.46	0.48

子宮がん検診	被曝状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		子宮癌症例		
			例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>2</sup>	例数	発見率 <sup>3</sup>	推定発見率 <sup>4</sup>
	2.0km以内直接被曝群	538	2	0.4	1	50.0	1	0.19	0.37
	2.1km以上直接被曝群	759	2	0.3	1	50.0	0	0.00	0.00
	入市・他群	1,108	6	0.5	6	100.0	0	0.00	0.00
	計	2,405	10	0.4	8	80.0	1	0.04	0.05

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100

<sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

<sup>3</sup> 発見率: 症例数/受診者数 × 100

<sup>4</sup> 推定発見率: 発見率/精検実施率 × 100

(I) 多発性骨髄腫検診

多発性骨髄腫検診の受診者は22,804人であり、その内訳は男性9,382人、女性13,422人で、要精検率はそれぞれ4.0%、2.6%で全体では3.2%である。また、精検実施率は95.2%、94.9%、95.1%である(表9a)。精検結果は表9bのとおりで、有所見率は男性2.37%、女性1.27%、計1.72%で、その内訳で最も多くみられるのは前骨髄腫0.56%で、ついで良性M蛋白血症0.52%、骨髄腫0.45%、マクログロブリン血症0.17%の順である。骨髄腫症例は男性52例(0.55%)、女性50例(0.37%)、計102例(0.45%)である。今年度新たに発見された多発性骨髄腫症例は表9cに示すように、男性9例(0.10%)、女性10例(0.07%)、計19例(0.08%)で、それぞれの推定発見率は0.10%、0.08%、0.09%である。被曝状況別には新規骨髄腫症例の発見率に一定の傾向はみられない。

表9 原爆 多発性骨髄腫検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数 (単位:人)

年齢(歳)	男性				女性				計						
	受診者数	要精検者数	精検実施者数	精検実施者数	受診者数	要精検者数	精検実施者数	精検実施者数	受診者数	要精検者数	精検実施者数	精検実施者数			
		% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>	% <sup>2</sup>		% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>	% <sup>2</sup>		% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>	% <sup>2</sup>			
58~59	229	4	1.7	4	100.0	324	9	2.8	9	100.0	553	13	2.4	13	100.0
60~69	3,796	98	2.6	91	92.9	4,792	88	1.8	85	96.6	8,588	186	2.2	176	94.6
70~79	4,512	215	4.8	207	96.3	5,842	164	2.8	154	93.9	10,354	379	3.7	361	95.3
80~102	845	61	7.2	58	95.1	2,464	89	3.6	84	94.4	3,309	150	4.5	142	94.7
計	9,382	378	4.0	360	95.2	13,422	350	2.6	332	94.9	22,804	728	3.2	692	95.1

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100

<sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

b 精検結果

(単位:人)

性	年齢(歳)	精検所見									有所見者数	
		骨髄腫		前骨髄腫		マクログロブリン血症		良性M蛋白血症		M蛋白	例数	% <sup>1</sup>
		例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	(-)		
男性	59~59	0	0.00	0	0.00	2	0.87	0	0.00	2	2	0.87
	60~69	10	0.26	17	0.45	8	0.21	17	0.45	37	54	1.42
	70~79	31	0.69	44	0.98	15	0.33	35	0.78	79	128	2.84
	80~98	11	1.30	10	1.18	6	0.71	11	1.30	19	38	4.50
	計	52	0.55	71	0.76	31	0.33	63	0.67	137	222	2.37
女性	59~59	2	0.62	1	0.31	1	0.31	0	0.00	4	4	1.23
	60~69	6	0.13	12	0.25	1	0.02	19	0.40	47	38	0.79
	70~79	26	0.45	21	0.36	3	0.05	23	0.39	81	73	1.25
	80~96	16	0.65	23	0.93	2	0.08	13	0.53	28	55	2.23
	計	50	0.37	57	0.42	7	0.05	55	0.41	160	170	1.27
計	59~59	2	0.36	1	0.18	3	0.54	0	0.00	6	6	1.08
	60~69	16	0.19	29	0.34	9	0.10	36	0.42	84	92	1.07
	70~79	57	0.55	65	0.63	18	0.17	58	0.56	160	201	1.94
	80~98	27	0.82	33	1.00	8	0.24	24	0.73	47	93	2.81
	計	102	0.45	128	0.56	38	0.17	118	0.52	297	392	1.72

<sup>1</sup> 所見率: 所見例数/受診者数 × 100

c 被曝状況別に見た多発性骨髄腫発見率

(単位:人, %)

性	被曝状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		骨髄腫症例数		新規骨髄腫症例 <sup>1</sup>		
			% <sup>2</sup>	% <sup>3</sup>	% <sup>4</sup>	例数	発見率 <sup>4</sup>	推定発見率 <sup>5</sup>			
男性	2.0km以内直接被曝群	2,217	97	4.4	94	96.9	8	0.36	0	0.00	0.00
	2.1km以上直接被曝群	3,245	118	3.6	111	94.1	21	0.65	3	0.09	0.10
	入市・他群	3,920	163	4.2	155	95.1	23	0.59	6	0.15	0.16
	計	9,382	378	4.0	360	95.2	52	0.55	9	0.10	0.10
女性	2.0km以内直接被曝群	3,202	76	2.4	71	93.4	6	0.19	2	0.06	0.07
	2.1km以上直接被曝群	4,388	107	2.4	104	97.2	15	0.34	4	0.09	0.09
	入市・他群	5,832	167	2.9	157	94.0	29	0.50	4	0.07	0.07
	計	13,422	350	2.6	332	94.9	50	0.37	10	0.07	0.08
計	2.0km以内直接被曝群	5,419	173	3.2	165	95.4	14	0.26	2	0.04	0.04
	2.1km以上直接被曝群	7,633	225	2.9	215	95.6	36	0.47	7	0.09	0.10
	入市・他群	9,752	330	3.4	312	94.5	52	0.53	10	0.10	0.11
	計	22,804	728	3.2	692	95.1	102	0.45	19	0.08	0.09

<sup>1</sup> 今年度新たに発見された癌症例数

<sup>2</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者 × 100

<sup>3</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

<sup>4</sup> 発見率: 症例数/受診者数 × 100

<sup>5</sup> 推定発見率: 発見率/精検実施率 × 100

(オ) 大腸がん検診

大腸がん検診の受診者の内訳は表 10a に示すとおり、男性 5,256 人、女性 7,032 人、計 12,288 人であり、要精検率はそれぞれ 11.8%、8.1%、9.7% である。精検実施率は全体で 62.3% である。精検結果は表 10b に示す如くで、最も多いのは非腫瘍性ポリープ 1.61%、ついで腺腫 1.38%、大腸癌 0.25% の順である。

今年度新たに発見された大腸癌症例は表 10c のとおり男性 20 例(0.38%)、女性 9 例(0.13%)、計 29 例(0.24%) であり、推定発見率はそれぞれ 0.58%、0.22%、0.38% と男性に高率である。被曝状況別には一定の傾向はみられない。

表 10 原爆 大腸がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数 (単位:人)

年齢(歳)	男 性				女 性				計						
	受診者数	要精検者数	精検実施者数		受診者数	要精検者数	精検実施者数		受診者数	要精検者数	精検実施者数				
		% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>			% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>			% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>				
58~59	112	14	12.5	7	50.0	149	7	4.7	5	71.4	261	21	8.0	12	57.1
60~69	1,954	217	11.1	138	63.6	2,352	145	6.2	101	69.7	4,306	362	8.4	239	66.0
70~79	2,725	330	12.1	226	68.5	3,262	270	8.3	152	56.3	5,987	600	10.0	378	63.0
80~98	465	58	12.5	35	60.3	1,269	147	11.6	76	51.7	1,734	205	11.8	111	54.1
計	5,256	619	11.8	406	65.6	7,032	569	8.1	334	58.7	12,288	1,188	9.7	740	62.3

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100

<sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

b 精検結果 (単位:人)

性	年齢(歳)	精 検 所 見								有所見者数		
		が ん		腺 腫		非腫瘍性ポリープ		その他		正常	例数	% <sup>1</sup>
		例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>			
男性	58~59	0	0.00	2	1.79	3	2.68	5	4.46	2	5	4.46
	60~69	4	0.20	32	1.64	43	2.20	149	7.63	33	105	5.37
	70~79	15	0.55	63	2.31	68	2.50	217	7.96	51	175	6.42
	80~92	3	0.65	9	1.94	9	1.94	40	8.60	7	29	6.24
	計	22	0.42	106	2.02	123	2.34	411	7.82	93	314	5.97
女性	59~59	0	0.00	2	1.34	2	1.34	4	2.68	1	4	2.68
	60~69	1	0.04	20	0.85	24	1.02	105	4.46	30	71	3.02
	70~79	4	0.12	22	0.67	36	1.10	147	4.51	52	101	3.10
	80~98	4	0.32	19	1.50	13	1.02	61	4.81	30	47	3.70
	計	9	0.13	63	0.90	75	1.07	317	4.51	113	223	3.17
計	58~59	0	0.00	4	1.53	5	1.92	9	3.45	3	9	3.45
	60~69	5	0.12	52	1.21	67	1.56	254	5.90	63	176	4.09
	70~79	19	0.32	85	1.42	104	1.74	364	6.08	103	276	4.61
	80~98	7	0.40	28	1.61	22	1.27	101	5.82	37	76	4.38
	計	31	0.25	169	1.38	198	1.61	728	5.92	206	537	4.37

<sup>1</sup> 所見率: 所見例数/受診者数 × 100

c 被曝状況別に見た大腸癌発見率 (単位:人,%)

性	被 曝 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		大 腸 癌 症 例		
			% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>	例数	発見率 <sup>3</sup>	推定発見率 <sup>4</sup>		
男性	2.0km以内直接被曝群	1,180	129	10.9	90	69.8	4	0.34	0.49
	2.1km以上直接被曝群	1,740	204	11.7	118	57.8	6	0.34	0.60
	入 市・他 群	2,336	286	12.2	198	69.2	10	0.43	0.62
	計	5,256	619	11.8	406	65.6	20	0.38	0.58
女性	2.0km以内直接被曝群	1,567	145	9.3	82	56.6	3	0.19	0.34
	2.1km以上直接被曝群	2,253	164	7.3	98	59.8	3	0.13	0.22
	入 市・他 群	3,212	260	8.1	154	59.2	3	0.09	0.16
	計	7,032	569	8.1	334	58.7	9	0.13	0.22
計	2.0km以内直接被曝群	2,747	274	10.0	172	62.8	7	0.25	0.41
	2.1km以上直接被曝群	3,993	368	9.2	216	58.7	9	0.23	0.38
	入 市・他 群	5,548	546	9.8	352	64.5	13	0.23	0.36
	計	12,288	1,188	9.7	740	62.3	29	0.24	0.38

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100

<sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

<sup>3</sup> 発見率: 症例数/受診者数 × 100

<sup>4</sup> 推定発見率: 発見率/精検実施率 × 100

(カ) 骨粗鬆症検診

骨粗鬆症検診は、高齢化に伴う寝たきり被爆者が増加している現状に鑑み、その要因の一つである骨折を予防し、寝たきりを防止するために、広島市独自の施策として平成7年4月より実施されている。受診者の内訳は表11aに示すとおりで男性2,922人、女性3,658人、計6,580人であり、女性における関心の高さが示されている。

「減少あり」と判定された有所見率は男性35.3%、女性80.2%である。女性は男性に比して高率であり、高度減少者の比率は、高齢になるほど高かった。被曝状況別にみた結果を表11bに示すが、男女とも被曝状況別に差は認められない。

表11 原爆 骨粗鬆症検診

a 受診者数および結果 (単位:人)

性	年齢(歳)	受診者数	測定結果					
			減少なし	減少あり				計
			軽度	中等度	高度			
男性	58～59	67	38	16	11	2	29	43.3
	60～69	1,380	908	296	126	50	472	34.2
	70～79	1,350	873	276	146	55	477	35.3
	80～98	125	71	29	20	5	54	43.2
	計	2,922	1,890	617	303	112	1,032	35.3
女性	59～59	89	20	33	20	16	69	77.5
	60～69	1,691	341	481	507	362	1,350	79.8
	70～79	1,522	284	313	459	466	1,238	81.3
	80～96	356	79	78	83	116	277	77.8
	計	3,658	724	905	1,069	960	2,934	80.2
計	58～59	156	58	49	31	18	98	62.8
	60～69	3,071	1,249	777	633	412	1,822	59.3
	70～79	2,872	1,157	589	605	521	1,715	59.7
	80～98	481	150	107	103	121	331	68.8
	計	6,580	2,614	1,522	1,372	1,072	3,966	60.3

<sup>1</sup> 所見率: 所見例数/受診者数 × 100

b 被曝状況別に見た骨密度測定結果

性	被曝状況	受診者数	測定結果					
			減少なし	減少あり				計
			軽度	中等度	高度			
男性	2.0km以内直接被爆群	745	456	169	91	29	289	38.8
	2.1km以上直接被爆群	1,057	700	226	90	41	357	33.8
	入市・他群	1,120	734	222	122	42	386	34.5
	計	2,922	1,890	617	303	112	1,032	35.3
女性	2.0km以内直接被爆群	958	190	254	272	242	768	80.2
	2.1km以上直接被爆群	1,232	256	316	356	304	976	79.2
	入市・他群	1,468	278	335	441	414	1,190	81.1
	計	3,658	724	905	1,069	960	2,934	80.2
計	2.0km以内直接被爆群	1,703	646	423	363	271	1,057	62.1
	2.1km以上直接被爆群	2,289	956	542	446	345	1,333	58.2
	入市・他群	2,588	1,012	557	563	456	1,576	60.9
	計	6,580	2,614	1,522	1,372	1,072	3,966	60.3

<sup>1</sup> 所見率: 所見例数/受診者数 × 100

オ 原爆被爆者二世健康診断の実施

原爆被爆者二世の健康面での不安を除く等のために、昭和 48 年度から、広島市の事業として委託を受けて健康診断を開始し、昭和 54 年度からは、財団法人日本公衆衛生協会の事業（国が協会に委託している事業）、平成 13 年度からは国が広島県・広島市に委託している健康診断事業を実施している。

なお、平成 2 年度からは東京都の健康診断事業もあわせて委託を受けて行っている。

健康診断は、被爆者の場合と同様に一般検査と精密検査になっている。

原爆被爆者二世健康診断の実施状況は表 12 の表のとおりである。

表 12 原爆被爆者二世健康診断実施状況

(単位：件)

年 度	一般検査	精密検査	精検実施率 (%)	年 度	一般検査	精密検査	精検実施率 (%)
昭和 48	578	580	100.3	平成元	2,417	1,161	48.0
49	109	110	100.9	2	2,078	1,127	54.2
50	82	83	101.2	3	2,132	1,219	57.2
51	51	51	100.0	4	2,309	1,520	65.8
52	131	129	98.5	5	2,508	1,610	64.2
53	124	126	101.6	6	2,297	1,698	73.9
54	1,942	1,768	91.0	7	2,391	1,936	81.0
55	1,041	626	60.1	8	2,475	2,138	86.4
56	854	494	57.8	9	2,867	2,309	80.5
57	995	572	57.5	10	2,786	2,796	100.4
58	1,152	663	57.6	11	3,201	3,202	100.0
59	1,551	853	55.0	12	3,711	3,711	100.0
60	1,798	1,072	59.6	13	3,762	3,762	100.0
61	1,967	1,155	58.7	14	2,919	2,919	100.0
62	2,250	1,314	58.4	15	3,150	3,150	100.0
昭和 63	2,780	1,551	55.8	16	2,483	2,483	100.0
				17	2,678	2,678	100.0

(2) 老人保健法健康診査等

ア 老人保健法健康診査等の実施

広島市総合健康センターへ移転した平成元年9月から、住民の健康管理を推進するため、広島市の委託を受け、老人保健法に基づく基本健康診査、がん検診、結核予防法に基づく健康診断等を実施している。その概要は表1、検査項目は表2、実施状況は表3のとおりである。

表1 検診内容・検診区域の推移

検診項目	検診会場	出張検診			
		施設検診	中区・南区・西区・東区・佐伯区	安芸区	安佐南区
老健法基本健康診査	元.9~	2.4~	4.4~	10.4~*	10.4~*
胃がん検診				5.4~	
肺がん検診		8.4~			
乳がん検診		2.4~	4.4~	5.4~	
子宮がん検診					
大腸がん検診	4.11~	4.11~	10.4~*	10.4~*	
結核健診	元.9~	2.4~			
骨粗鬆症検診	7.10~				
マンモグラフィ検診	9.4~	18.3~			
C型・B型肝炎ウイルス検査	10.10~	10.10~		10.10~*	10.10~*

「元.9~」は、平成元年9月から検診を開始したことを示す。

\* 日曜検診のみ 白木町は平成2年4月から13年3月まで

表2 健診種別及び検査項目(平成17年度)

種別	対象者(広島市内在住者)	検査項目
老人保健法 基本健康診査	必須検査	40歳以上の者 身体計測、検尿、血圧測定、血中脂質検査、腎機能検査、肝機能検査、血糖検査、診察
	選択検査	医師の判断により選択的に実施 心電図、眼底検査、貧血検査、糖尿病検査
がん検診	胃がん検診	40歳以上の者 胃部X線撮影(間接)
	肺がん検診	胸部X線撮影(間接)、喀痰細胞診検査
	乳がん検診	40歳以上の女性、2年に1回 視診、触診、マンモグラフィによる画像診断
	子宮がん検診	20歳以上の女性、2年に1回 視診、内診、細胞診(頸部、体部)
大腸がん検診	40歳以上の者 便潜血二日法	
結核健康診断	65歳以上の者 胸部X線撮影(間接)	
骨粗鬆症検診	女性：20歳から5歳間隔の年齢の者 男性：40歳から5歳間隔の年齢の者 骨塩定量検査(超音波方式)	
C型・B型肝炎 ウイルス検査 (肝がん検診)	節目検診	40・45・50・55・60・65・70歳の者 (基本健康診査受診者のうち希望者)
	手術等検診	広範な外科的処置を受けたことのある者または妊娠・分娩時に多量に出血したことのある者であって定期的に肝機能検査を受けていない40歳以上の者(基本健康診査受診者のうち希望者)
	二次検診	基本健康診査の結果、肝機能検査上でGPTが36~45IU/Lで検査を希望する40歳以上の者 HCV抗体検査+HBs抗原検査 (必要に応じてHCV抗原検査、HCV核酸同定検査を実施)

表3 実施状況

(単位:件)

年 度	基本健康診査		が ん 検 診					結核定期	骨粗鬆症	マンモグラフィ	C型・B型肝炎
	必須検査	選択検査	胃がん	肺がん	乳がん	子宮がん	大腸がん	健康診断	検 診	検 診	炎ウイルス検査
平成元	418	295	75	1	73	71	-	374	-	-	-
2	14,699	9,910	9,037	757	9,065	8,619	-	22,683	-	-	-
3	15,245	12,060	8,693	483	8,749	8,537	-	22,433	-	-	-
4	15,383	12,051	9,752	392	9,161	8,940	637	22,782	-	-	-
5	15,723	12,471	14,288	401	13,436	13,026	1,692	22,948	-	-	-
6	14,996	12,205	13,556	319	12,357	12,185	1,625	22,053	-	-	-
7	15,278	13,394	13,800	262	12,338	12,165	1,793	21,608	3,585	-	-
8	12,740	12,387	12,387	14,224	10,828	10,803	3,330	16,584	1,834	-	-
9	14,589	14,514	13,579	16,589	11,616	11,280	4,701	18,726	3,685	1,901	-
10	15,308	15,297	12,914	16,472	10,263	10,163	4,821	18,108	4,140	1,745	5,847
11	16,011	16,008	13,246	16,982	10,510	10,498	5,181	19,436	3,182	1,811	9,442
12	16,303	16,302	13,786	17,579	11,174	11,346	5,761	21,187	2,184	1,949	6,303
13	16,970	16,970	14,757	18,792	11,977	12,062	6,347	20,798	2,081	2,327	283
14	18,238	18,238	15,452	20,127	12,296	12,376	7,131	21,914	2,646	2,434	1,641
15	19,352	19,352	16,448	21,258	13,381	13,181	7,854	22,747	2,972	3,224	2,358
16	19,455	19,455	15,862	20,958	13,758	13,066	8,107	22,006	2,228	4,321	2,937
17	18,481	18,481	15,662	20,378	2,961	6,297	8,229	10,314	1,912	2,961	2,577

## イ 平成17年度老人保健法等健康診査実施状況

## (ア) 基本健康診査

平成17年度の基本健康診査の受診者数は、表4aに示すように男性6,399人、女性12,082人、計18,481人であり、前年度に比し男性は78人、女性は896人、全体では974人の減少である。年齢別にみると、男女とも60歳代がピークである。平均年齢±標準偏差は男性66.3±10.2歳、女性60.8±10.2歳、全体では62.7±10.5歳である。区別には南区が最も多く、ついで西区、東区の順である(表4b)。

なお、選択検査受診率は、男女とも100%である。

表4 老健 基本健康診査

## a 受診者数

年齢 (歳)	男性		女性		計	
	人数(人)	%	人数(人)	%	人数(人)	%
40～49	505	7.9	1,902	15.7	2,407	13.0
50～59	771	12.0	3,328	27.6	4,099	22.2
60～69	2,676	41.8	4,296	35.6	6,972	37.7
70～79	1,853	29.0	2,238	18.5	4,091	22.1
80～96	594	9.3	318	2.6	912	5.0
計	6,399	100.0	12,082	100.0	18,481	100.0

## b 区別にみた受診者数

区 分	男 性		女 性		計	
	人数(人)	%	人数(人)	%	人数(人)	%
中 区	999	15.6	1,912	15.8	2,911	15.8
南 区	1,172	18.3	2,341	19.4	3,513	19.0
西 区	1,113	17.4	2,190	18.1	3,303	17.9
東 区	1,027	16.0	2,024	16.8	3,051	16.5
安芸区	202	3.2	391	3.2	593	3.2
安佐南区	480	7.5	859	7.1	1,339	7.2
安佐北区	338	5.3	525	4.4	863	4.7
佐伯区	1,068	16.7	1,840	15.2	2,908	15.7
計	6,399	100.0	12,082	100.0	18,481	100.0

c 選択検査受診率

年齢 (歳)	男 性			女 性			計		
	受診者数 (人)	選択検査受診者		受診者数 (人)	選択検査受診者		受診者数 (人)	選択検査受診者	
		人数(人)	%		人数(人)	%		人数(人)	%
40～49	505	505	100.0	1,902	1,902	100.0	2,407	2,407	100.0
50～59	771	771	100.0	3,328	3,328	100.0	4,099	4,099	100.0
60～69	2,676	2,676	100.0	4,296	4,296	100.0	6,972	6,972	100.0
70～79	1,853	1,853	100.0	2,238	2,238	100.0	4,091	4,091	100.0
80～96	594	594	100.0	318	318	100.0	912	912	100.0
計	6,399	6,399	100.0	12,082	12,082	100.0	18,481	18,481	100.0

\* 基本健康診査では、必須検査(身体計測、血圧、検尿、血中脂質、肝機能、腎機能、血糖検査)に加えて、選択検査(心電図、眼底、貧血、糖尿病検査)を受診できる。

(1) 胃がん検診

胃がん検診の実施状況は表5aに示すとおり、男性6,066人、女性9,596人、計15,662人であり、要精検率はそれぞれ7.3%、5.0%、5.9%で女性に比し男性で高率の傾向がみられる。精検実施率は男性78.8%、女性81.8%、計80.4%である。

精検実施者における精検結果は表5bに示すように、有所見率は男性5.16%、女性3.62%、計4.21%であり、男性が女性に比し高率である。

所見の内訳は、胃炎が2.41%と最も多く、ついで胃ポリープ1.28%、胃潰瘍0.36%の順である。

また、男性では胃炎が最も多く、胃ポリープ、胃潰瘍の順で、女性も同様であった。

今年度新たに発見された癌症例は表5cに示すとおり男性で胃癌24例(0.40%)、女性では胃癌10例(0.10%)、計34例(0.22%)であり、推定発見率は0.50%、0.13%、0.27%と男性に高率である。検診状況別には施設検診0.20%、集団検診0.32%という結果である。

表5 老健 胃がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数 (単位:人)

年齢 (歳)	男 性				女 性				計						
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
		% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>	% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>		% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>	% <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>					
40～49	433	18	4.2	11	61.1	1,396	50	3.6	37	74.0	1,829	68	3.7	48	70.6
50～59	598	39	6.5	27	69.2	2,513	117	4.7	99	84.6	3,111	156	5.0	126	80.8
60～69	2,721	193	7.1	160	82.9	3,757	188	5.0	156	83.0	6,478	381	5.9	316	82.9
70～79	1,785	141	7.9	112	79.4	1,716	114	6.6	90	78.9	3,501	255	7.3	202	79.2
80～95	529	52	9.8	39	75.0	214	15	7.0	14	93.3	743	67	9.0	53	79.1
計	6,066	443	7.3	349	78.8	9,596	484	5.0	396	81.8	15,662	927	5.9	745	80.4

<sup>1</sup> 要精検率:要精検者数/受診者数×100

<sup>2</sup> 精検実施率:精検実施数/要精検者数×100

b 精検結果 (単位:人)

性	年齢 (歳)	精 検 所 見										有所見者数				
		が ん		胃潰瘍		胃ポリープ		十二指腸潰瘍		胃 炎		その他		正常	例数	% <sup>2</sup>
		例数 <sup>1</sup>	% <sup>2</sup>	例数	% <sup>2</sup>	例数	% <sup>2</sup>	例数	% <sup>2</sup>	例数	% <sup>2</sup>	例数	% <sup>2</sup>			
男 性	40～49	0	0.00	0	0.00	3	0.69	2	0.46	3	0.69	1	0.23	4	7	1.62
	50～59	0	0.00	3	0.50	5	0.84	2	0.33	17	2.84	10	1.67	2	25	4.18
	60～69	9	0.33	22	0.81	30	1.10	12	0.44	79	2.90	41	1.51	19	141	5.18
	70～79	8	0.45	10	0.56	17	0.95	5	0.28	71	3.98	33	1.85	6	106	5.94
	80～90	7	1.32	3	0.57	3	0.57	0	0.00	22	4.16	8	1.51	5	34	6.43
	計	24	0.40	38	0.63	58	0.96	21	0.35	192	3.17	93	1.53	36	313	5.16
女 性	40～49	0	0.00	0	0.00	20	1.43	1	0.07	8	0.57	1	0.07	9	28	2.01
	50～59	2	0.08	4	0.16	36	1.43	2	0.08	43	1.71	22	0.88	12	87	3.46
	60～69	3	0.08	11	0.29	56	1.49	6	0.16	78	2.08	16	0.43	18	138	3.67
	70～79	5	0.29	3	0.17	25	1.46	2	0.12	48	2.80	13	0.76	10	80	4.66
	80～86	0	0.00	0	0.00	5	2.34	0	0.00	8	3.74	5	2.34	0	14	6.54
	計	10	0.10	18	0.19	142	1.48	11	0.11	185	1.93	57	0.59	49	347	3.62
計	40～49	0	0.00	0	0.00	23	1.26	3	0.16	11	0.60	2	0.11	13	35	1.91
	50～59	2	0.06	7	0.23	41	1.32	4	0.13	60	1.93	32	1.03	14	112	3.60
	60～69	12	0.19	33	0.51	86	1.33	18	0.28	157	2.42	57	0.88	37	279	4.31
	70～79	13	0.37	13	0.37	42	1.20	7	0.20	119	3.40	46	1.31	16	186	5.31
	80～90	7	0.94	3	0.40	8	1.08	0	0.00	30	4.04	13	1.75	5	48	6.46
	計	34	0.22	56	0.36	200	1.28	32	0.20	377	2.41	150	0.96	85	660	4.21

<sup>1</sup> 例数:胃がん[食道がん]

<sup>2</sup> 所見率:所見例数/受診者×100、がんの所見率は胃がんと食道がんを含む。

c 検診状況別に見た胃癌発見率 (単位:人,%)

性	検診状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		胃癌症例		
			例数 <sup>3</sup>	発見率 <sup>4</sup>	推定発見率 <sup>5</sup>				
男性	施設検診	2,446	185	7.6	148	80.0	6	0.25	0.31
	集団検診	3,620	258	7.1	201	77.9	18	0.50	0.64
	計	6,066	443	7.3	349	78.8	24	0.40	0.50
女性	施設検診	4,287	236	5.5	193	81.8	5	0.12	0.14
	集団検診	5,309	248	4.7	203	81.9	5	0.09	0.12
	計	9,596	484	5.0	396	81.8	10	0.10	0.13
計	施設検診	6,733	421	6.3	341	81.0	11	0.16	0.20
	集団検診	8,929	506	5.7	404	79.8	23	0.26	0.32
	計	15,662	927	5.9	745	80.4	34	0.22	0.27

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100      <sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

<sup>3</sup> 例数: 胃癌 [食道癌]

<sup>4</sup> 発見率: 症例数/受診者数 × 100 (食道癌を含む)

<sup>5</sup> 推定発見率: 発見率/精検実施率 × 100 (食道癌を含む)

(ウ) 肺がん検診

肺がん検診の受診者数は表 6a に示すように、男性 7,490 人、女性 12,888 人、計 20,378 人で、要精検率はそれぞれ 3.7%、2.3%、2.8%、精検実施率はそれぞれ 78.2%、81.6%、80.0% である。

精検結果は表 6b のとおりで、有所見率は男性 1.94%、女性 1.06%、計 1.38% で、所見の内訳は肺結核 20 例(0.10%)、閉塞性肺疾患 26 例(0.13%)、肺線維症 16 例(0.08%)、胸膜炎 29 例(0.14%) である。

今年度新たに発見された肺癌症例は男性 9 例(0.12%)、女性 6 例(0.05%)、計 15 例(0.07%) であり、推定発見率は表 6c に示すとおり 0.15%、0.06%、0.09% である。検診状況別には施設検診 0.08%、集団検診 0.10% という結果である。

表 6 老健 肺がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数 (単位:人)

年齢(歳)	男性				女性				計			
	受診者数	要精検者数	精検実施者数	要精検者数	受診者数	要精検者数	精検実施者数	要精検者数	受診者数	要精検者数	精検実施者数	要精検者数
40~49	515	12	9	75.0	1,754	22	20	90.9	2,269	34	29	85.3
50~59	824	13	11	84.6	3,434	67	58	86.6	4,258	80	69	86.3
60~69	3,239	115	90	78.3	4,830	115	90	78.3	8,069	230	180	78.3
70~79	2,209	100	77	77.0	2,512	69	56	81.2	4,721	169	133	78.7
80~96	703	35	28	80.0	358	21	16	76.2	1,061	56	44	78.6
計	7,490	275	215	78.2	12,888	294	240	81.6	20,378	569	455	80.0

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100

<sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

b 精検結果 (単位:人)

性	年齢(歳)	精検所見														正常	有所見者数	
		がん		肺結核		胸膜炎		閉塞性肺疾患		肺炎		肺線維症		その他			例数	% <sup>1</sup>
男性	40~49	0	0.00	1	0.19	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	9	1.75	4	5	0.97
	50~59	0	0.00	0	0.00	2	0.24	1	0.12	0	0.00	0	0.00	9	1.09	5	6	0.73
	60~69	4	0.12	2	0.06	10	0.31	9	0.28	1	0.03	2	0.06	97	2.99	32	58	1.79
	70~79	4	0.18	6	0.27	4	0.18	11	0.50	1	0.05	10	0.45	137	6.20	20	57	2.58
	80~93	1	0.14	1	0.14	1	0.14	3	0.43	0	0.00	3	0.43	30	4.27	9	19	2.70
	計	9	0.12	10	0.13	17	0.23	24	0.32	2	0.03	15	0.20	282	3.77	70	145	1.94
女性	40~49	0	0.00	0	0.00	1	0.06	0	0.00	0	0.00	0	0.00	16	0.91	12	8	0.46
	50~59	1	0.03	1	0.03	2	0.06	0	0.00	3	0.09	0	0.00	55	1.60	28	30	0.87
	60~69	4	0.08	5	0.10	2	0.04	1	0.02	0	0.00	0	0.00	96	1.99	39	51	1.06
	70~79	0	0.00	2	0.08	5	0.20	1	0.04	1	0.04	0	0.00	61	2.43	22	34	1.35
	80~88	1	0.28	2	0.56	2	0.56	0	0.00	0	0.00	1	0.28	23	6.42	2	14	3.91
	計	6	0.05	10	0.08	12	0.09	2	0.02	4	0.03	1	0.01	251	1.95	103	137	1.06
計	40~49	0	0.00	1	0.04	1	0.04	0	0.00	0	0.00	0	0.00	25	1.10	16	13	0.57
	50~59	1	0.02	1	0.02	4	0.09	1	0.02	3	0.07	0	0.00	64	1.50	33	36	0.85
	60~69	8	0.10	7	0.09	12	0.15	10	0.12	1	0.01	2	0.02	193	2.39	71	109	1.35
	70~79	4	0.08	8	0.17	9	0.19	12	0.25	2	0.04	10	0.21	198	4.19	42	91	1.93
	80~93	2	0.19	3	0.28	3	0.28	3	0.28	0	0.00	4	0.38	53	5.00	11	33	3.11
	計	15	0.07	20	0.10	29	0.14	26	0.13	6	0.03	16	0.08	533	2.62	173	282	1.38

<sup>1</sup> 所見率: 所見例数/受診者数 × 100

c 検診状況別に見た肺癌発見率 (単位:人,%)

性	検診状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		肺癌症例		
				% <sup>1</sup>		% <sup>2</sup>	例数	発見率 <sup>3</sup>	推定発見率 <sup>4</sup>
男性	施設検診	2,995	85	2.8	68	80.0	3	0.10	0.13
	集団検診	4,495	190	4.2	147	77.4	6	0.13	0.17
	計	7,490	275	3.7	215	78.2	9	0.12	0.15
女性	施設検診	5,748	120	2.1	102	85.0	3	0.05	0.06
	集団検診	7,140	174	2.4	138	79.3	3	0.04	0.05
	計	12,888	294	2.3	240	81.6	6	0.05	0.06
計	施設検診	8,743	205	2.3	170	82.9	6	0.07	0.08
	集団検診	11,635	364	3.1	285	78.3	9	0.08	0.10
	計	20,378	569	2.8	455	80.0	15	0.07	0.09

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100    <sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

<sup>3</sup> 発見率: 症例数/受診者数 × 100    <sup>4</sup> 推定発見率: 発見率/精検実施率 × 100

(I) 乳がん検診

乳がん検診は、平成 17 年 4 月より、問診、視診及び触診、乳房エックス線検査(マンモグラフィ)を 40 歳以上の対象者に 2 年に 1 回行うこととなった。表 7a に示すように、乳がん検診の受診者数は 2,961 人、要精検率 12.2%、精検実施率は 92.8% である。

精検結果を表 7b に示す。乳がん検診全体での有所見率は 7.53% で、内訳は乳腺症 4.05%、線維腺腫 0.68%、乳癌 0.44% である。今年度新たに発見された乳癌は 13 例(0.44%)、推定発見率は 0.47% である(表 7c)。

表 7 老健 乳がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢 (歳)	乳がん検診				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			% <sup>1</sup>		% <sup>2</sup>
40~49	801	127	15.9	117	92.1
50~59	934	124	13.3	113	91.1
60~69	875	80	9.1	76	95.0
70~79	336	28	8.3	27	96.4
80~88	15	1	6.7	1	100.0
計	2,961	360	12.2	334	92.8

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100

<sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

b 精検結果

(単位:人)

	年齢 (歳)	精検所見								有所見者数		
		がん		線維腺腫		乳腺症		その他		正常	例数	% <sup>1</sup>
		例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>			
乳がん 検診	40~49	6	0.75	11	1.37	51	6.37	121	15.1	23	94	11.74
	50~59	2	0.21	7	0.75	36	3.85	93	9.96	45	68	7.28
	60~69	3	0.34	2	0.23	24	2.74	62	7.09	30	46	5.26
	70~79	2	0.60	0	0.00	8	2.38	18	5.36	13	14	4.17
	80~82	0	0.00	0	0.00	1	6.67	1	6.67	0	1	6.67
	計	13	0.44	20	0.68	120	4.05	295	9.96	111	223	7.53

<sup>1</sup> 所見率: 所見例数/受診者数 × 100

c 検診状況別に見た乳癌発見率

(単位:人,%)

検診状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		乳癌症例		
			% <sup>1</sup>		% <sup>2</sup>	例数	発見率 <sup>3</sup>	推定発見率 <sup>4</sup>
施設検診	2,903	353	12.2	329	93.2	12	0.41	0.44
集団検診	58	7	12.1	5	71.4	1	1.72	2.41
計	2,961	360	12.2	334	92.8	13	0.44	0.47

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100    <sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

<sup>3</sup> 発見率: 症例数/受診者数 × 100    <sup>4</sup> 推定発見率: 発見率/精検実施率 × 100

(オ) 子宮がん検診

表 8a に示すように、子宮がん検診の受診者は 6,297 人で、要精検率は 0.7%、精検実施率は 81.4% である。精検結果を表 8b に示す。有所見率は 0.49% で、軽度異型上皮 0.16%、中・高度異型上皮 0.14%、子宮癌 0.03% である。今年度新たに発見された子宮癌は 2 例(0.03%)、推定発見率は 0.04% である(表 8c)。

表 8 老健 子宮がん検診

a 受診者数, 要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢 (歳)	受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			% <sup>1</sup>		% <sup>2</sup>
20~29	500	5	1.0	4	80.0
30~39	1,369	16	1.2	12	75.0
40~49	946	8	0.8	8	100.0
50~59	1,207	7	0.6	6	85.7
60~69	1,558	7	0.4	5	71.4
70~79	666	0	0.0	0	0.0
80~90	51	0	0.0	0	0.0
計	6,297	43	0.7	35	81.4

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数 / 受診者数 × 100

<sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数 / 要精検者数 × 100

b 精検結果

(単位:人)

年齢 (歳)	精 検 所 見									有所見者数	
	が ん		中・高度異型上皮		軽度異型上皮		その他		正常	例数	% <sup>1</sup>
	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>			
26~29	1	0.20	1	0.20	1	0.20	5	1.00	0	4	0.80
30~39	1	0.07	4	0.29	3	0.22	16	1.17	0	12	0.88
40~49	0	0.00	2	0.21	4	0.42	8	0.85	1	7	0.74
50~59	0	0.00	0	0.00	1	0.08	7	0.58	2	4	0.33
60~69	0	0.00	2	0.13	1	0.06	5	0.32	1	4	0.26
70~79	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
80~90	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
計	2	0.03	9	0.14	10	0.16	41	0.65	4	31	0.49

<sup>1</sup> 所見率: 所見例数 / 受診者数 × 100

c 検診状況別に見た子宮癌発見率

(単位:人, %)

検 診 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		子 宮 癌 症 例		
			% <sup>1</sup>		% <sup>2</sup>	例数	発見率 <sup>3</sup>	推定発見率 <sup>4</sup>
施設 検 診	2,610	20	0.8	17	85.0	2	0.08	0.09
集 団 検 診	3,687	23	0.6	18	78.3	0	0.00	0.00
計	6,297	43	0.7	35	81.4	2	0.03	0.04

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数 / 受診者数 × 100

<sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数 / 要精検者数 × 100

<sup>3</sup> 発見率: 症例数 / 受診者数 × 100

<sup>4</sup> 推定発見率: 発見率 / 精検実施率 × 100

(カ) 大腸がん検診

大腸がん検診の受診者の内訳は表 9a に示すとおり、男性 3,084 人、女性 5,145 人、計 8,229 人である。要精検率はそれぞれ 10.2%、6.0%、7.6% で、精検実施率は 70.3%、72.7%、71.5% である。

精検結果は表 9b に示す如くで、有所見率 3.89% で、内訳は、腺腫 1.30%、非腫瘍性ポリープ 1.36%、大腸癌 0.23% である。今年度新たに発見された大腸癌は 19 例(0.23%) であり、推定発見率は 0.32% である。検診状況別には、施設検診 0.23%、集団検診 0.23% という結果である。(表 9c)

表 9 老健 大腸がん検診

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数 (単位:人)

年齢(歳)	男 性				女 性				計			
	受診者数	要精検者数 % <sup>1</sup>	精検実施者数 % <sup>2</sup>		受診者数	要精検者数 % <sup>1</sup>	精検実施者数 % <sup>2</sup>		受診者数	要精検者数 % <sup>1</sup>	精検実施者数 % <sup>2</sup>	
40~49	216	13	6.0	8	736	37	5.0	24	952	50	5.3	32
50~59	343	36	10.5	22	1,358	75	5.5	57	1,701	111	6.5	79
60~69	1,427	141	9.9	106	2,013	117	5.8	90	3,440	258	7.5	196
70~79	892	101	11.3	71	945	67	7.1	45	1,837	168	9.1	116
80~92	206	25	12.1	15	93	12	12.9	8	299	37	12.4	23
計	3,084	316	10.2	222	5,145	308	6.0	224	8,229	624	7.6	446

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100

<sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施数/要精検者数 × 100

b 精検結果 (単位:人)

性	年齢(歳)	精 検 所 見								有所見者数		
		が ん		腺 腫		非腫瘍性ポリープ		そ の 他		正常	例数	% <sup>1</sup>
		例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>	例数	% <sup>1</sup>		例数	% <sup>1</sup>
男性	40~49	2	0.93	3	1.39	0	0.00	6	2.78	3	5	2.31
	50~59	1	0.29	9	2.62	4	1.17	21	6.12	5	17	4.96
	60~69	3	0.21	35	2.45	37	2.59	111	7.78	19	87	6.10
	70~79	7	0.78	18	2.02	18	2.02	76	8.52	16	55	6.17
	80~86	0	0.00	4	1.94	6	2.91	15	7.28	4	11	5.34
	計	13	0.42	69	2.24	65	2.11	229	7.43	47	175	5.67
女性	40~49	0	0.00	1	0.14	5	0.68	16	2.17	13	11	1.49
	50~59	3	0.22	13	0.96	13	0.96	56	4.12	16	41	3.02
	60~69	0	0.00	18	0.89	19	0.94	81	4.02	34	56	2.78
	70~79	3	0.32	6	0.63	8	0.85	52	5.50	14	31	3.28
	80~86	0	0.00	0	0.00	2	2.15	11	11.83	2	6	6.45
	計	6	0.12	38	0.74	47	0.91	216	4.20	79	145	2.82
計	40~49	2	0.21	4	0.42	5	0.53	22	2.31	16	16	1.68
	50~59	4	0.24	22	1.29	17	1.00	77	4.53	21	58	3.41
	60~69	3	0.09	53	1.54	56	1.63	192	5.58	53	143	4.16
	70~79	10	0.54	24	1.31	26	1.42	128	6.97	30	86	4.68
	80~86	0	0.00	4	1.34	8	2.68	26	8.70	6	17	5.69
	計	19	0.23	107	1.30	112	1.36	445	5.41	126	320	3.89

<sup>1</sup> 所見率: 所見例数/受診者数 × 100

c 検診状況別に見た大腸癌発見率 (単位:人,%)

性	検 診 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		大 腸 癌 症 例		
				% <sup>1</sup>		% <sup>2</sup>	例数	発見率 <sup>3</sup>	推定発見率 <sup>4</sup>
男性	施設検診	2,045	207	10.1	147	71.0	10	0.49	0.69
	集団検診	1,039	109	10.5	75	68.8	3	0.29	0.42
	計	3,084	316	10.2	222	70.3	13	0.42	0.60
女性	施設検診	3,529	216	6.1	165	76.4	3	0.09	0.11
	集団検診	1,616	92	5.7	59	64.1	3	0.19	0.29
	計	5,145	308	6.0	224	72.7	6	0.12	0.16
計	施設検診	5,574	423	7.6	312	73.8	13	0.23	0.32
	集団検診	2,655	201	7.6	134	66.7	6	0.23	0.34
	計	8,229	624	7.6	446	71.5	19	0.23	0.32

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100

<sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

<sup>3</sup> 発見率: 症例数/受診者数 × 100

<sup>4</sup> 推定発見率: 発見率/精検実施率 × 100

(†) C型・B型肝炎ウイルス検査(肝がん検診)

平成14年度から、C型・B型肝炎ウイルス検査の対象者は40歳から70歳までの5歳間隔の節目検診、または輸血歴・手術歴のある者に変更された。受診者数は表10aのように、男性814人、女性1,762人、計2,576人である。C型・B型肝炎ウイルス抗体(一次スクリーニング検査)陽性率は、男性0.9%、女性0.7%、計0.7%である。要精検者に対する精検受診率は男性28.6%、女性41.7%、計36.8%である。精検結果は表10bのとおりで、有所見率は0.27%であり、ほとんどは慢性肝炎である。

表10 老健 C型・B型肝炎ウイルス検査(肝がん検診)

a 受診者数、要精検者数および精検実施者数 (単位:人)

年齢(歳)	男 性				女 性				計			
	受診者数	要精検者数 % <sup>1</sup>	精検実施者数 % <sup>2</sup>		受診者数	要精検者数 % <sup>1</sup>	精検実施者数 % <sup>2</sup>		受診者数	要精検者数 % <sup>1</sup>	精検実施者数 % <sup>2</sup>	
40~49	111	0	0.0	0	421	2	0.5	0	532	2	0.4	0
50~59	107	2	1.9	0	466	1	0.2	1	573	3	0.5	1
60~69	334	3	0.9	0	551	3	0.5	1	885	6	0.7	1
70~79	255	2	0.8	2	317	5	1.6	2	572	7	1.2	4
80~87	7	0	0.0	0	7	1	14.3	1	14	1	7.1	1
計	814	7	0.9	2	1,762	12	0.7	5	2,576	19	0.7	7

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100      <sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100

b 精検結果 (単位:人)

性	年齢(歳)	精 検 所 見											有所見者数			
		が ん		急性肝炎		慢性肝炎		脂肪肝		肝硬変		その他		正常	例数	% <sup>1</sup>
男性	40~49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00		0	0
	50~59	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	60~69	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	70~79	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.78	0	0.00	0	2	0.78
	80~87	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
計	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.25	0	0.00	0	2	0.25	
女性	40~49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	50~59	0	0.00	0	0.00	1	0.21	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	1	0.17
	60~69	0	0.00	0	0.00	1	0.18	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	1	0.11
	70~79	0	0.00	0	0.00	2	0.63	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	2	0.35
	80~87	0	0.00	0	0.00	1	14.29	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	1	7.14
計	0	0.00	0	0.00	5	0.28	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	5	0.19	
計	40~49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	50~59	0	0.00	0	0.00	1	0.17	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	1	0.17
	60~69	0	0.00	0	0.00	1	0.11	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	1	0.11
	70~79	0	0.00	0	0.00	2	0.35	0	0.00	2	0.35	0	0.00	0	4	0.70
	80~87	0	0.00	0	0.00	1	7.14	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	1	7.14
計	0	0.00	0	0.00	5	0.19	0	0.00	2	0.08	0	0.00	0	7	0.27	

<sup>1</sup> 所見率: 所見例数/受診者数 × 100

c 検診状況別に見た肝癌発見率 (単位:人,%)

性	検 診 状 況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		肝 癌 症 例		
				% <sup>1</sup>		% <sup>2</sup>	例数	発見率 <sup>3</sup>	推定発見率 <sup>4</sup>
男性	施設検診	519	5	1.0	1	20.0	0	0.00	0.00
	集団検診	295	2	0.7	1	50.0	0	0.00	0.00
	計	814	7	0.9	2	28.6	0	0.00	0.00
女性	施設検診	1,104	7	0.6	3	42.9	0	0.00	0.00
	集団検診	658	5	0.8	2	40.0	0	0.00	0.00
	計	1,762	12	0.7	5	41.7	0	0.00	0.00
計	施設検診	1,623	12	0.7	4	33.3	0	0.00	0.00
	集団検診	953	7	0.7	3	42.9	0	0.00	0.00
	計	2,576	19	0.7	7	36.8	0	0.00	0.00

<sup>1</sup> 要精検率: 要精検者数/受診者数 × 100      <sup>2</sup> 精検実施率: 精検実施者数/要精検者数 × 100  
<sup>3</sup> 発見率: 症例数/受診者数 × 100      <sup>4</sup> 推定発見率: 発見率/精検実施率 × 100

老健法等の検診により、当センターで発見した悪性新生物症例について表 11 に示す。乳癌 23 例、肺癌 14 例、大腸癌 8 例、胃癌 5 例、甲状腺癌 1 例、胃悪性リンパ腫 1 例である。

表 11 老健 当センターで発見した悪性新生物症例

No.	年齢	性別	病名	No.	年齢	性別	病名
1	61	M	胃癌(早期)	28	58	M	直腸癌
2	65	M	胃癌(早期)	29	69	M	直腸癌
3	74	M	胃癌(早期)	30	56	F	乳癌
4	75	M	胃癌(早期)	31	50	F	乳癌
5	67	M	胃癌	32	52	F	乳癌
6	86	M	胃悪性リンパ腫	33	58	F	乳癌
7	74	M	肺癌	34	44	F	乳癌
8	77	M	肺癌	35	53	F	乳癌
9	66	M	肺癌	36	42	F	乳癌
10	66	M	肺癌	37	60	F	乳癌
11	73	M	肺癌	38	78	F	乳癌
12	61	M	肺癌	39	50	F	乳癌
13	68	F	肺癌	40	78	F	乳癌
14	58	F	肺癌	41	74	F	乳癌
15	63	F	肺癌	42	60	F	乳癌
16	69	M	肺癌	43	45	F	乳癌
17	56	M	肺癌	44	58	F	乳癌
18	61	F	肺癌	45	40	F	乳癌
19	80	M	肺癌	46	52	F	乳癌
20	70	M	肺癌	47	66	F	乳癌
21	61	F	結腸癌	48	64	F	乳癌
22	72	M	結腸癌	49	44	F	乳癌
* 23	79	F	結腸癌	50	68	F	乳癌
* 24	79	F	回盲部腸癌	51	69	F	乳癌
25	51	M	結腸癌	52	56	F	乳癌
26	46	M	結腸癌	53	37	M	甲状腺癌
27	70	M	結腸癌				

\* [No.23・No.24] は同一症例

(ク) 骨粗鬆症検診

骨粗鬆症検診は、寝たきりの主要な原因として骨折が大きな比重を占めている現状に鑑み、その最大原因としての骨粗鬆症を早期発見・早期予防するために広島市の独自の施策として平成7年10月より開始された(平成16年4月からの検診対象者は、男性では40歳以上、女性では20歳以上の5歳刻み)。受診者の内訳は表12に示すとおりで、男性520人、女性1,392人、計1,912人であり、女性が多い。「減少あり」と判定された有所見率は、男性71.5%、女性72.0%と高率であり、骨粗鬆症と診断されている者、またその恐れがある者が多く受診しているためと考えられる。

表12 老健 骨粗鬆症検診

(単位:人)

性	年齢 (歳)	受診者数	測定結果						
			減少なし	減少あり				計	% <sup>1</sup>
				軽度	中等度	高度			
男性	40・45	37	15	4	12	6	22	59.5	
	50・55	57	23	13	14	7	34	59.6	
	60・65	163	54	48	30	31	109	66.9	
	70・75	214	46	75	46	47	168	78.5	
	80～95	49	10	26	12	1	39	79.6	
	計	520	148	166	114	92	372	71.5	
女性	20・25	7	5	0	2	0	2	28.6	
	30・35	28	12	0	14	2	16	57.1	
	40・45	242	134	16	85	7	108	44.6	
	50・55	365	153	32	145	35	212	58.1	
	60・65	452	67	77	163	145	385	85.2	
	70・75	275	19	65	50	141	256	93.1	
	80～95	23	0	15	3	5	23	100.0	
	計	1,392	390	205	462	335	1,002	72.0	
計	20・25	7	5	0	2	0	2	28.6	
	30・35	28	12	0	14	2	16	57.1	
	40・45	279	149	20	97	13	130	46.6	
	50・55	422	176	45	159	42	246	58.3	
	60・65	615	121	125	193	176	494	80.3	
	70・75	489	65	140	96	188	424	86.7	
	80～95	72	10	41	15	6	62	86.1	
	計	1,912	538	371	576	427	1,374	71.9	

<sup>1</sup> 所見率: 所見例数/受診者数 × 100

(ケ) 結核健康診断

結核健康診断は老健法に基づく検診と同様に、平成元年 9 月から広島市の委託を受けて開始した。

受診者数は表 13aのとおりで、男性 4,891 人、女性 5,423 人、計 10,314 人であり、年齢別には男性、女性とも 60、70 歳代にピークがみられる。区別には表 13bに示すように、南区が最も多く、ついで西区、中区の順である。要精検率は表 13cのとおり男性 4.0%、女性 2.6%、計 3.3%であり、男女とも加齢とともに高くなる傾向がみられる。

表 13 結核健診

a 受診者数

年齢 (歳)	男性		女性		計	
	人数(人)	%	人数(人)	%	人数(人)	%
16～39	43	0.9	105	1.9	148	1.4
40～49	19	0.4	16	0.3	35	0.3
50～59	21	0.4	11	0.2	32	0.3
60～69	1,882	38.5	2,415	44.5	4,297	41.7
70～79	2,219	45.4	2,516	46.4	4,735	45.9
80～96	707	14.5	360	6.6	1,067	10.3
計	4,891	100.0	5,423	100.0	10,314	100.0

b 区別にみた受診者数

区分	男性		女性		計	
	人数(人)	%	人数(人)	%	人数(人)	%
中区	547	11.2	833	15.4	1,380	13.4
南区	770	15.7	902	16.6	1,672	16.2
西区	644	13.2	749	13.8	1,393	13.5
東区	593	12.1	675	12.4	1,268	12.3
安芸区	433	8.9	408	7.5	841	8.2
安佐南区	648	13.2	637	11.7	1,285	12.5
安佐北区	660	13.5	632	11.7	1,292	12.5
佐伯区	596	12.2	587	10.8	1,183	11.5
計	4,891	100.0	5,423	100.0	10,314	100.0

c 要精検率

年齢 (歳)	男性			女性			計		
	受診者数 (人)	要精密検査		受診者数 (人)	要精密検査		受診者数 (人)	要精密検査	
		人数(人)	%		人数(人)	%		人数(人)	%
18～39	43	0	0.0	105	2	1.9	148	2	1.4
40～49	19	0	0.0	16	0	0.0	35	0	0.0
50～59	21	2	9.5	11	0	0.0	32	2	6.3
60～69	1,882	55	2.9	2,415	51	2.1	4,297	106	2.5
70～79	2,219	102	4.6	2,516	69	2.7	4,735	171	3.6
80～93	707	35	5.0	360	21	5.8	1,067	56	5.2
計	4,891	194	4.0	5,423	143	2.6	10,314	337	3.3

## 2 被爆者の健康管理に関する調査研究事業

### (1) 調査研究の実施

- ア「被爆者がん検診の意義に関する研究」(継続)    イ「被曝と悪性腫瘍発生に関する研究」(継続)  
ウ「被爆者の糖代謝に関する研究」(継続)            エ「肺がんに関する研究」(継続)  
オ「加齢に関する研究」(継続)

これらの調査研究の成果は、「原子爆弾後障害研究会」をはじめ関係各学会等に26題を発表したほか、随時医学雑誌、会報その他機関紙に発表した。

### (2) 第46回原子爆弾後障害研究会

本研究会は、昭和34年に第1回を開催して以来、広島、長崎両市で隔年開催しているが、平成17年は6月5日(日)、広島国際会議場において開催した。本会関係者の発表演題は次のとおりである。

#### [特別講演]

被爆者ととともに歩んだ我が人生

医師の立場からの被爆60周年

伊藤千賀子

#### [一般演題]

被爆者検診受診者における受療率の推移

久保美由紀 ほか

～1993年度と2003年度の比較～

被爆者検診受診者における有所見率の推移

平田久美子 ほか

～1993年度と2003年度の比較～

被曝者肺癌検診成績 組織型についての検討

山根 高 ほか

### (3) 被爆者健康診断資料の収集整理と活用

被爆者健康診断を受診した者のカルテや心電図等をフォルダーに収納し、資料室に保存している。これにより、今までに受診した健康診断記録を一覧できるので、総合健康センターでの健康診断では必要に応じてこれらの資料を診察室(精密検査)に送り、健康管理や健康指導に活用している。

これらの資料をスペースセービングを目的として、心電図(11,796枚)及びレントゲンフィルム(63,358枚)をファイリングシステムに収録し、保存した。

また、健康診断に関する資料を引き続き電算処理し、基礎資料としての管理体制を整えている。

### (4) 検診結果の統計処理

本会の実施する被爆者健康診断によって得られた被爆者の健康状態に関する各種の情報はコンピュータにより統計処理を行うとともに、データは磁気ディスク等に記録し保存している。平成17年度に実施した主な事項は次のとおりである。

ア 本会の実施した被爆者健康診断受診者の受診状況・疾病状況及び老人保健法健康診査等に関する平成17年度の年間統計

イ 被爆者糖尿病追跡調査のための電算統計処理

### (5) 文献の収集及び資料の刊行

原爆関係図書「原子爆弾は語り続けるヒロシマ60年」ほか40篇を収集した。

### 3 被爆者の援護福祉事業

#### (1) 被爆者相談

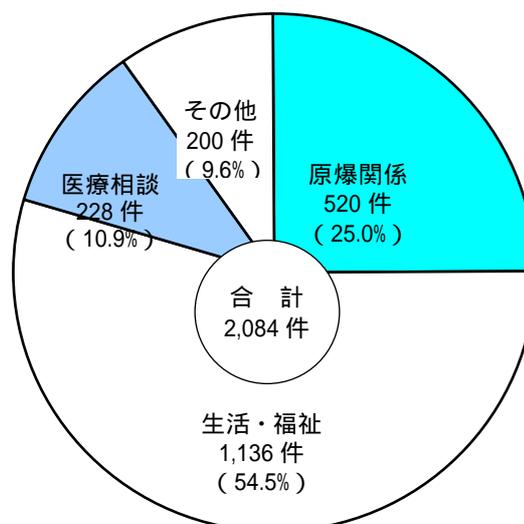
昭和 36 年、原爆被爆者福祉センター開設と同時に相談業務を開始したが、被爆者援護の積極的強化を図るため、昭和 42 年 7 月専任相談員を配置し、昭和 53 年 11 月には、来訪者の便宜を図って一階ロビーに相談コーナーを設置した。

開設以来の相談件数及び平成 17 年度の被爆者相談の状況は下表のとおりである。

開設以後の相談件数

年度	件数(件)	年度	件数(件)
昭和 36	51	昭和 58	2,852
37	29	59	2,660
38	19	60	3,283
39	30	61	3,086
40	46	62	3,454
41	68	63	5,333
42	240	平成元	4,530
43	334	2	4,074
44	465	3	4,183
45	626	4	3,525
46	910	5	3,451
47	626	6	3,482
48	507	7	3,512
49	568	8	3,576
50	871	9	3,393
51	1,241	10	3,758
52	1,746	11	2,911
53	2,566	12	3,414
54	3,174	13	2,817
55	2,319	14	2,572
56	3,676	15	2,522
57	3,057	16	2,455
		17	2,084

平成 17 年度の被爆者相談の状況



#### (2) 被爆者の援護措置

本会の原爆被爆者援護規程に基づき、被爆者の生活及び健康上の相談に応じ、関係行政機関と連携のうえ、必要な指導及び援護の措置を講じている。

この財源は、全国から本会に寄せられる寄付金を基にして、次のとおり実施している。

ア 被爆者援護金：被爆者の生活の維持向上を図るため、生活困窮者に月額 10,000 円を支給する。

イ 温泉療養交通費補助金：原爆被爆者有福温泉療養研究所で 7 日以上療養した者に、交通費の一部として 1 回 1,000 円を支給する。

ウ 被爆身障者等見舞金：夏期と年末の年 2 回、被爆身体障害者福祉手当受給者、在宅老人福祉手当受給者、被爆者援護金受給者等を対象に見舞の金品を贈って慰問する。

エ 福祉用具利用料補助：住民税非課税世帯の福祉用具利用者に補助金を支給する。

オ その他の補助：以上のほか特に援護の必要を認められる者に、その都度経費の一部を補助する。

平成 17 年度の援護費支給状況は下表のとおりである。

平成 17 年度援護費の支給内容

種 別	人 員(人)	支 給 額(円)
温泉療養交通費補助金	564	564,000
被爆身体障害者等見舞金	15	150,000
福祉用具利用料補助	260	2,077,000
合 計	839	2,791,000

(3) 職業補導

原爆被爆者に職業技能を習得させ、その自立を助成するため、昭和 36 年 7 月職業補導教室(洋裁・編物・手芸・タイプ・孔版科)を開設し、昭和 49 年度からは洋裁、編物、手芸の 3 教科について、それぞれ専任教師を配置して指導にあたった。なお、職業補導部は平成 17 年度をもって廃止した。

平成 17 年度の実施状況は次のとおりである。

平成 17 年度職業補導実施状況

科 目	洋裁科	編物科	手芸科	合 計
補 導 期 間	1 年(平成 17 年 4 月～18 年 3 月)			
申 込 者(人)	9	10	15	34
入 室 者(人)	6	11	8	25
修 了 者(人)	6	8	7	21

職業補導実施状況

(単位：人)

年 度	申込者数	入室者数	修了者数	年 度	申込者数	入室者数	修了者数
昭和 36	187	169	102	昭和 59	67	65	49
37	243	217	142	60	90	77	64
38	489	383	270	61	87	61	49
39	628	466	332	62	72	60	59
40	596	454	368	63	76	70	59
41	626	477	367	平成元	68	64	53
42	464	372	279	2	57	53	47
43	332	287	164	3	71	64	56
44	384	248	177	4	72	66	58
45	292	230	-	5	68	65	56
46	274	123	224	6	75	67	59
47	178	115	83	7	79	74	64
48	134	111	54	8	83	77	68
49	110	77	42	9	82	75	61
50	103	80	59	10	72	63	60
51	109	82	55	11	45	40	33
52	101	82	57	12	43	42	39
53	91	67	54	13	41	33	32
54	102	79	63	14	52	50	45
55	84	71	53	15	57	54	50
56	85	68	53	16	39	36	35
57	100	74	56	17	34	25	21
58	74	64	52	合 計	7,216	5,677	4,223

#### (4) 原爆被爆者有福温泉療養研究所の運営

昭和42年6月、厚生省のあっせんにより日本自転車振興会の公益事業補助金の交付を受け、広島市、島根県、江津市などの援助を受けて、原爆被爆者有福温泉療養研究所(有福温泉荘)を開設した。

現在は、有福原爆被爆者温泉療養研究所運営協議会(会長：江津市長)に運営を委託し、必要な助成を行って被爆者の福祉増進を図っている。

なお、泉質及び適応症は別表のとおりで、入湯療養の効果をおさめている。

#### ア 沿革

- 昭和42年6月 日本自転車振興会等の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」を開設
- 昭和44年2月 日本自転車振興会・広島県・広島市の補助金の交付を受け、暖房設備工事及び倉庫建設工事完成
- 昭和45年5月 2階増改築工事完成
- 昭和49年7月 広島県・広島市の補助金の交付を受け、全館冷暖房設備工事完成
- 昭和53年7月 車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、食堂拡張工事等施設整備工事完成
- 昭和56年10月 広島県・広島市の補助金の交付を受け、屋根防水改修その他工事完成
- 昭和60年8月 広島県・広島市の補助金の交付を受け、車庫上屋根新設工事等完成
- 昭和62年8月 車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、食堂拡張工事等施設整備工事完成
- 平成4年8月 車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、内部・外部改修工事等施設整備工事完成
- 平成9年8月 車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、浴室改修その他工事完成
- 平成10年8月 車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、屋上陸屋根防水工事その他の工事完成
- 平成14年7月 広島県・広島市の補助金の交付を受け、全館冷暖房設備工事完成

イ 運営 有福原爆被爆者温泉療養研究所運営協議会(江津市)

#### ウ 施設

- ・所在地 島根県江津市有福温泉町762番4号(〒695-0156, 電話・FAX 0855-56-2148)
- ・敷地 3,348.73 m<sup>2</sup>
- ・建物 鉄筋コンクリート造 地下1階地上2階建 延1,488.52 m<sup>2</sup>  
宿泊室(20室)、浴室(2)、診療室、食堂、娯楽室、事務室、従業員室
- ・事業費 273,447千円  
(財源内容) 日本自転車振興会補助金 34,580千円  
車両競技公益資金記念財団補助金 76,860千円  
広島県補助金 48,786千円  
広島市補助金 58,513千円  
島根県補助金 2,000千円  
江津市補助金 4,287千円  
原対協負担金 46,311千円  
その他寄付金 2,110千円

・定員 72名

エ 申込手続き等

エ 申込手続き等

- ・ 広島原爆障害対策協議会または有福温泉荘で、利用する4ヶ月前から受付
- ・ 利用料金 宿泊(1泊3食付) 被爆者 5,300円 付添 6,500円
- ・ 利用者には、バス運賃(広島電鉄)の割引証(2割引)を交付する。

オ 泉質及び適応症

泉質	単純温泉	カルシウム(mg/kg)	10.78	硫酸(mg/kg)	18.59
泉温	46.5度	ナトリウム(%)	80.99	ヒドロ炭酸(%)	86.32
PH	8.8	カリウム(%)	3.48	炭酸(%)	13.96
蒸発残留物	265.4	マグネシウム(%)	1.77	メタ硅酸(%)	67.07
ラドン	0.14	クロール(%)	66.04		

適応症	慢性関節リウマチ、筋肉リウマチ、神経痛、神経炎、骨・関節運動器障害、外傷性障害の治療、疲労回復
-----	---

カ 年度別利用状況

年度	男	女	計
昭和43	1,025	1,477	2,502
44	1,299	1,665	2,964
45	1,195	1,867	3,062
46	1,176	1,884	3,060
47	1,304	2,069	3,373
48	1,361	2,036	3,397
49	1,206	2,100	3,306
50	1,332	2,258	3,590
51	1,214	2,280	3,494
52	1,400	2,536	3,936
53	1,284	2,372	3,656
54	1,376	2,436	3,812
55	1,473	2,623	4,096
56	1,483	2,839	4,322
57	1,513	2,890	4,403
58	1,403	2,679	4,082
59	1,351	2,867	4,218
60	1,316	2,919	4,235
61	1,294	2,997	4,291
62	1,166	2,761	3,927
63	1,263	2,828	4,091
平成元	1,244	2,997	4,241
2	1,253	2,992	4,245
3	1,170	3,074	4,244
4	1,080	2,808	3,888
5	1,173	3,179	4,352
6	1,232	3,211	4,443
7	1,230	3,281	4,511
8	1,216	3,318	4,534
9	990	2,989	3,979
10	1,231	3,239	4,470
11	1,262	3,264	4,526
12	1,263	3,230	4,493
13	1,101	2,585	3,686
14	1,157	2,640	3,797
15	1,253	2,516	3,769
16	1,339	2,488	3,827
17	1,328	2,390	3,718

キ 平成17年度の利用状況

性別

性別	実人員		延人員	
	人員(人)	比率(%)	人員(人)	比率(%)
男	1,328	35.7	4,350	33.2
女	2,390	64.3	8,737	66.8
計	3,718	100.0	13,087	100.0

年齢別

年齢(歳)	実人員		延人員	
	人員(人)	比率(%)	人員(人)	比率(%)
～59	351	9.5	758	5.8
60～69	573	15.4	1,743	13.3
70～	2,794	75.1	10,586	80.9
計	3,718	100.0	13,087	100.0

地域別

地域	実人員		延人員	
	人員(人)	比率(%)	人員(人)	比率(%)
広島市	2,696	72.5	9,758	74.6
広島県	854	23.0	2,896	22.1
その他(県外)	168	4.5	433	3.3
計	3,718	100.0	13,087	100.0

## 4 健康増進事業

### (1) 事業の内容

生活習慣病などを予防し、積極的に健康づくりを推進するため、平成元年9月から広島市の委託を受け、健康増進事業を行っている。本事業では、市民が日常生活において自主的に健康の保持・増進ができるように医学検査・体力測定・運動負荷テストおよび栄養調査によって健康度を測定し、一人ひとりに適した運動、栄養、休養の処方を行っている。

さらに、広島市各区のスポーツセンターと共同で継続的な運動の実施のための方策(登録制)も行っており、効果を挙げている。平成6年度からは、広島県体育協会との連携により国体強化選手のメディカルチェックも実施してきている。また、平成7年度からは、健康増進コースを受診後3~6か月後に、運動、栄養の実践の効果判定を行いたい人を対象に、新たに「効果測定メニュー」を加えるなど、一層の充実を図っている。さらに「効果測定メニュー」を利用した健康教室を年数回にわたり開催して受診者数の増加に努めている。

### (2) 検査項目

項目	内 容	基 本 コ ー ス	精 密 コ ー ス	簡易メニュー		効果測定 メ ニ ュ ー
				A	B	
問 診	生活状況・健康状況・食生活状況					
尿 検 査	糖・タンパク・ウロビリノーゲン・潜血					
血液一般検査	貧血などの検査					
血液生化学	肝機能・高脂血症・尿酸及び糖尿などの検査					
		GOT・GPT				
		総コレステロール・血糖 HDL コレステロール・ -GTP・ 中性脂肪				
胸部 X 線	直接撮影					
肺機能検査	肺活量・努力性肺活量・1秒率					
眼底撮影	動脈硬化性・高血圧性変化					
血圧測定	安静時					
身体計測	身長・体重・皮下脂肪厚・シルエッター撮影					
心電図検査	安静時					
体力測定	握力・脚伸展パワー・全身反応時間など					*
運動負荷テスト	トレッドミルまたはエルゴメーター					
指 導	栄養指導・運動指導・総合指導					

簡易メニューA：老健法基本健康診査・人間ドックの受診結果持参者向けメニュー

(希望受診日の概ね3か月以内に、老健法基本健康診査や人間ドックで血液検査などの医学検査を受け、その結果に応じて一部検査を省略したメニュー)

簡易メニューB：広島市各区のスポーツセンターのトレーニング室利用(登録制)向けメニュー

\* 一部省略可能

### (3) 実施状況

(単位：件)

年度	基本コース			精密コース			簡易コース			効果測定コース			合計
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	
平成元	30	33	63	42	31	73							136
2	37	75	112	231	132	363	199	186	385				860
3	55	63	118	674	324	998	403	298	701				1,817
4	116	84	200	1,041	610	1,651	560	438	998				2,849
5	134	107	241	1,128	697	1,825	484	451	935				3,001
6	167	91	258	1,224	775	1,999	658	410	1,068				3,325
7	151	71	222	1,039	599	1,638	663	461	1,124	6	41	47	3,031
8	157	112	269	1,038	522	1,560	634	461	1,095	14	38	52	2,976
9	124	94	218	1,083	558	1,641	555	438	993	17	85	102	2,954
10	112	87	199	1,054	589	1,643	532	400	932	13	64	77	2,851
11	102	85	187	1,261	970	2,231	488	354	842	0	0	0	3,260
12	83	81	164	1,072	560	1,632	525	362	887	6	9	15	2,698
13	59	50	109	1,001	564	1,565	500	332	832	57	77	134	2,640
14	51	51	102	1,134	574	1,708	471	379	850	32	93	125	2,785
15	77	49	126	1,060	631	1,691	505	327	832	18	17	35	2,684
16	62	32	94	1,168	600	1,768	508	340	848	8	25	33	2,743
17	42	30	72	1,153	572	1,725	489	312	801	6	25	31	2,629

(4) 平成 17 年度実施状況

平成 17 年度における健康増進事業のコース別・月別の受診者数は表1のとおりである。総受診者数は 2,629 名で、基本コース受診者は 72 名（男性 42 名、女性 30 名）、精密コース受診者は 1,725 名（男性 1,153 名、女性 572 名）、簡易メニュー受診者は 801 名（男性 489 名、女性 312 名）、効果測定メニュー受診者は 31 名（男性 6 名、女性 25 名）である。

表1 健康増進事業

(単位：人、日)

区 分 (実施日数)		4月 (20)	5月 (17)	6月 (22)	7月 (20)	8月 (23)	9月 (20)	10月 (20)	11月 (19)	12月 (18)	1月 (18)	2月 (20)	3月 (20)	計 (237)	月平均 人 数	
受診者数		102	124	260	306	315	268	312	276	243	196	119	108	2,629	219.1	
基本 コース	受診者数	2	11	5	4	12	13	5	10	0	0	4	6	72	6.0	
	性別	男性	0	7	3	3	8	8	4	3	0	0	4	2	42	3.5
		女性	2	4	2	1	4	5	1	7	0	0	0	4	30	2.5
精密 コース	受診者数	71	69	186	229	212	186	214	181	131	121	64	61	1,725	143.8	
	性別	男性	47	53	149	178	142	130	123	119	80	52	42	38	1,153	96.1
		女性	24	16	37	51	70	56	91	62	51	69	22	23	572	47.7
簡易 コース	受診者数	17	25	69	73	91	69	93	85	112	75	51	41	801	66.8	
	性別	男性	13	16	45	52	61	38	59	49	60	47	28	21	489	40.8
		女性	4	9	24	21	30	31	34	36	52	28	23	20	312	26.0
効果測定 コース	受診者数	12	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	2.6	
	性別	男性	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0.5
		女性	9	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	2.1

受診者数の年次別推移は表2のごとくで、男性ではここ 10 年間ほぼ横ばい状態が続いている。女性では平成 11 年度に若干の増加がみられたものの、その後は横ばい状態が続いている。また、受診者数の推移を年齢別にみると、男女とも 10 代から 80 代までの幅広い年齢層に利用されている。

表2 平成 8 年度から平成 17 年度の年度別・年齢階別受診状況

(単位：人)

性別	年度 年齢階級	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
男性	10代	80	60	36	15	24	48	24	42	53	62
	20代	125	160	160	160	142	115	123	109	82	65
	30代	452	442	394	372	353	340	357	367	376	370
	40代	720	641	622	693	629	552	586	546	588	553
	50代	310	295	311	453	392	395	417	425	481	481
	60代	120	124	129	112	103	125	134	122	117	116
	70代～	36	57	59	46	43	42	47	49	49	43
	計	1,843	1,779	1,711	1,851	1,686	1,617	1,688	1,660	1,746	1,690
女性	10代	68	34	24	7	30	29	15	41	27	42
	20代	125	158	137	155	111	98	123	96	69	64
	30代	234	266	258	244	216	195	234	197	188	173
	40代	372	354	359	492	369	329	325	323	311	284
	50代	230	195	215	441	222	269	284	286	311	290
	60代	92	145	124	62	49	85	87	67	77	81
	70代～	12	23	23	8	15	18	29	14	14	5
	計	1,133	1,175	1,140	1,409	1,012	1,023	1,097	1,024	997	939

平成 17 年度の受診者の内訳を受診回数別にみると、図1の如くで、初回受診者は 583 名(男性 316 名、女性 267 名)であり、全体の 22.2%であった。2 回以上の受診者は 2,046 名(男性 1,374 名、女性 672 名)で全体の 77.8%を占めており、なかでも 10 回以上の受診者は 619 名(男性 440 名、女性 179 名)と長期にわたって継続受診している者が全体の 23.5%と多数みられた。今後受診者の増加を図るためには、継続受診者を確保するための栄養・運動指導を充実させるとともに、新規の受診者の増加が必要である。そこで、今年度初めての試みとして広く市民の方々の健康づくりを支援するために、「市民と市政」に掲載し、「骨粗鬆症予防」、「動脈硬化予防」、「健康寿命延長」などのテーマで募集を行った。参加者の方々には「日頃、疑問に思っていたことを丁寧に説明してもらい大変良かった。日々の生活に生かしたい。」等、適切なサポートをすることができた。今後もさらに広報活動を活発に行ない、関心度の高いテーマをとりあげ、生活習慣病一次予防や高齢者における QOL の低下を防ぐためにも積極的に健康増進コースを受診していただけるよう健康増進事業を一層推進していきたい。

受診者数(人)

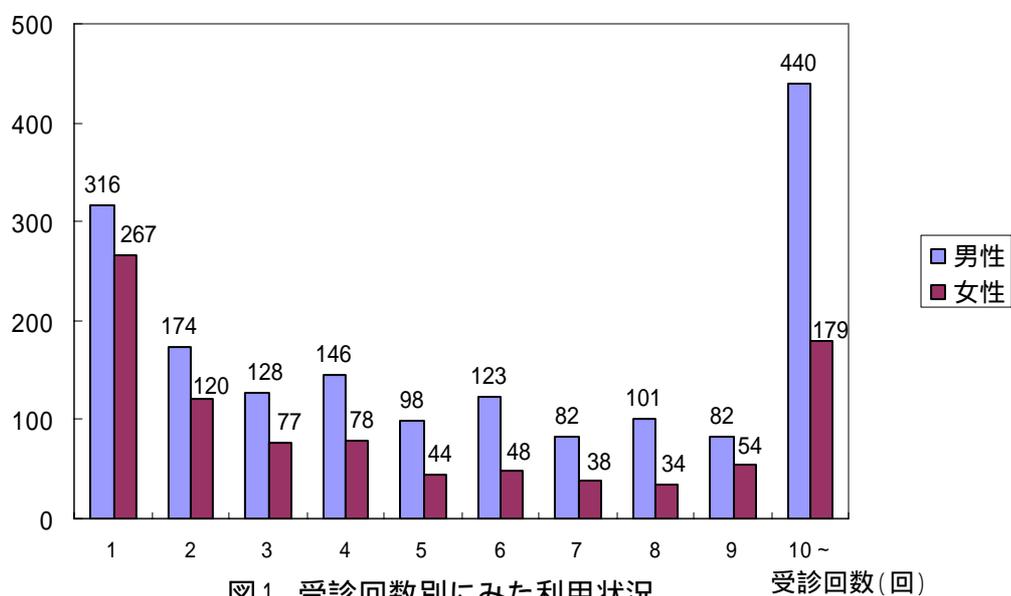


図1 受診回数別にみた利用状況

## 5 糖尿病予防対策事業

平成 10 年 8 月から、広島市を經由した厚生省の補助を受けて、糖尿病発症リスクの高い人に対して、糖尿病の発症予防を目的として、個々に応じた栄養指導・運動指導などの糖尿病予防教育を実施している。

検査項目は表 1、平成 10 年度から平成 17 年度の実施状況は表 2 のとおりである。

表 1 検査項目

項 目	栄養・運動指導	6 ヶ月後検診	1 年後検診
医師によるガイダンス			
血糖測定		*	
HbA <sub>1c</sub> 測定		*	
血圧測定			
身体計測			
眼底検査			*
尿検査		*	
ブドウ糖負荷試験			*
指導(栄養、運動、総合)			
運動負荷テスト			

\* オプション

\* 基本健康診査などのデータがある場合、省略可

[ 栄養・運動指導 ] 血糖やHbA<sub>1c</sub>などの血液検査とともに、糖尿病にならないための食事や運動についてアドバイス

[ 6 ヶ月後検診 ] 健康的な生活習慣が身についているかチェックする。

[ 1 年後検診 ] バランスのとれた食事や適度な運動の実践によってどのくらい効果があらわれたか調べる。

表 2 年度別実施状況

(単位：件)

年 度	栄養・運動指導	6 ヶ月後検診	1 年後検診	合 計
平成 10	119	2		121
11	161	92	34	287
12	126	61	86	273
13	205	89	52	346
14	202	93	121	416
15	171	70	168	409
16	151	57	141	349
17	118	183	176	477

糖尿病予防コースでは医療機関などで糖尿病になりやすい(IGT,糖尿病予備軍)と判定された方を対象に、糖尿病にならないための食事や運動について指導し、6 ヶ月後、健康的な生活習慣が身についているか、1 年後、どのくらい効果が現れたか、をチェックする。事業開始以来の登録者数は 1,338 人(平成 18 年 3 月末現在)でこのうち平成 17 年度の新規登録者数は 118 人である。糖尿病予防コースの平成 17 年度実施状況は表 3 のとおりである。

表 3 平成 17 年度年齢別・性別・コース別実施状況

(単位：人)

年 齢 (歳)	運動・栄養指導			6 ヶ月後検診			1 年後検診			合 計		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
～ 49	1	4	5	0	0	0	0	5	5	1	9	10
50 ～ 59	6	11	17	2	3	5	5	8	13	13	22	35
60 ～ 69	24	34	58	43	53	96	39	44	83	106	131	237
70 ～	12	26	38	41	41	82	43	32	75	96	99	195
合 計	43	75	118	86	97	183	87	89	176	216	261	477

医師・管理栄養士・運動指導員による受診者一人ひとりに適した個人指導が糖尿病一次予防に効果のあることを報告してきたが、今年度は、さらなる効果を得るために、あらたな試みとして、改善された生活習慣を維持・継続するために集団で講義を聴いたり、体操・調理などを楽しく体験することで参加者同士がお互いに良い刺激を受け、さらに糖尿病の予防に前向きに取り組めるようにと集団指導形式の健康教室を企画し、表4のような内容で実施した。定員20名の4回シリーズで参加を募ったところ、60名を超える多数の申し込みがあり大変好評のため、定員30名ずつで2回に分けて開催した。参加者の方々には次回教室への参加を希望する意見も多く、教室終了後には今まで定期的な受診を中断されていた方が再度受診を希望され、生活習慣をあらためる意欲を取り戻されるなど糖尿病発症予防のための継続的なサポートも可能となった。今後とも、糖尿病予防事業においても定期的な健康教室を開催し、受診者増加に繋げていきたい。

表4 糖尿病予防教室の内容 (13:00~15:30)

	日付	テーマ	担当者
第1回	1/26(木)	身体計測	医師 運動指導員
		転ばぬ先の基礎知識	
		元気じゃけん体操	
第2回	2/2(木)	気軽に運動!!いす体操	運動指導員
		食べ方の間違い発見&ティータイム	管理栄養士
第3回	2/9(木)	調理実習 ヘルシークッキング	管理栄養士
第4回	2/16(木)	血糖、HbA1c測定、身体計測	運動指導員 管理栄養士 医師
		快適な暮らしをサポート!!からだほぐし体操	
		健康食品の落とし穴	
		血糖コントロール術	

## 6 健康教育事業

健康に関する科学的知識の普及啓発を図るため、子供から高齢者までの各年齢層に応じた様々な健康問題について、最新で正確な情報を分かりやすく提供することにより、日常における健康管理について正しい知識の普及に努めた。

### (1) 健康科学展示施設の運営

人間のからだの仕組み、病気と健康、歯の健康等について子供から大人まで興味を持って学習できる拡大模型・映像・グラフィックパネル等の展示を行った。

ア 年間利用者数 41,562 人

平成17年度 健康科学館利用状況

(単位:人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
観覧者数	1,398	2,176	3,097	5,605	4,955	3,393	4,662	3,672	2,396	2,502	3,781	3,925	41,562
大人 (人)	762	1,178	1,378	2,574	2,175	1,751	2,102	2,118	1,423	1,453	2,290	2,211	21,415
小人 (人)	444	513	1,253	1,897	1,859	1,293	1,638	698	327	374	477	510	11,283
幼児 (人)	192	485	466	1,134	921	349	922	856	646	675	1,014	1,204	8,864
利用者数													
トータルヘルスシアター (回)	253	491	783	2,609	2,110	864	1,068	35	0	0	0	0	8,213
上映回数 (回)	40	69	48	112	152	77	60	6	0	0	0	0	564
研修会議室 (人)	345	917	1,955	4,830	4,955	1,971	2,093	1,653	423	619	1,246	1,124	22,131
研修会 (回)	6	8	6	4	0	12	2	7	7	6	13	11	82
オリエンテーション (回)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
ビデオ上映 (回)	5	4	23	3	1	17	33	15	3	3	11	14	132
その他 (回)	0	0	1	16	35	0	5	6	0	0	0	0	63
健康ライブラリー (人)	147	160	250	262	0	14	263	149	122	111	140	139	1,757
つどいの広場 (人)	-	-	-	-	-	-	1,210	1,007	1,087	1,097	1,413	1,573	7,387
大人 (人)	-	-	-	-	-	-	609	501	557	538	694	732	3,631
小人 (人)	-	-	-	-	-	-	12	7	8	8	10	4	49
幼児 (人)	-	-	-	-	-	-	589	499	522	551	709	837	3,707

平成17年10月1日から「つどいの広場事業」実施。

立体映像方式のトータルヘルスシアターが11月中旬に故障、3月末にビデオ上映方式で修繕完了。

利用者はそれぞれの機能ごとの利用者であり、館全体の利用者である観覧者数とは一致しない。

### イ 企画展の開催 年 4 回

企画展の観覧者数

名 称	期 間	日数	観覧者数(人)			
			大人	小人	幼児	合計
歯の大辞典	平成17年3月30日～6月30日	76	3,211	2,224	1,152	6,587
せまろう忍者の秘密	7月13日～8月28日	40	3,980	3,372	1,903	9,255
ひろしまそだちで元気じゃけん	11月1日～2月26日	90	4,642	1,792	3,157	9,591
笑う門には健康来る	平成18年3月1日～6月30日	26	1,412	501	1,204	3,117
合 計		232	13,245	7,889	7,416	28,550

「笑う門には健康来る」の観覧者数については、3月31日までの中途集計である。

### ウ パネル展 年 10 回

### (2) 健康ライブラリーの運営

健康に関する最新の健康情報を提供した。

### (3) 健康に関する教育研修の実施

- ・主催による研修会 (年 40 回) 参加者 2,813 人
- ・パパとママの育児教室 (年 34 回) 参加者 2,342 人
- ・他の関係機関との共催による研修会 (年 24 回) 参加者 2,402 人

- (4) ボランティア（ヘルスサポーター）の育成・活動事業  
・ボランティアの養成事業（年2回）  
・ボランティアの活動事業（年171回）

(5) 広報活動（TV・ラジオ取材等） 開催数 47回

(6) 展示物・資料等貸出 23回

(7) ファミリーサポートセンター事業

保護者の急な用事や残業の際の預かり、子育ての悩みなどに対応するため、ファミリー・サポート・センター（地域において子育ての援助活動を行う者と援助を受けたい者からなる会員組織）を設置し、会員同士の子育てに関する支援機能の充実を図った。

ア 会員の募集・登録など会員組織の管理運営

会員数 541人（提供会員：253人 依頼会員：231人 両方会員57人）

【H17.3.31現在】

イ 援助活動の調整

紹介件数 278件 【H17.10.1～H18.3.31】

ウ 提供会員講習会（援助活動に必要な知識普及）（年3回 9月、11月、1月）

エ 会員同士の交流（年1回 3月）

(8) つどいの広場事業

子育て家庭の親と子供が気軽につどい、育児相談などを行う常設の場を設置することにより、子育ての負担感の緩和や地域の子育て支援の充実を図った。

ア 常設のつどいの場の提供

イ 子育てに関する相談援助

ウ 子育て関連情報の提供

エ 子育て等に関する講習会の開催

利用者数 7,387人（大人3,631人 小人49人 幼児3,707人）【H17.10.1～H18.3.31】

## 7 放射線被曝者医療の国際協力事業への協力

### (1) 放射線被曝者医療国際協力推進協議会への協力

被爆地広島における放射線被曝者医療の経験とその蓄積を広く世界各地の放射線被曝者治療に役立てようと平成3年4月に発足した「放射線被曝者医療国際協力推進協議会(HICARE)」の主要推進団体として、医師等の受入（平成17年度は、8回にわたり20名の医師等の医療研修）及び研修方法・被曝者医療情報等の調査・検討を積極的に行った。

### (2) 来日原爆被曝者の健康診断、医療相談等の実施

国外に居住する被曝者が来日の際、健康診断および医療相談等を実施するとともに、健康管理手当申請等の相談にも応じるなど、在外被曝者への援助を引き続き行った。

平成17年度実績 (単位：人)

国 別	健康診断 受診者数	相談者数（延べ）
米 国	27	17
韓 国	16	0
その他	13	1
計	56	18

## 8 平成17年研究業績

### (1) 学会発表

第16回 広島スポーツ医学研究会(2月5日、広島市)

- ・入江三枝子、松村敏昭、堀川智恵、源内徳子、村上文代、伊藤千賀子、佐々木英夫：運動負荷試験成績よりみた耐糖能と虚血性心電図変化との関連性

第48回日本糖尿病学会年次学術集会(5月12-14日、神戸市)

- ・石田さくらこ、平田久美子、原田寿子、前田亮、村上文代、佐々木英夫、伊藤千賀子：高感度CRPの基準値の検討および動脈硬化性疾患における臨床的意義
- ・前田亮、石田さくらこ、原田寿子、平田久美子、伊藤千賀子：赤血球形態のヘモグロビン(Hb)A1cに及ぼす影響についての検討
- ・原田寿子、平田久美子、石田さくらこ、前田亮、村上文代、佐々木英夫、伊藤千賀子：プロインスリン値と糖尿病発症率との関連
- ・村上文代、堀川智恵、源内徳子、入江三枝子、平田久美子、原田寿子、石田さくらこ、佐々木英夫、伊藤千賀子：糖尿病の一次予防に関する研究 3年間の継続介入の成果
- ・入江三枝子、堀川智恵、源内徳子、村上文代、佐々木英夫、伊藤千賀子：運動負荷試験成績よりみた耐糖能と虚血性心電図変化との関連性
- ・源内徳子、堀川智恵、入江三枝子、村上文代、石田さくらこ、佐々木英夫、伊藤千賀子：高齢者における糖尿病一次予防のポイント 食生活因子からの分析

第60回国民体育大会 日本体力医学会大会(9月23-25日、岡山市)

- ・入江三枝子、村上文代、佐々木英夫：糖尿病の1次予防における運動の効果

第27回日本健康増進学会(10月1日、広島市)

- ・入江三枝子、松村敏昭、堀川智恵、源内徳子、村上文代、佐々木英夫：運動が高齢者のADLに及ぼす影響
- ・源内徳子、堀川智恵、片山美和子、入江三枝子、村上文代、佐々木英夫：高齢者の食生活とADLとの関連性に関する検討
- ・堀川智恵、源内徳子、片山美和子、入江三枝子、村上文代、佐々木英夫：糖尿病の一次予防を目的とした食生活指導

第182回広島県放射線医会(10月14日、広島市)

- ・安富浩子：神経ペーチェットの一例

第15回日本乳癌検診学会総会(11月4日、5日、京都市)

- ・川野弘恵、田村隆行、吉川 健、山本 茂、村上 茂、吉田和弘、大崎昭彦、佐々木英夫：広島市健康づくりセンターにおけるデジタルマンモグラム併用乳癌検診の評価

日本糖尿病学会中国四国地方会第43回総会(11月11-12日、高松市)

- ・吉良さくらこ、平田久美子、原田寿子、前田亮、村上文代、佐々木英夫、伊藤千賀子：膵癌死亡と耐糖能の関連
- ・原田寿子、平田久美子、吉良さくらこ、前田亮、村上文代、佐々木英夫、伊藤千賀子：微量アルブミン尿と虚血性心疾患死亡との関連
- ・入江三枝子、堀川智恵、源内徳子、村上文代、佐々木英夫、伊藤千賀子：糖尿病発症予防における余暇運動量の検討
- ・源内徳子、堀川智恵、入江三枝子、吉良さくらこ、村上文代、佐々木英夫、伊藤千賀子：糖尿病の一次予防における介入頻度に関する検討
- ・堀川智恵、源内徳子、入江三枝子、吉良さくらこ、村上文代、佐々木英夫、伊藤千賀子：アルコール摂取量の糖尿病及び動脈硬化症発症への影響

第58回広島医学会総会(11月12日-13日、広島市)

- ・前田亮、井上典子、佐々木英夫：小球性貧血のヘモグロビン(Hb)A1cに及ぼす影響について

## (2) 講演会

いきいき健康づくりフォーラム（2月8日、広島市）

・佐々木英夫：南区民のおいしい生活をプロデュースします - 超げんき超長生きするために -

広島ビッグウェーブセミナー（5月19日、広島市）

・源内徳子：今からでも大丈夫！いきいき若返りセミナー 「若さを保つ」脳いきいき食生活

広島ビッグウェーブセミナー（5月23日、26日、広島市）

・入江三枝子：今からでも大丈夫！いきいき若返りセミナー 「若々しい身体」を保つ運動のこつ

第23回備後糖尿病セミナー（5月26日、福山市）

・吉良さくらこ：糖尿病の運動療法

日本病態栄養学会 平成17年度教育セミナー（6月12日、広島市）

・村上文代：栄養アセスメント

・村上文代：ケーススタディ 糖尿病

広島市西保健センター 糖尿病予防教室（7月6日、広島市）

・吉良さくらこ：よくわかる糖尿病のはなし

第6回運動疫学セミナー（8月4日 - 6日、名古屋市）

・佐々木英夫：疫学方法論1・演習

平成17年度JICA研修コース（8月29日、広島市）

・佐々木英夫：生活習慣病予防のための研究・事業

秋季国体研修会（10月11日、広島市）

・佐々木英夫：ドーピングコントロールについて

平成17年度ドクターズミーティング・シンポジウム（10月16日、岡山市）

・佐々木英夫：広島県の取り組み

第6回歩いて学ぶ広島糖尿病ウォークラリー（10月23日、広島市）

・吉良さくらこ：青空教室

・入江三枝子：レクリエーション

元気じゃけんひろしま21推進事業 健康ウォーキング推進者養成講座（10月24日、広島市）

・佐々木英夫：ウォーキングの効用

・入江三枝子：元気じゃけん体操とウォーキング

広島ビッグウェーブセミナー（10月27日、広島市）

・源内徳子：ズバリ「減量対策」を！ 上手にやせる食生活のかぎ

広島保健福祉学会第6回学術大会シンポジウム（11月12日、三原市）

・佐々木英夫：糖尿病予防・改善と運動

広島市安佐北保健センター 糖尿病予防セミナー（11月17日、広島市）

・吉良さくらこ：増えています。糖尿病！～糖尿病はなぜこわい～

原爆被爆者総合相談会（11月21日、宇部市）

・佐々木英夫：被爆者の健康管理について

### (3) 論文

- ・ 佐々木英夫：スポーツ医の活動について．臨床スポーツ医学 22(3)：319-321, 2005
- ・ 車谷 洋、佐々木英夫、村上恒二、三宅勝次、村上邦弘、大和弘治：走行路面の状態が下肢筋活動に与える影響．広島陸上競技研究 8：35-38, 2005
- ・ 佐々木英夫：編集後記．広島陸上競技研究 8：39, 2005
- ・ 佐々木英夫：地域を支えるセンター - 健康管理・増進センター．広島県内科会誌 6：36-37, 2005
- ・ 佐々木英夫：国体における帯同医活動 - 広島県における取り組み - ．メディカルガイド：5-7, 2005
- ・ 佐々木英夫：不整脈．広島県体育協会スポーツ医学委員会編「ジュニア選手の健康管理マニュアル - 指導者向け - その3」広島県体育協会：58-61, 2005
- ・ 佐々木英夫：健康管理・増進センターの役割．広島市医師会だより 12：2, 2005
- ・ 石田さくらこ：生活習慣の改善指導を内容とする糖尿病予防事業．日本臨床，63 巻 増刊号 2：578-581，2005．
- ・ 石田さくらこ：IGT という概念よりもメタボリックシンドロームは糖尿病発症や心血管イベントの予測に適しているか - 広島県における住民検診データから - Prog. Med. 25：69-73，2005．
- ・ 前田亮、伊藤千賀子：血漿 anhydro-glucitol (1,5AG 値)．日本臨床増刊号 耐糖能障害：386-389，2005．
- ・ 村上文代：耐糖能障害 基礎・臨床研究の最新情報 食品の摂取状況．日本臨床，63 巻増刊号 2：207-210，2005．
- ・ 村上文代：脳卒中の現場から．肥満と糖尿病，Vol.4．No.5：794-806，2005．
- ・ 入江三枝子、佐々木英夫、伊藤千賀子：耐糖能障害 基礎・臨床研究の最新情報 運動量（余暇運動量など）．日本臨床，63 巻増刊号 2：220-223，2005．
- ・ 入江三枝子、松村敏昭、源内徳子、村上文代、伊藤千賀子、佐々木英夫：運動負荷試験成績からみた耐糖能と虚血性心電図変化との関連性．広島スポーツ医学研究会誌，Vol.6：2-6，2005
- ・ 入江三枝子：さあ、はじめよう！健康ウォーキング．広島体指，第 51 号：3，広島市体育指導委員協議会，2005．
- ・ 源内徳子、村上文代：耐糖能障害 基礎・臨床研究の最新情報 耐糖能低下の高齢者に対する食事指導．日本臨床，63 巻増刊号 2：509 - 512，2005．
- ・ 源内徳子、堀川智恵、片山美和子、入江三枝子、村上文代、伊藤千賀子、佐々木英夫：中学生・高校生の競技スポーツ選手における食生活状況 栄養補助食品の摂取状況 ．広島陸上競技研究，Vol.8：27-33，2005．
- ・ 源内徳子：糖尿病の一次予防をめざして．糖尿病ライフ さかえ，Vol.45．No.10：57，2005．
- ・ 源内徳子：スポーツと食事～その3～ 食事で解消 スポーツ貧血．ウイング，Vol.39：13，(財)広島市スポーツ協会，2005.1.
- ・ 源内徳子：スポーツと食事～その4～ 栄養補助食品をどう使う？．ウイング，Vol.40：15，(財)広島市スポーツ協会，2005.3.
- ・ 源内徳子：スポーツと食事「炭水化物」編．ウイング，Vol.41：13，(財)広島市スポーツ協会，2005.6.
- ・ 源内徳子：スポーツと食事「脂質」編．ウイング，Vol.42：13，(財)広島市スポーツ協会，2005.9.

## 資 料

### 1 お年玉付き郵便葉書に付加された寄附金配分金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	配分金額
昭和 34 35	原爆被爆者福祉センター本館建設	55,844,000	52,300,000
38	健診車、原爆被爆者福祉センター暖房設備設置	27,379,000	16,850,000
41	原爆被爆者福祉センター増築	92,100,000	41,000,000
43	テレビレントゲン装置、オートアナライザー設置	30,490,000	20,000,000
45	原爆被爆者福祉センター増改築	56,548,000	25,000,000
47	ハイゼルマーク X、コールターカウンター設置	59,000,000	29,000,000
49	コールターカウンター搭載健診車(1号車)購入 パンスパイロコンピュータ設置	39,828,000	24,000,000
51	胃検診用 X 線テレビジョン装置 コールターカウンター設置	43,900,000	23,000,000
53	X 線テレビジョン装置 胸部一般撮影用装置設備	37,600,000	23,000,000
55	自動血球分類装置(diff-3)	50,000,000	28,000,000
57	コールターカウンター搭載健診車(2号車)購入	42,800,000	28,000,000
59	コールターカウンター搭載健診車(1号車更新)購入	42,920,000	30,000,000
61	コンピューテッドラジオグラフィ(CR-501) 胃透視用 X 線テレビ装置設備	76,000,000	40,000,000
63	コンピューテッドラジオグラフィ(CR-201) CR 専用 X 線透視撮影台設備	156,000,000	70,000,000
平成 2	超電導 MRI 装置設置	83,430,000	50,000,000
4	コールターカウンター搭載健診車(2号車更新)購入 コンピューテッドラジオグラフィ CR7501(CR-501 更新)	78,000,000	46,000,000
6	コールターカウンター搭載健診車(1号車更新)購入 コンピューテッドラジオグラフィ CR9000(CR-201 更新)	134,000,000	67,000,000
8	CR 用 X 線透視撮影装置 MRI 装置のバージョンアップ	92,000,000	36,000,000
10	コンピューテッドラジオグラフィ CR9000(CR-7000 更新) 心電図データマネジメントシステム	73,500,000	25,725,000
12	MRI 装置(更新)	144,375,000	10,000,000
14	自動血球計算装置(更新)	21,315,000	7,460,000
16	全自動血球計算装置搭載健診車(2号車更新)	33,180,000	10,000,000
	合 計	1,470,209,000	702,335,000

## 2 日本自転車振興会補助金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	補 助 金
昭和 41	原爆被爆者有福温泉療養研究所 建設工事・用地買収整備	46,885,000	29,150,000
42	原爆被爆者健康管理設備等の整備 健康診断用自動車整備・X線装置整備	5,565,000	2,550,000
43	原爆被爆者有福温泉療養研究所 暖房設備工事・倉庫建設工事	15,401,000	5,430,000
平成元	原爆被爆者の診療機器の整備 CR専用X線透視撮影台	74,469,000	37,234,500
3	原爆症診療機器の整備 X線骨密度測定装置・超音波診断装置	29,272,000	14,636,000
5	原爆症診療機器の整備 胃集検用X線デジタルラジオグラフィ装置	65,000,000	32,500,000
7	原爆症診療機器の整備 CR用X線透視撮影装置	36,000,000	14,420,000
9	原爆症診療機器の整備 X線骨密度測定装置	24,675,000	6,825,000
11	原爆症診療機器の整備 X線テレビ装置(DRシステム)	32,025,000	14,700,000
13	原爆症診療機器の整備 超音波診断装置	16,695,000	8,242,000
合 計		345,987,000	165,687,500

## 3 車両競技公益資金記念財団補助金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	補 助 金
昭和 53	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室の増改築、消防設備・機械室の整備	22,550,000	7,560,000
62	原爆被爆者有福温泉療養研究所 ロビー事務室改修工事、食堂拡張及び内装工事	21,390,000	14,260,000
平成 4	原爆被爆者有福温泉療養研究所 客室内装工事、アルミサッシ取替工事	45,629,000	29,520,000
9	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室・浴槽改修工事、リネン室防水工事	36,236,500	15,300,000
10	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋上陸屋根防水工事	20,454,000	10,220,000
合 計		146,259,500	76,860,000

#### 4 広島県補助金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	補 助 金
昭和 41	被爆者援護福祉事業	2,906,964	800,000
42	被爆者援護福祉事業	1,998,945	800,000
43	被爆者援護福祉事業 原爆被爆者有福温泉療養研究所 暖房・倉庫建設工事	2,900,650 15,401,000	800,000 3,000,000
44	被爆者援護福祉事業	2,957,580	800,000
45	被爆者援護福祉事業	3,010,450	800,000
46	被爆者援護福祉事業	2,753,710	800,000
47	被爆者援護福祉事業	3,209,700	800,000
48	被爆者援護福祉事業	4,227,500	1,300,000
49	被爆者援護福祉事業 原爆被爆者有福温泉療養研究所 冷暖房取付工事	4,028,242 6,350,000	1,500,000 3,000,000
50	被爆者援護福祉事業	5,568,000	1,500,000
51	被爆者援護福祉事業	5,260,000	1,500,000
52	被爆者援護福祉事業	5,372,000	1,500,000
53	被爆者援護福祉事業 原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室増改築工事等	6,188,000 22,550,000	1,500,000 6,000,000
54	被爆者援護福祉事業	6,494,000	1,500,000
55	被爆者援護福祉事業	6,335,000	1,500,000
56	被爆者援護福祉事業 原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋根防水改修工事等	6,447,000 15,100,000	1,500,000 6,040,000
57	被爆者援護福祉事業	5,660,000	1,500,000
58	被爆者援護福祉事業	6,011,000	1,500,000
59	被爆者援護福祉事業	5,467,000	1,500,000
60	被爆者援護福祉事業 原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋根防水工事等	5,541,000 13,400,000	1,500,000 4,280,000
61	被爆者援護福祉事業	5,511,000	1,500,000
62	被爆者援護福祉事業 原爆被爆者有福温泉療養研究所 食堂拡張工事等	6,145,000 21,390,000	1,500,000 2,852,000
63	被爆者援護福祉事業	6,230,000	1,500,000
平成元	被爆者援護福祉事業	6,473,000	1,500,000
2	被爆者援護福祉事業	6,621,000	1,500,000
3	被爆者援護福祉事業	6,775,000	1,500,000
4	被爆者援護福祉事業 原爆被爆者有福温泉療養研究所 内装工事等	6,914,000 45,629,000	1,500,000 6,442,000
5	被爆者援護福祉事業	6,043,000	1,500,000
6	被爆者援護福祉事業	4,364,000	1,500,000
7	被爆者援護福祉事業	4,717,780	1,500,000
8	被爆者援護福祉事業	4,571,000	1,500,000
9	被爆者援護福祉事業 原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室・浴槽改修工事等	4,637,000 36,236,500	1,500,000 7,800,000
10	被爆者援護福祉事業 原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋上陸屋根防水工事等	4,771,000 20,454,000	1,366,000 4,093,000
11	被爆者援護福祉事業	4,026,000	1,146,000
12	被爆者援護福祉事業	3,587,000	1,123,000
13	被爆者援護福祉事業	2,023,000	694,000
14	被爆者援護福祉事業 原爆被爆者有福温泉療養研究所 空調設備更新工事等	2,272,000 15,823,500	951,000 5,279,000
15	被爆者援護福祉事業	2,612,000	1,148,000
16	被爆者援護福祉事業	3,099,000	1,033,000
合 計		396,062,521	99,147,000

## 5 広島市補助金による実施事業

(単位：円)

年 度	事 業 名	事業費総額	補 助 金
昭和 41	被爆者援護福祉事業	2,903,964	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 建設工事	46,885,000	9,727,000
42	被爆者援護福祉事業	1,998,945	1,000,000
43	被爆者援護福祉事業	2,900,650	1,000,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 暖房・倉庫建設工事	15,401,000	3,000,000
44	被爆者援護福祉事業	2,957,580	1,000,000
45	被爆者援護福祉事業	3,010,450	1,000,000
46	被爆者援護福祉事業	2,753,710	1,000,000
47	被爆者援護福祉事業	3,209,700	1,000,000
48	被爆者援護福祉事業	4,227,500	1,500,000
49	被爆者援護福祉事業	4,028,242	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 冷暖房取付工事	6,350,000	3,000,000
50	被爆者援護福祉事業	5,568,000	1,700,000
51	被爆者援護福祉事業	5,260,000	1,700,000
52	被爆者援護福祉事業	5,372,000	1,700,000
53	被爆者援護福祉事業	6,188,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室増改築工事等	22,550,000	6,000,000
54	被爆者援護福祉事業	6,494,000	1,700,000
55	被爆者援護福祉事業	6,335,000	1,700,000
56	被爆者援護福祉事業	6,447,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋根防水改修工事等	15,100,000	6,040,000
57	被爆者援護福祉事業	5,660,000	1,700,000
58	被爆者援護福祉事業	6,011,000	1,700,000
59	被爆者援護福祉事業	5,467,000	1,700,000
60	被爆者援護福祉事業	5,541,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋根防水工事等	13,400,000	4,280,000
61	被爆者援護福祉事業	5,511,000	1,700,000
62	被爆者援護福祉事業	6,145,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 食堂拡張工事等	21,390,000	2,852,000
63	被爆者援護福祉事業	6,230,000	1,700,000
平成元	被爆者援護福祉事業	6,473,000	1,700,000
2	被爆者援護福祉事業	6,621,000	1,700,000
3	被爆者援護福祉事業	6,775,000	1,700,000
4	被爆者援護福祉事業	6,914,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 内装工事等	45,629,000	6,442,000
5	被爆者援護福祉事業	6,043,000	1,700,000
6	被爆者援護福祉事業	4,364,000	1,700,000
7	被爆者援護福祉事業	4,717,780	1,700,000
8	被爆者援護福祉事業	4,571,000	1,700,000
9	被爆者援護福祉事業	4,637,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室・浴槽改修工事等	36,236,500	7,800,000
10	被爆者援護福祉事業	4,771,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋上陸屋根防水工事等	20,454,000	4,093,000
11	被爆者援護福祉事業	4,026,000	1,530,000
12	被爆者援護福祉事業	3,587,000	1,530,000
13	被爆者援護福祉事業	2,023,000	1,329,000
14	被爆者援護福祉事業	2,272,000	1,300,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所 空調設備更新工事等	15,823,500	5,279,000
15	被爆者援護福祉事業	2,612,000	1,300,000
16	被爆者援護福祉事業	3,099,000	715,520
	合 計	442,944,521	117,517,520

## 6 日本高等学校教職員組合等からの寄附金

(単位：円)

年 度	日本高等学校教職員組合	個人・その他の団体	合 計
昭和 38	30,000	180,638	210,638
39	37,298	158,881	196,179
40	-	485,027	485,027
41	30,000	385,603	415,603
42	-	503,278	503,278
43	97,075	354,883	451,958
44	72,916	556,012	628,928
45	276,389	220,175	496,564
46	176,664	435,108	611,772
47	475,358	533,674	1,009,032
48	630,433	358,972	989,405
49	876,166	432,000	1,308,166
50	1,008,761	450,982	1,459,743
51	1,091,674	290,000	1,381,674
52	1,212,000	235,500	1,447,500
53	1,224,093	943,000	2,167,093
54	1,464,294	150,000	1,614,294
55	1,444,053	380,000	1,824,053
56	1,316,185	85,000	1,401,185
57	1,514,511	580,070	2,094,581
58	1,583,894	308,000	1,891,894
59	1,532,635	342,000	1,874,635
60	1,505,193	103,000	1,608,193
61	1,468,864	1,710,500	3,179,364
62	1,496,799	88,400	1,585,199
63	1,514,795	63,755	1,578,550
平成元	1,574,770	305,000	1,879,770
2	1,501,600	415,000	1,916,600
3	1,586,500	5,000	1,591,500
4	1,617,000	0	1,617,000
5	1,487,000	0	1,487,000
6	1,425,000	510,000	1,935,000
7	1,480,000	0	1,480,000
8	1,525,000	470,000	1,995,000
9	1,400,000	1,800,000	3,200,000
10	1,435,000	0	1,435,000
11	1,345,000	250,000	1,595,000
12	1,300,000	0	1,300,000
13	1,270,000	0	1,270,000
14	1,160,000	50,000	1,210,000
15	1,110,000	5,025,000	6,135,000
16	970,000	0	970,000
17	980,000	301,033	1,281,033
合 計	45,246,920	19,465,491	64,712,411

## 7 全国から寄せられた寄附金

(資料6再掲, 敬称略)

年度	合計金額	件数	寄付者氏名
昭和 29	239,486 円	39 件	埼玉県比企郡自然科学研究所, 中和孝三, 若月一夫, 広島ロータリークラブ, 無名子, 斉藤金三, 東京都渋谷区議員団, サンエッチ外, 中井一夫, 中島茂, 無名子, NHK 一般募金, 大阪市立松宮小学校同窓会, 清水達造, 伊勢谷洋一, 増川義信, 広島美術人展, 岸英一, 毛利典攬, 米子市口陰田婦人会並青年団, 豊田郡大草村青年団 支部代表者吉田宣徳, 日本国民健康会長和気清喬, 吉本美枝子, 中野正義, 匿名, 中国電波管理局組合支部長, 石田ハル, 一凡人, 沢千代子, 田川一男・順二, 傷痍軍人会・長門労働組合連合会・長門連合青年会, 原爆障害者救援会会員一同, 一海上自衛隊員, 匿名人, 池田稔, 宮原高等学校弁論部, セタヤ・ピカッシュ・バーナジエ, 広島県博愛協議会中島茂, 池田稔
30	419,804 円	38 件	池田稔, 広島ライオンズクラブ会長寺田豊, 湯浅傳, 池田稔, 蓑 豊子外 24 名, 青山晴男, 佐々木一, 岩手小学校五年一組 34 名一同, アイラ・レ・モーリス, 広島県博愛協議会中島茂, 土岡博一, 能代市職域文化団体連絡協議会笹村堅一郎, 匿名, 奥田洋子, 法政大学県人会, 京都子供カリタス会, 一高校生, 朝枝章, 広島平和美術展事務局, 大阪T生, 匿名, 銀座東宝社長, 呉市宮原高校卒業生ブラタナス会代表竹中三郎, 原水爆禁止小金井準備会長鈴木誠一, 海老名町青年団, 斉藤嘉輔・明子, 小倉市I子, 藤岡女子高等学校生徒会, ブラジル・マルネイラセーマ町より, 原田久, 高知県安藝郡教員組合, 原田東岷, ポートドーバーライオンズ倶楽部, セントピーターライオンズ倶楽部, 原爆惨禍相起協議会長遠藤南史, 美 ミシン工業株式会社, 近藤ミシン株式会社, 明治大学広島県人会
31	3,230,819 円	98 件	原爆惨禍想起協議会長遠藤南史, 島田平和の集い準備会島田市長, 北海道農民同盟青年部, 富山市奥田枝下婦人会, 島田市クリスタルクラブ, 森廉, 下呂平和を護る会準備会, 柳川小学校六年一組一同, 無名, 浜崎谷松, 落合一男, 藤村進, マレー ヤング, 古谷良念, 無名子, 海上自衛隊 隊十五分隊, 安芸教区仏青連協議会長 重一教, 渡辺弘子, 大阪住友金属工業会社外十二社, 東海田町青年団寺迫支部代表田原 男, 医師会卒業生無名氏, 横浜市新生活運動婦人会一同, 福家俊明, 野溝 人, ある少女, 森数美, 一女生, 大阪東区一高校女学生, 高橋信雄, 徳原芳子, 遠藤南史, 小林蘊徹, 梅林とし子, 榎原彰夫, 無名氏, 八・一五終戦記念平和の夕世話人会代表堀口恒次, 無名氏, 山口県豊田町殿居地区婦人会長岡崎あつ子, 服部保外十四名, 全国連合竹和会, 賀茂郡造賀村婦人会代表辻川静枝, 中山教進・ 国定典明, 神阪子, 国鉄幡生工場原爆罹災者救援会小西旭, 山崎常雄外九名, 中学一少女, 東淀川平和の夕実行委員会, 古谷良念, 尾久母の会南支部・仲支部・東支部一同, 兄妹三人無名子, 茶谷京子, 田中卓爾, 広本露子, 大谷高校二年生, 高橋又一, 鉄砲町一吉方一, 元宇品小学校五年生一同, 大阪市内某氏, 菊池京子, 一中学校学級一同, 大原乙彦, 広島市原子力平和利用博覧会長渡辺忠雄, 井口愛之助, 大森植松, 柳田孝, 東京都共同募金会長藤山愛一郎, 兵庫県共同募金会長岡崎忠, 無名士盲人, 茨城県取手 学校生徒会長大久保征夫, 北米加州パークレー広島県人会長大館誓一, 大阪某氏, 無名氏, 孟範, 遠藤南史, 身体障害者厚明会長, 中国訪日京劇団代表・朝日新聞社, 井上敏子, 秋本庸夫, 山田千恵子, 大歳盛明, 太陽海運株式会社, 長井あきよ, 山田千恵子, 三人の友達, 成名小学校・鴨川中学校, 維信高等学校二年D組ひらぎグループ, 広島県司法書士会員総会出席者有志, 全国司法職員労働組合広島支部, 宮崎迫彦, 安永隆夫, 金沢薫台高等学校二年修学旅行団, 羽昨高等学校生徒会, アーヴィンクンツ夫妻, 高木俊子, 羽田良正, 益村弥太郎, クロンドチーク
32	149,684 円	21 件	大森シゲ, 山田 , 井木康秀, 赤川正章, 匿名氏, 山田千恵子, 斉藤明子, 読売新聞社新聞 委員会, 取石小学校児童会, 金清公夫, 一青年, 宮原太郎, 下広井原青年団小川博 外十三名, 匿名, 栗栖勝, 久留米市匿名, 法政大学建築科一同, 城東中学校生徒会, 上田柳吉, 吉坂中学校原田耕滋外十四名, フレデークイン
33	293,316 円	50 件	日本原水爆被災者救援会代表篠原つる子, 増田呉省, Medizinische Klinik, 朝山カツノ, 江田島自衛隊 学校生徒, 高校三年図書部・ 君子, 匿名, ドイツ医学週間法出版社, 東京田無町婦人連絡協議会, シチズン時計工場内文化部映画班, 田口正治, 大竹市小方中学生徒会, 一無名士, 清香仏教青年会, 名田典子, 岩国市立東小学校五年二組一同, 橋詰博, 三立製菓株式会社・鈴木自動車工業会・ トマト会外三社, 吉原信之, 斉藤明子, 漫画協団代表筑摩鉄平, 中豊純子・實二, 秋田県沖田 小学校五年生一

年度	合計金額	件数	寄付者氏名
昭和33			同、京都市一中学生、第一製菓・三共　・オリンパス光学・カミシマ製作社・小野田セメント・沖電気工業会社・三菱電気・東芝商事、高校生二名、梅津町青年団西江支部、横山妙、田口正治、　無名氏、大洲病院一同、築地子供会、東町連合子供クラブ一同、川崎市東芝　附工、段原女子女学園中学一年六組一同外匿名三、野口あき、東京電気大学　学校・浜田加代子・土肥邦雄・三村豊・タクシー運転手・松下和義・山田洋士・東京忍岡高校生・　川　、屋代小・中学校・戸倉中学校、匿名、広島県　・吉本勝・浜田カヨ子、山田千恵子、高橋昭博、杉淵徳治、山田千恵子、河野次郎・県教職組合・乃美小学校6年　組、　尾富美子
34	575,892 円	32 件	丸本杏男、山田千恵子、日本むつみ会、山田千恵子、奈良県一　人、山田千恵子、吉岡隆夫、神戸市親和高校グループ、日本むつみ会老生、山田千恵子、金沢兼之助、東京福祉協会理事小祝昌弘、四人の女月光飯面、一読者、愛知トマトKK他7社、日本むつみ会老生、(匿名)、大阪一女性、匿名者、田口正治、グレチエン・タットヒル、古賀和紀、グレチエン・タットヒル、金光教群馬県西部連合会、藤村弘、全日労組合広島地方会議組合員、篠村つる子、香川県千羽鶴運動実行委員会、イタリア生、(匿名)、浦辺和美外三名、徳竹道生外一名
35	78,957 円	17 件	広島予研支所匿名、広島予研支所匿名、アーサー・マリー・アイビンダー、赤松鉄也、赤松鉄也、匿名、篠村つる子、金子健次郎、大阪 K.E.氏、匿名、匿名、山田千恵子、山田千恵子、森新一、山田千恵子、原水爆禁止大川市協議会長古賀清治、広島県競輪選手会
36	1,935,402 円	30 件	紺野光吉、紺野光吉、日本原水爆被災者救援協会代表富井令子、石田久子、山田キク、関つる、山蔭貫之、関つる、紺野光吉、日本電装労働組合、ルイス・カヴレル、匿名、匿名2名、全大丸労働組合神戸支部、全国財務労働組合、紺野光吉、原田東岷、安佐郡長束地区婦人会長原田静枝、寺本典夫、佐藤富子、土井憲策、山崎君子、愛知県立明和高等学校定時制夜間課程職員生徒一同、石川県立工業高等学校デザイン科有志、紺野光吉、原爆傷害調査委員会代表ジョージ・B・ダーリング、紺野光吉、柿原幸二、小崎芳子、紺野光吉
37	140,129 円	19 件	紺野光吉・無名氏、三次中学校、三次町本通一子供会、紺野光吉・匿名、山田千恵子、小川亀三、日　一社員外三氏匿名、紺野光吉・m.y.、清水芳郎、駒込学園一同、呉造船労組宮原地区家族会、日本司法書士会連合会総会出席者、東大教育学部高校一年A組、板木節夫、藤田正行、河原卓一、安永茂雄、日下部春一、岩滝宗雄
38	210,638 円	23 件	神戸市育英高等学校一年十組、中村勝弥、奥田光太郎、空調タイムス社代表取締役杉本英太郎、大歳盛明、志村寛一、ノートルダム清心高等学校三年生一同、山田千恵子、山田千恵子、徳島県民主社会主義青年連合組織部長岡内淑夫、般若太郎外七口、岡本稔雄・吉田町役場職員組合、村上春雄、ロスアンゼルス・シカゴミヤコ観光団、日本高等学校教職員組合、中川シゲノ、山口親愛教会 S 氏、(匿名)、本間妙海、匿名、村上和輝、日赤東京都支部寄託、読売新聞社寄託
39	196,179 円	18 件	読売新聞社寄託2名、日赤東京都支部寄託、匿名、山田千恵子、中国新聞社会事業団寄託、政治経済研究会代表番匠朝昭、日本高等学校教職員組合代表磯本達則、中国新聞社会事業団寄託、土手和海外二名、原水爆禁止門　市協議会会長東重太郎、金沢なでしこ会三人、金光教広島県連合会外二件、岐阜県立中津高等学校職員二学年一同、黒瀬町上黒瀬小学校五年生一同、福島県石川実務学園長外三ヶ所、朝日新聞山口支局寄託、石川県立金沢高等学校二四ホーム一同、大　七一
40	485,027 円	23 件	神戸新聞厚生事業団寄託、石川県金沢高等学校修学旅行団、パリ大学医学部ウェーグマン教授夫妻、中川製袋化工 KK35 周年記念会招待者一同、　生製作所労組、渋谷区代々木善明会教団、全国自動車産業労働組合連合会東海支部、山形県 16 歳学生、中島マチ、豊島区 S.K、こばやし、塚本利光、大豊　樹、尾川昭外七ヶ所、比和中学校福田部落会生徒、キリンビール労働組合広島工場支部長　永　、松岡洋子・岡本・玉置せき、東京電気大学高校普通科二年生一同、日本大学豊山学園友輪会、豊橋市時　高校二年一組一同、豊川地方労働組合、　田照夫、石本タケノ
41	415,603 円	18 件	喫茶ガーネット、小池静子外二名、県内に住む一女性、三宅千代子、日本高等学校教職員組合中央執行委員長磯本達則、善明会教団東京支部、セント・ジエルジ博士、右田辰雄・原水爆禁止議員連盟外二名、東京電機工業高等学校定時制及全日制生徒　キリスト　、大阪市旅行クラブ「浪花会」、国際協力及軍備に関するオーストラリアニューージーランド委員会、吉田達雄、安田火災労働組合東京分会青年婦人部一同、土井憲作、南千田ヘルスセンター、山本雅子、矢沢一民、旧普通科神　高等学校一年三組

年度	合計金額	件数	寄付者氏名
昭和 42	503,278 円	21 件	川上ナル工, 堤健一郎, 徳原スミ子, 飯田商店外二者, 杉山博康, 小松修, 神戸外大二部原水禁実行委員会一同, 片山茂樹, 法眼 外五件, 三次市栗原町婦人会外二件, 新潟県十日町市原水禁協議会長服部慶円, 読売新聞社寄託, 金洞海, 山形 KO, 東京電機大学高校工業科二学年一同・定時制四年 C 組一同, 奈良県青龍寺小西妙淳, 全日本印刷工業組合連合会中国地区印刷工業組合協議会広島県印刷工業組合, フランス人シャンボイゼ, 新田修三, 関川守彦, 下松市私立慈光園長・匿名梓蔭高校
43	451,958 円	20 件	日本高等学校教職員組合, 長崎原子爆弾被爆者対策協議会長諸谷義武, 日本火薬福山工場ダンス同好会一同, 本田英郎, 日本高等学校教職員組合, 大口あさを, 金井政吉, 姫路市匿名, 舟入本町商店街, 広島市の者, 藤井音次郎, 新潟県十日町市原水禁協議会長服部慶円, 沖一成, 藤井音次郎, 日本高等学校教職員組合, 東海大学原子力教室, ビクターオート(株)広島営業所, 酒井幸四郎, 藤井音次郎, 藤井音次郎
44	628,928 円	23 件	香川県高等学校教職員組合執行委員長古川静夫, 藤井音次郎, 水木ナツ, 藤井音次郎, 小島静江, 金井政吉, 入田律子, 舟入本通会, 一老人, 田中茂, 新潟県十日町市原水爆禁止協議会, 藤井音次郎, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長曾我部忠一, 日本高等学校教職員組合執行委員長古川静夫, 桂雄一, 徳山市蟻の会代表水木敏郎, 鈴川寅二, ヒロスイ株式会社社員加賀愛万・下岡好一・西村浩, 鯉城クラブ, 藤井音次郎, 大園英彦, 藤井音次郎, 小野広秋
45	496,564 円	27 件	藤井音次郎, 友広和夫, 一匿名者, 一匿名者, 金井政吉, 匿名の一少女, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長曾我部忠一, 藤井音次郎, 神戸市職青年部神戸市葦合区役所・神戸市生田区役所有志, 堀内登久子, 新潟県十日町市原水爆禁止協議会, 匿名者, 湧井雅晴, 小西清, 高田和典, 法政大学女子高校 1 年 F 組, 岩室久一, 横光利之, 苫小牧西高等学校新聞局, 明大附属中野中学校 2 年生, 藤井音次郎, 一市民, 狩野重治, 藤井音次郎, 岡野チヨノ, 八木千代, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長曾我部忠一
46	611,772 円	19 件	藤井音次郎, 藤井音次郎, 金井政吉, 広島市無名氏, 藤井音次郎, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長山本弘之, 柴崎英治, 原水爆禁止十日町市協議会長松井愛美, 三重県立紀南高等学校修学旅行団一同, 藤井音次郎, 今田稔穂, 広島木工製材機械協会, 森崎律子, 藤井音次郎, 広島市匿名氏, 安佐ボール社長武智義則, 広島市無名氏, 藤井音次郎, 藤井音次郎
47	1,009,032 円	20 件	山口大学 YMCA 代表者山崎まり子, 藤井音次郎, 松川宣正, 松川宣正, 広島市 Y 子, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長山本弘之, 下田工業株式会社広島支店長小野敏次, 広島市無名氏, 原水爆禁止十日町市協議会長松井愛美, 新谷五郎, 松坂次男, 藤井音次郎, 原田東岷, 飯田昭二, 藤井音次郎, エア・ポートレーン支配人登勝志, 広島市民無名氏, 福岡県立浮羽高等学校二年五組グループ代表野上美由貴, 岩手県釜石南高等学校社会研究部長佐藤三良, 藤井音次郎
48	989,405 円	13 件	広島木工製材機械協会会長金子堅一, 藤井音次郎, 大高美代, 岡儀造, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長山本弘之, 下田工業株式会社広島支店従業員代表支店長小野敏次, 原水爆禁止十日町市協議会書記長南雲藤平, 藤井音次郎他, 藤井音次郎, 岡正造, 藤井音次郎, 甚兵衛ボールガータスクラブ代表進藤芳樹, 藤井音次郎
49	1,308,166 円	11 件	渡辺ツルコ, 足門ミドリ, 日本高等学校教職員組合, 広島市内原爆被爆者, 原水爆禁止十日町市協議会, 藤井音次郎, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長木山八郎, 奥野ワカヨ, 広島市原爆被爆者, 市山律子, 上山しのぶ
50	1,459,743 円	11 件	坂本悦治, 乙井ミツエ, 愛媛県立南宇和高校生徒会顧問武田裕典, 広島市民被爆無名者, 広島第一劇場代表取締役吉田尚行, 広島木工製材機械協会会長金子堅一, 西部浩子, 日本高等学校教職員組合, 関が原石材労働組合中央執行委員長村瀬秀夫, 初倉利明, 西部浩子
51	1,381,674 円	4 件	広島鉄道管理局広島工場桂哲雄, 河野和夫, 日本高等学校教職員組合, 長崎正明
52	1,447,500 円	7 件	大山ミチ子, 松上年雄, 広島木工製材機械協会, 東京の一学生, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長斉藤啓夫, 清水由紀子, 高橋彰温
53	2,167,093 円	9 件	日本高等学校教職員組合中央執行委員長中川金作, 浜井澄人, 山口能弘, 荒木邦男, 山田春三, 府中農協病院植田繁男, 川村法人
54	1,614,294 円	2 件	日本高等学校教職員組合, 東洋工業 K.K. 監査部主管初倉誠
55	1,824,053 円	4 件	寺岡聖, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長金橋寿雄, 森崎利樹, 藤井幸子
56	1,401,185 円	4 件	高野慶子, 山口大学平和キャラバン隊, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長金橋寿雄, 巖利文
57	2,094,581 円	5 件	日本高等学校教職員組合中央執行委員長服部寛信, 山口大学ユネスコクラブ第 12 回平

年度	合計金額	件数	寄付者氏名
昭和 57			和キャラバン隊, 花田実男, 栃木県烏山女子高等学校三年一組一同, 大阪産業大学教職員有志によるチャリティーバザー実行委員会
58	1,891,894 円	6 件	大高美代, 京極春子, 山口大学ユネスコクラブ平和キャラバン隊, 原水爆禁止十日町市協議会長松井愛美, ゼンセン同盟十日町職労佐藤敬, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長森田忠夫
59	1,874,635 円	9 件	全日本宗教用具組合連合会, 大高美代, 大熊開市, 日本高等学校教職員組合中央執行委員長森田忠夫, 中野ツル工, 大熊開市, 大熊開市, 大熊開市, 大熊開市
60	1,608,193 円	12 件	大熊開市, 大熊開市, 大熊開市, 大熊開市, 大高美代, 日本高等学校教職員組合, 大熊開市, 大熊開市, 大熊開市, 大熊開市, 大熊開市, 大熊開市
61	3,179,364 円	11 件	大熊開市, 大熊開市, 松坂次男, 大熊開市, 大高美代, 日本生命中央営業部藤本勇他職員, 一匿名者, 日本高等学校教職員組合, 酒井真司, 山村智寿子, 新中央工業株式会社代表取締役本部長中西忠彦
62	1,585,199 円	5 件	財団法人多山報恩会, 大高美代, さくらタクシー社長藤谷源市, 日本高等学校教職員組合, 匿名者
63	1,578,550 円	6 件	森田長昭, 匿名者, 大高美代, 日本高等学校教職員組合, 紀州アート株式会社, 匿名者
平成元	1,879,770 円	5 件	藤原雄, 広島木工製材機械協会会長前田静正, 大高美代, 日本高等学校教職員組合, 柘植正
2	1,916,600 円	5 件	柘植好江, 石田ヒサ子, 藏本淳, 大高美代, 日本高等学校教職員組合
3	1,591,500 円	2 件	大高美代, 日本高等学校教職員組合
4	1,617,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
5	1,487,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
6	1,935,000 円	4 件	日本高等学校教職員組合, 縁生の友の会, 中尾隆, 向井幸枝
7	1,480,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
8	1,995,000 円	6 件	日本高等学校教職員組合, 津川弘道, 田中文枝, 松坂紘一郎, 茅原春夫, 前田千代子
9	3,200,000 円	5 件	日本高等学校教職員組合, 高原義明, 杉本純雄, 伊藤文明, 伊藤千賀子
10	1,435,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
11	1,595,000 円	3 件	日本高等学校教職員組合, 原田義弘, 毛利佳代子
12	1,300,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
13	1,270,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
14	1,210,000 円	3 件	日本高等学校教職員組合, 藤岡マツエ, 山田ツユ子, 国会職員組合連合会
15	6,135,000 円	3 件	日本高等学校教職員組合, 国原 浩, 国会職員組合連合会
16	970,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
17	1,281,033 円	3 件	日本高等学校教職員組合, 国会職員組合連合会, 第 27 回日本健康増進学会

## 8 核兵器禁止平和建設国民会議からの寄贈物品

(単位：円)

年 度	寄 贈 物 品	評 価 額
昭和 44	和文タイプライター3台、自動裁断機1台、カラーテレビ1台、	460,000
45	毛糸編機6台、ラジオ1台	292,000
46	カラーテレビ1台、長イス11脚	237,000
47	フィルム保管庫5台	125,000
49	フィルム格納庫9台	251,000
50	スロンブエラストグラフ1台、毛糸編機4台	1,750,000
52	顕微鏡1台、毛糸編機3台	442,000
53	胃カメラ1台	1,210,000
54	気管支ファイバースコープ1台	1,300,000
55	眼底カメラ1式	1,385,000
56	ガストロファイバースコープ1台	1,500,000
57	ガストロファイバースコープ1台	1,313,500
58	大腸ファイバースコープ1台	1,411,000
59	気管支ファイバースコープ1台	1,115,000
60	オートプロジェクター1台、内視鏡格納棚1台、吸引器1台	915,000
61	ガストロファイバースコープ1台	1,300,000
62	顕微鏡2台	1,009,000
63	超音波診断装置備品	1,044,000
平成元	顕微鏡1台	1,510,000
3	全自動身長体重計	708,000
5	体内脂肪計一式、吸引器、検眼鏡1組、パルスオキシメーター1台	958,106
6	体内脂肪計一式、インターバル・パワートレーニング・マシーン	826,825
7	造影剤遠隔注排装置一式	1,000,000
8	血圧監視装置、視力表照明装置	994,980
9	酸化電位水生成機	875,000
10	ホルター自動連続血圧計、エルゴメーター、マイクロチューブ用遠心機	907,370
12	自動グルコース測定装置	1,500,000
14	上部消化管用スコープ	1,491,000
16	全自動グルコース測定装置	1,250,000
	合 計	29,080,781

ただし、平成6年度以降は、核兵器禁止平和建設国民会議が広島市に寄贈した物品を、同市から貸与されたものである。

## 9 日本労働組合総連合会広島県連合会

年 度	寄 贈 物 品	評 価 額
平成 10	気管支ファイバースコープ1組、高周波焼灼電源装置1台	2,477,916
13	自動赤血球沈降速度測定機1台 赤沈管100本	1,839,915
15	下部消化管用細径スコープ1本、カラービデオプリンター1台	3,200,400
	合 計	7,518,231

事業概要 平成 18 年 ( 2006 年 )

---

---

財団法人 広島原爆障害対策協議会  
( 略称 : 広島原対協 )

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目 8 番 6 号  
広島市総合健康センター内

TEL 082-243-2451 ( 代表 )

FAX 082-241-0414

URL <http://www.gentaikyo.or.jp/>

---

---